

障害者（児）実態・意向調査の結果について

1 目的

令和5年度に、令和6年度から令和8年度までの3年間を計画期間とした障害者・児計画を策定するに当たり、その基礎資料を得るとともに、障害者・児のサービス利用状況・希望及び障害福祉サービス等事業所の現状を把握するため、実態調査を実施。

2 調査対象者及び調査方法

本調査では、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、障害児、区内障害福祉サービス等事業所及び都内長期入院施設を対象とした量的調査（アンケート調査）と、区内等の障害福祉サービス等事業所を利用する知的障害者及び精神障害者を対象とした質的調査（インタビュー調査）を実施。

3 調査の内容

(1) 量的調査（アンケート調査）

- ① 在宅の方を対象とした調査
- ② 18歳未満の方を対象とした調査
- ③ 施設に入所している方を対象とした調査
- ④ サービス事業所を対象とした調査
- ⑤ 長期入院施設を対象とした調査

(2) 質的調査（インタビュー調査）

属性、日中及び施設での楽しみ、余暇の過ごし方、相談相手、区サービスの利用状況、地域との交流、将来の希望等をグループ・インタビューによって聞き取り

4 実施時期

(1) 量的調査（アンケート調査）

令和4年10月3日～令和4年10月31日

(2) 質的調査（インタビュー調査）

令和4年8月～令和4年12月

5 回収状況及び実施結果

(1) 量的調査（アンケート調査）回収状況

① 区民向け調査

調査の種類	配布数	有効回収数	有効回収率
在宅の方	5,087	2,000	39.3%
18歳未満の方	878	350	39.9%
施設に入所している方	143	85	59.4%
計	6,108	2,435	

② サービス等事業所向け調査

調査の種類	配布数	有効回収数	有効回収率
サービス事業所	95	73	76.8%

③ 長期入院施設向け調査

調査の種類	配布数	有効回収数	有効回収率
長期入院施設	65	53	81.5%

(2) 質的調査（インタビュー調査）

施設（17か所）の利用者94名に対して実施

6 調査結果

別紙のとおり

文京区障害者(児)実態・意向調査結果の報告

目 次

◆ 調査の概要	1
◆ 量的調査(アンケート調査)	1
○ 在宅の方を対象にした調査	3
○ 18歳未満の方を対象にした調査	25
○ 施設入所の方を対象にした調査	37
○ サービス事業所を対象にした調査	43
○ 長期入院施設を対象にした調査	49
◆ 質的調査(インタビュー調査)	53

1 調査の概要

1 調査の目的

文京区では障害者及び障害児がいきいきと自分らしく、健康で自立した生活を営めるよう、「文の京^{ふみ みやこ}ハートフルプラン 文京区地域福祉保健計画 障害者・児計画」に基づき、障害福祉施策を推進しています。

令和5年度に次期障害者・児計画（令和6年度～令和8年度）を策定するに当たり、障害者・児の方々の日常生活の実態、サービスの利用状況や希望等を把握して基礎資料とするため、実態・意向調査を実施しました。

また、区内の障害福祉サービス等事業所を対象に事業所の運営状況や福祉人材の現状を把握するとともに、都内の医療機関における区民の長期入院患者の状況を把握することで、今後の障害福祉サービス等の基盤整備に資するための基礎資料とします。

2 調査の対象と調査方法

本調査では、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、18歳未満の方、区内障害福祉サービス等事業所及び都内長期入院施設を対象とした量的調査（アンケート調査）並びに区内施設等を利用する知的障害者及び精神障害者を対象とした質的調査（インタビュー調査）の2種類を実施しました。

2 量的調査(アンケート調査)

1 調査の種類

調査の種類	対象者
在宅の方	文京区内に居住し、以下に該当する方 ・身体障害者手帳をお持ちの18歳以上の方 （肢体不自由、内部障害は無作為抽出、その他の障害は全数） ・愛の手帳をお持ちの18歳以上の方（全数） ・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの18歳以上の方（全数） ・難病医療券をお持ちの18歳以上の方（全数）
18歳未満の方	文京区内に居住し、以下に該当する方 ・身体障害者手帳をお持ちの18歳未満の方 ・愛の手帳をお持ちの18歳未満の方 ・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの18歳未満の方 ・難病医療券をお持ちの18歳未満の方 ・障害児通所支援受給者証をお持ちの18歳未満の方
施設に入所している方	・身体障害者手帳、愛の手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちで、文京区が支給決定した施設入所支援及び療養介護のサービスをご利用中の18歳以上の方
サービス事業所	・文京区内の指定障害福祉サービス等事業所
長期入院施設	・東京都内の長期入院施設(医療機関)

2 調査方法

調査票を郵送配布し、郵送又はインターネットにより回収する方式で実施しました。

3 調査期間

令和4年10月3日～10月31日

4 配布・回収状況

調査の種類	配布数	有効回収票数	有効回収率
在宅の方	5,087	2,000	39.3%
18歳未満の方	878	350	39.9%
施設に入所している方	143	85	59.4%
サービス事業所	95	73	76.8%
長期入院施設	65	53	81.5%
合計	6,268	2,561	40.9%

(注)

- ・選択肢の多い設問の障害の種類別の表については、一部選択肢を抜粋しているものがあります。
- ・「在宅の方調査」の身体障害、知的障害、精神障害、難病（特定疾病）の合計は、重複障害者が含まれているため全体の回答者数と一致しません。
- ・「長期入院施設用の調査」については、65か所の病院に対して、調査票を配付し、53か所の病院から調査票の回答がきています。分析では、長期入院者がいない病院を除き、48人の長期入院患者の情報を集計しています。

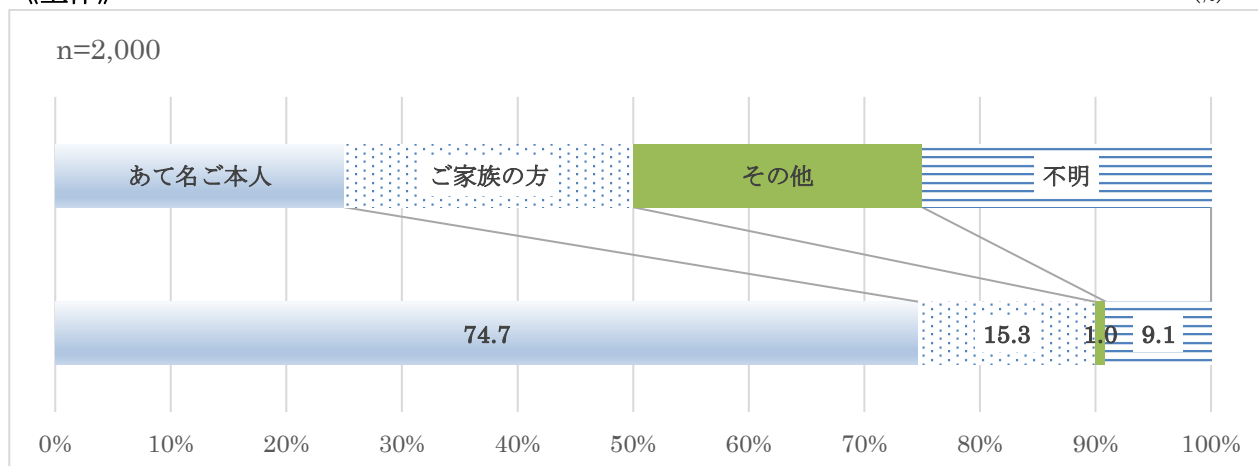
3 在宅の方を対象にした調査

1 対象者特性

(1-1) 回答者（問1）

《全体》

(%)



回答者については、「あて名ご本人」が74.7%、「ご家族の方」が15.3%となっています。

《障害の種類別》

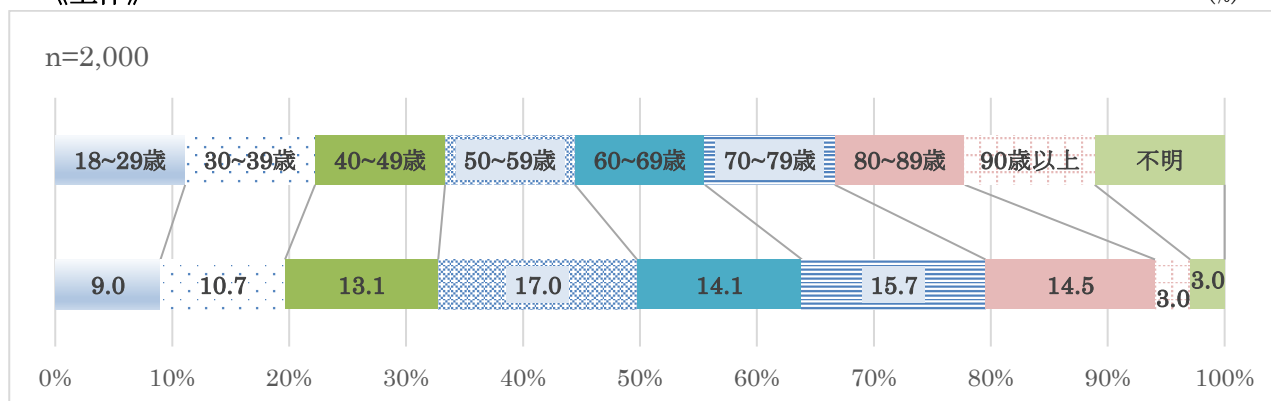
(%)

	合計	あて名ご本人	ご家族の方	その他	不明
肢体不自由	283	66.1	20.1	1.1	12.7
音声・言語・ そしゃく機能障害	77	45.5	44.2	0.0	10.4
視覚障害	144	65.3	24.3	2.1	8.3
聴覚・平衡 機能障害	146	69.9	19.9	0.7	9.6
内部障害	278	75.9	11.5	0.0	12.6
知的障害	231	32.5	55.0	3.9	8.7
発達障害	187	66.8	25.7	0.5	7.0
精神障害	464	80.2	9.3	0.4	10.1
高次脳機能障害	44	47.7	36.4	2.3	13.6
難病（特定疾病）	632	83.4	8.7	0.8	7.1
その他	35	77.1	17.1	2.9	2.9

障害別の回答者は、「知的障害」のみ「ご家族の方」が55.0%と最も多く、それ以外は、「あて名ご本人」が最も多くなっています。

(1-2) 年齢 (問2)
《全体》

(%)



年齢については、「50~59歳」が17.0%と最も多くなっており、次いで「70~79歳」が15.7%、「80~89歳」が14.5%となっています。

《障害の種類別》

(%)

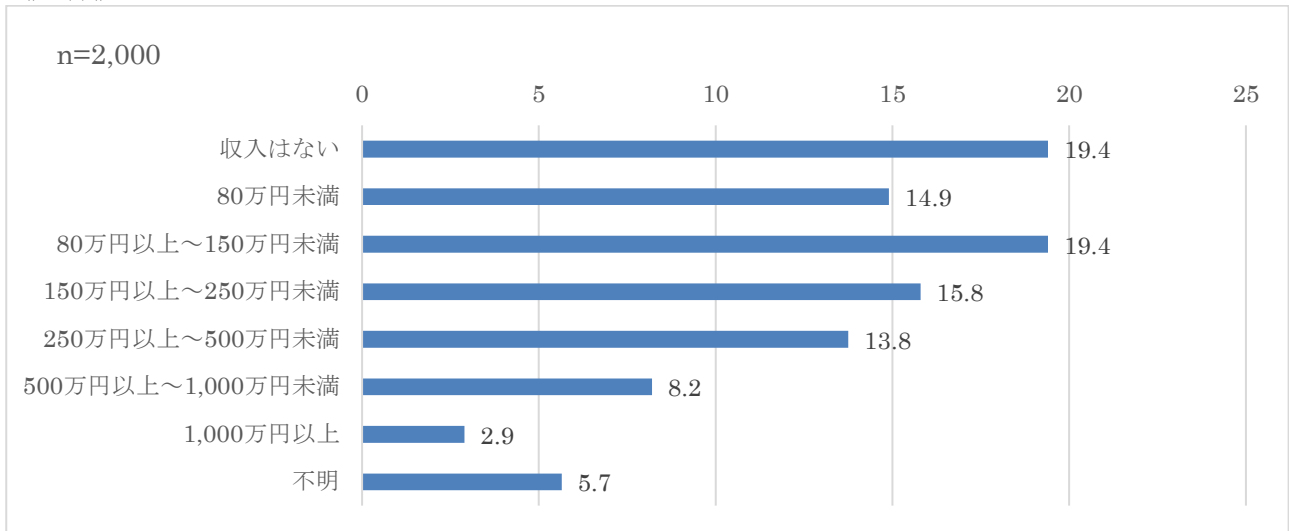
	合計	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80~89歳	90歳以上	不明
肢体不自由	283	2.1	4.9	6.0	12.4	12.7	26.1	26.9	6.7	2.1
音声・言語・そしゃく機能障害	77	9.1	1.3	3.9	14.3	14.3	28.6	23.4	1.3	3.9
視覚障害	144	6.9	6.3	13.2	10.4	16.7	17.4	20.1	6.9	2.1
聴覚・平衡機能障害	146	4.8	6.2	7.5	2.7	13.7	11.6	36.3	13.7	3.4
内部障害	278	2.5	3.6	6.1	12.6	14.0	22.7	29.5	6.1	2.9
知的障害	231	36.4	21.6	14.7	14.7	4.8	3.0	1.3	0.4	3.0
発達障害	187	38.0	26.7	15.0	9.1	6.4	0.5	0.0	0.0	4.3
精神障害	464	8.2	15.7	20.9	28.7	15.3	5.6	1.9	0.0	3.7
高次脳機能障害	44	4.5	4.5	13.6	22.7	13.6	13.6	15.9	2.3	9.1
難病(特定疾病)	632	4.0	7.6	12.7	21.4	17.9	18.8	13.9	1.6	2.2
その他	35	11.4	14.3	5.7	17.1	8.6	22.9	14.3	2.9	2.9

障害別の年齢は、「知的障害」と「発達障害」は「18~29歳」、「精神障害」、「高次脳機能障害」、「難病(特定疾病)」は「50~59歳」、それ以外は「70~79歳」、「80~89歳」が最も多くなっています。

(1-3) 年収 (問3)

《全体》

(%)

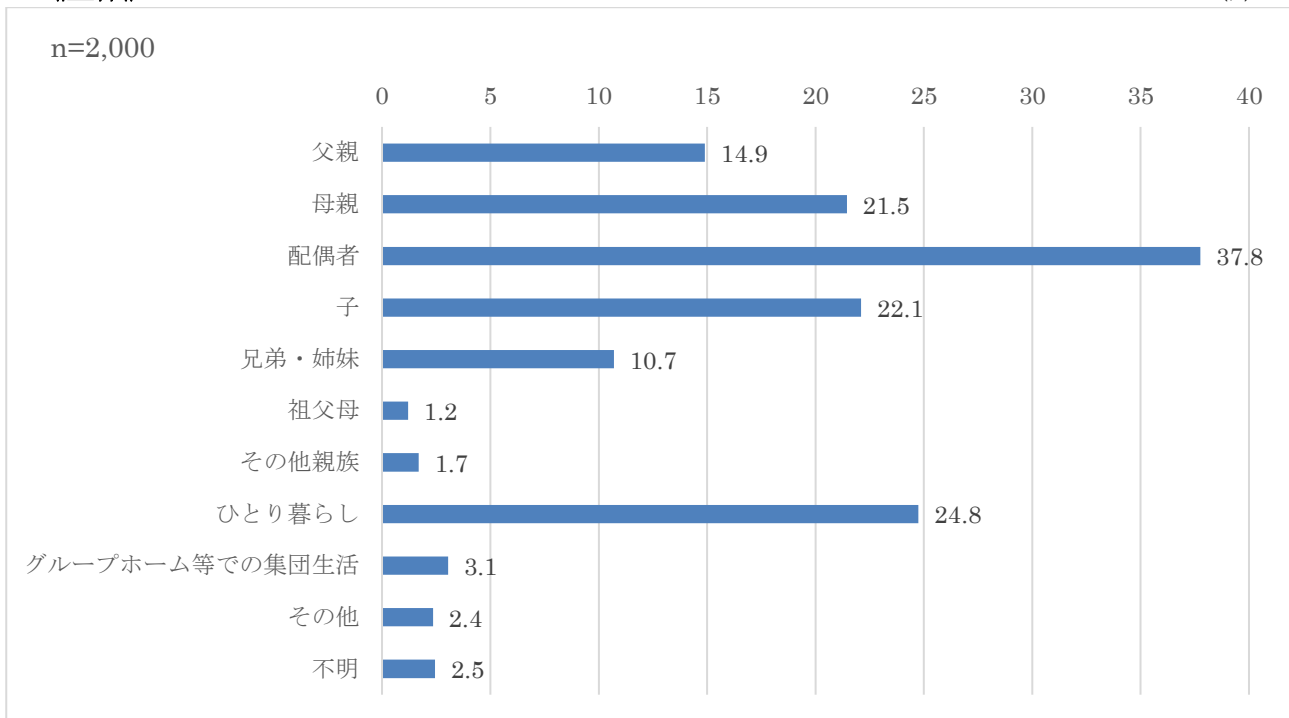


本人の収入については、「80万円以上～150万円未満」と「収入はない」が19.4%と最も多く、150万円未満が全体の過半数を超えています。

(1-4) 同居家族 (問5)

《全体》

(%)



同居家族については、「配偶者」が37.8%と最も多く、次いで「ひとり暮らし」が24.8%、「子」が22.1%と続いています。

《障害の種類別》抜粋

(%)

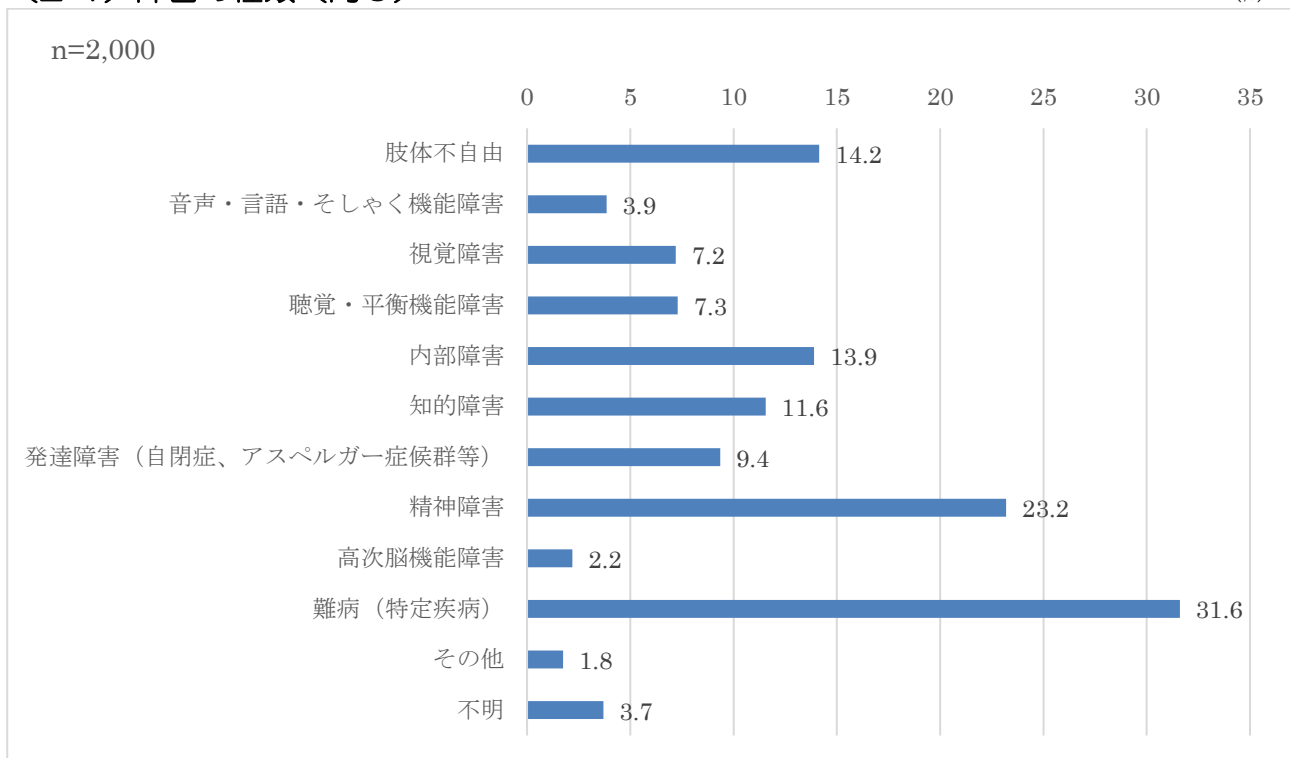
	合計	父親	母親	配偶者	子	兄弟・姉妹	ひとり暮らし	グループホーム等での集団生活
肢体不自由	283	9.9	13.1	42.8	29.0	4.9	24.7	3.5
音声・言語・そしゃく機能障害	77	16.9	20.8	40.3	16.9	18.2	15.6	7.8
視覚障害	144	10.4	14.6	41.7	21.5	7.6	27.1	3.5
聴覚・平衡機能障害	146	7.5	10.3	37.7	29.5	4.8	27.4	2.1
内部障害	278	4.3	7.6	50.7	30.2	4.0	24.8	1.1
知的障害	231	56.3	74.5	3.0	1.3	39.4	3.0	14.3
発達障害	187	43.9	55.6	8.0	4.8	28.9	23.5	3.2
精神障害	464	19.2	26.9	23.9	14.0	11.0	33.0	2.8
高次脳機能障害	44	18.2	27.3	43.2	20.5	9.1	15.9	0.0
難病(特定疾病)	632	6.6	11.2	53.0	28.2	6.5	25.3	0.8
その他	35	11.4	14.3	40.0	20.0	2.9	28.6	5.7

障害別の同居家族は、「知的障害」と「発達障害」では、「母親」、「精神障害」では、「ひとり暮らし」、それ以外では「配偶者」が最も多くなっています。

2 障害と健康について

(2-1) 障害の種類 (問6)

(%)

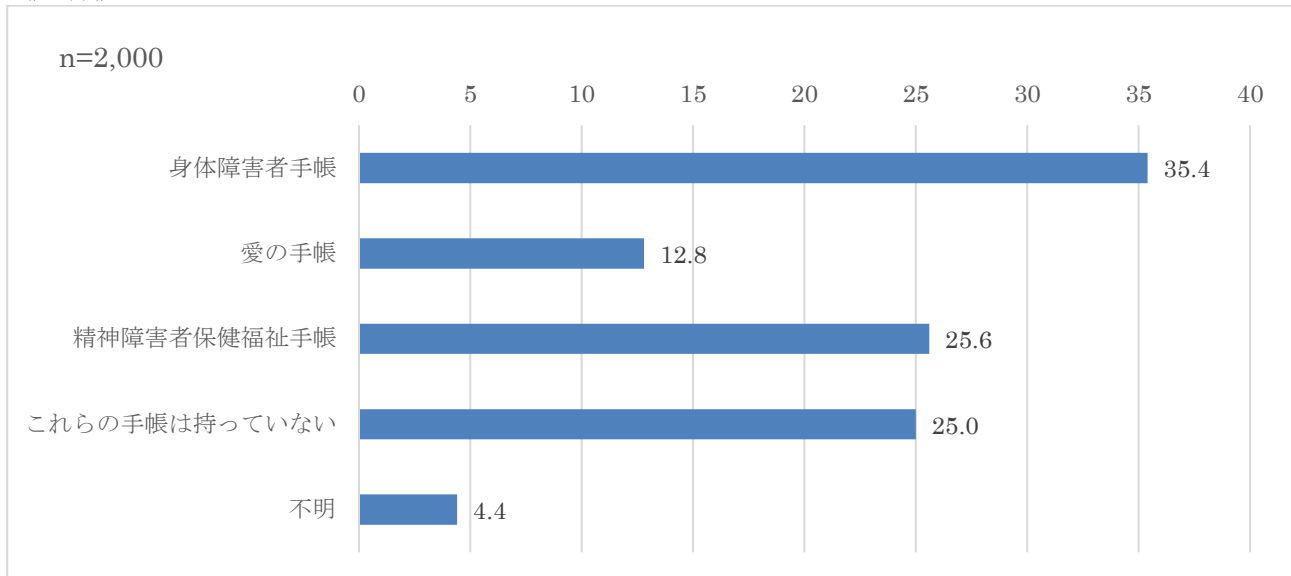


障害の種類については、「難病」が31.6%と最も多く、次いで「精神障害」が23.2%、「肢体不自由」が14.2%と続いています。

(2-2) 手帳の所持状況 (問7)

《全体》

(%)

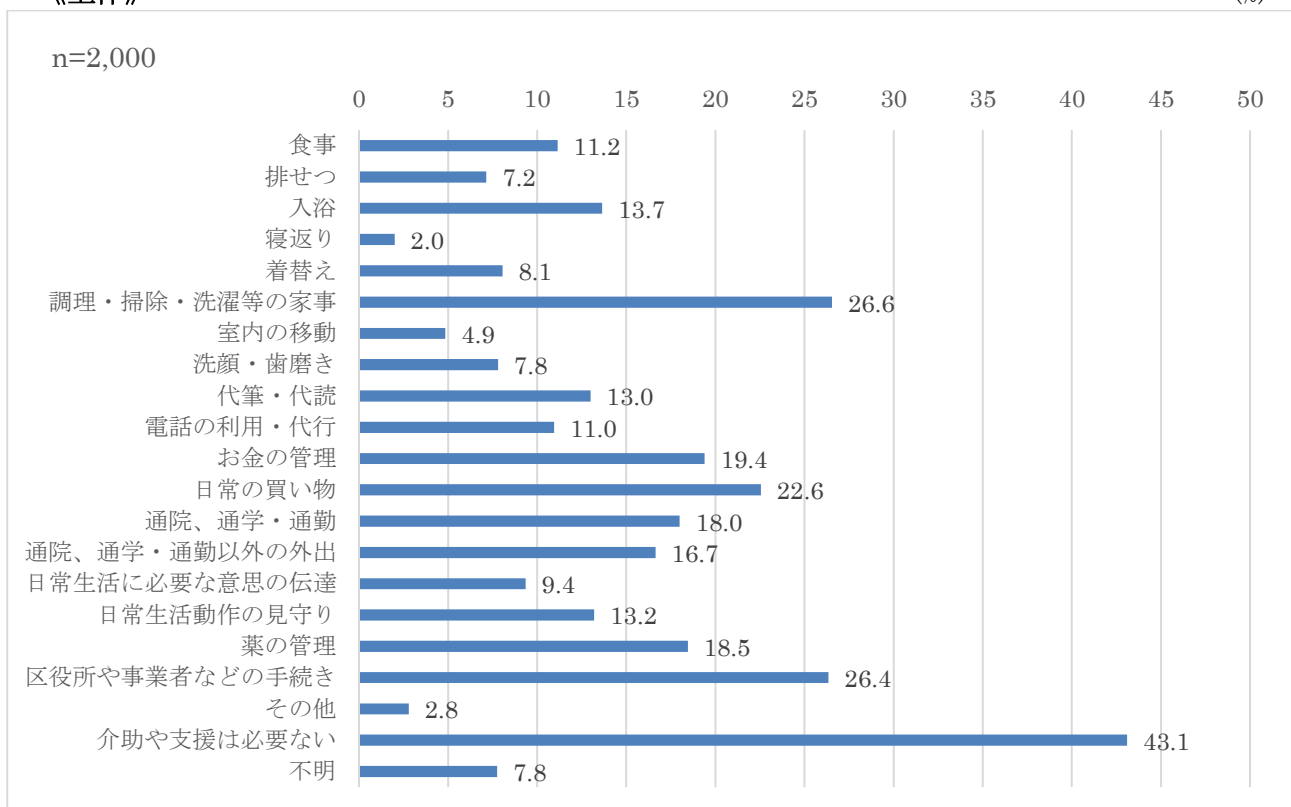


手帳の所持状況については、「身体障害者手帳」が35.4%と最も多く、次いで「精神障害者保健福祉手帳」が25.6%、「愛の手帳」が12.8%となっています。一方、「これらの手帳は持っていない」は25.0%となっています。

(2-3) 日常生活に必要な介助・支援 (問12)

《全体》

(%)



日常生活に必要な介助・支援については、「調理・掃除・洗濯等の家事」が26.6%で最も多く、「区役所や事業者などの手続き」が26.4%でこれに次いでいます。一方、「介助や支援は必要ない」は43.1%となっています。

《障害の種類別》抜粋

(%)

	合計	食事	入浴	調理・掃除・洗濯等の家事	室内の移動	代筆・代読	電話の利用・代行	お金の管理
肢体不自由	283	21.6	32.5	44.2	14.1	18.0	14.5	22.3
音声・言語・そしゃく機能障害	77	31.2	46.8	45.5	26.0	41.6	45.5	42.9
視覚障害	144	13.9	14.6	25.7	7.6	42.4	13.9	22.2
聴覚・平衡機能障害	146	11.0	17.8	27.4	8.9	14.4	32.2	17.1
内部障害	278	11.2	15.1	25.2	6.8	8.6	5.8	11.2
知的障害	231	28.1	31.2	60.2	6.1	43.3	38.1	71.0
発達障害	187	12.8	15.5	40.6	1.6	19.3	18.2	44.4
精神障害	464	9.9	8.4	29.1	1.7	5.4	5.4	19.0
高次脳機能障害	44	25.0	34.1	54.5	15.9	31.8	27.3	45.5
難病(特定疾病)	632	7.8	11.1	16.9	6.3	7.8	4.6	8.9
その他	35	17.1	20.0	31.4	14.3	20.0	11.4	25.7

	合計	日常の買い物	通院、通学・通勤	通院、通学・通勤以外の外出	日常生活に必要な意思伝達	薬の管理	区役所や事業者などの手続	介助や支援は必要ない
肢体不自由	283	38.9	30.4	29.0	9.9	25.1	36.0	25.1
音声・言語・そしゃく機能障害	77	44.2	40.3	37.7	31.2	39.0	54.5	13.0
視覚障害	144	38.2	29.2	29.9	7.6	17.4	41.7	25.7
聴覚・平衡機能障害	146	25.3	18.5	11.6	13.0	18.5	33.6	28.8
内部障害	278	22.3	15.1	10.8	4.3	14.4	20.1	47.5
知的障害	231	51.9	48.1	51.1	39.8	56.3	74.9	10.8
発達障害	187	29.4	22.5	28.9	23.5	28.9	46.5	28.9
精神障害	464	19.2	14.4	14.4	8.0	19.4	22.8	37.1
高次脳機能障害	44	43.2	34.1	38.6	27.3	34.1	61.4	13.6
難病(特定疾病)	632	16.3	13.1	10.4	2.8	11.1	15.3	62.3
その他	35	31.4	25.7	20.0	25.7	25.7	34.3	28.6

障害別の日常生活に必要な介助や支援については、「知的障害」や「発達障害」等では「区役所や事業所などの手続」が最も多くなっています。

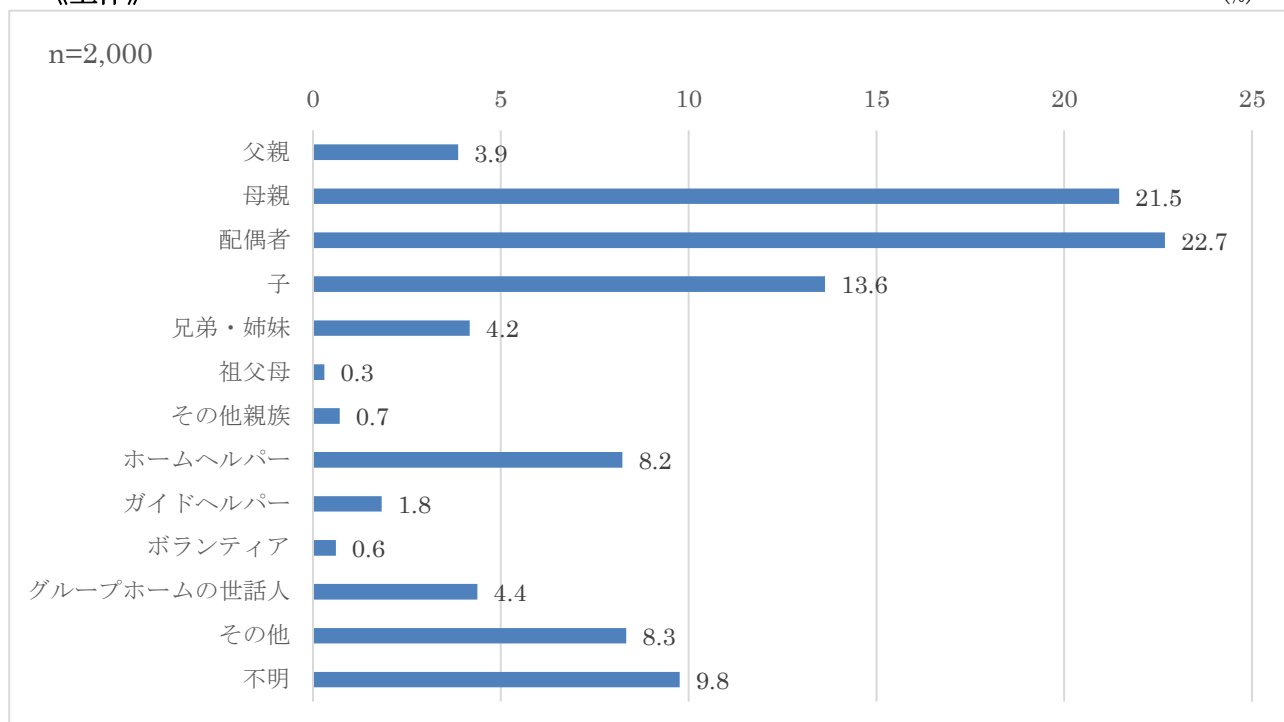
また、「視覚障害」では「代筆・代読」が最も多くなっています。

一方、「難病」や「精神障害」では、「介助や支援は必要ない」が最も多くなっています。

(2-4) 主な介助者 (問 13)

《全体》

(%)

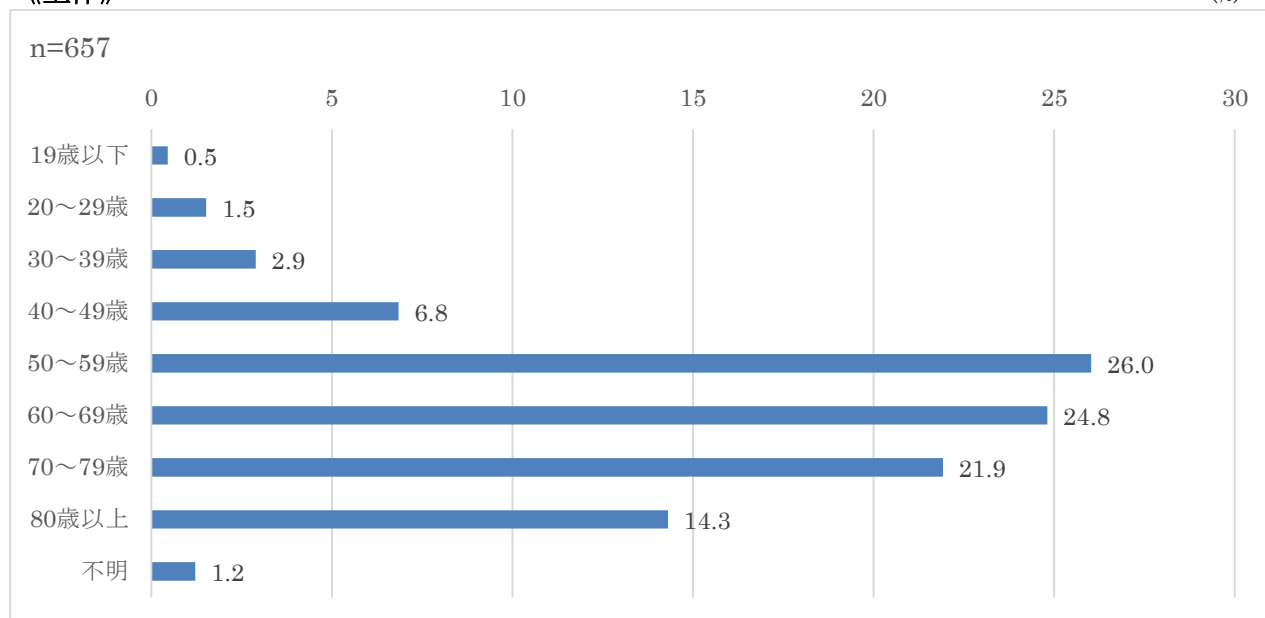


主な介助者については、「配偶者」が22.7%で最も多く、次いで「母親」が21.5%、「子」が13.6%となっています。

(2-5) 主な介助者の年齢 (問 13-1)

《全体》

(%)

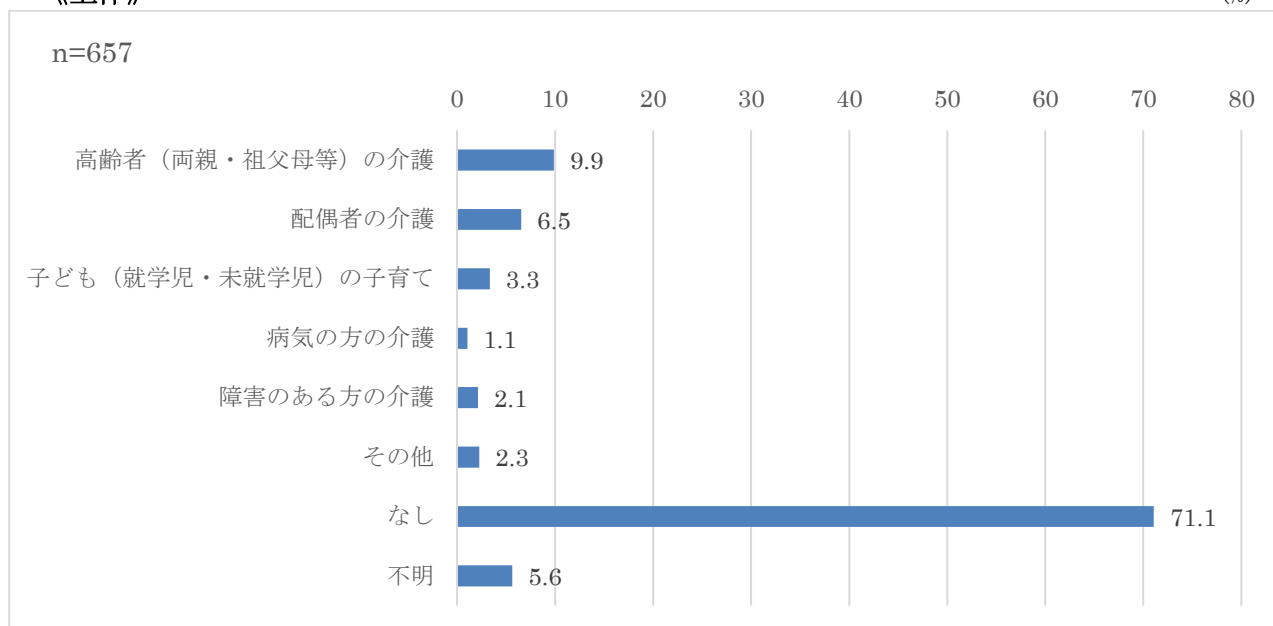


主な介助者・支援者の年齢は、「50~59歳」が26.0%で最も多く、次いで「60~69歳」が24.8%、「70~79歳」が21.9%となっています。

(2-6) 主な介助者による介助状況 (問 14)

《全体》

(%)



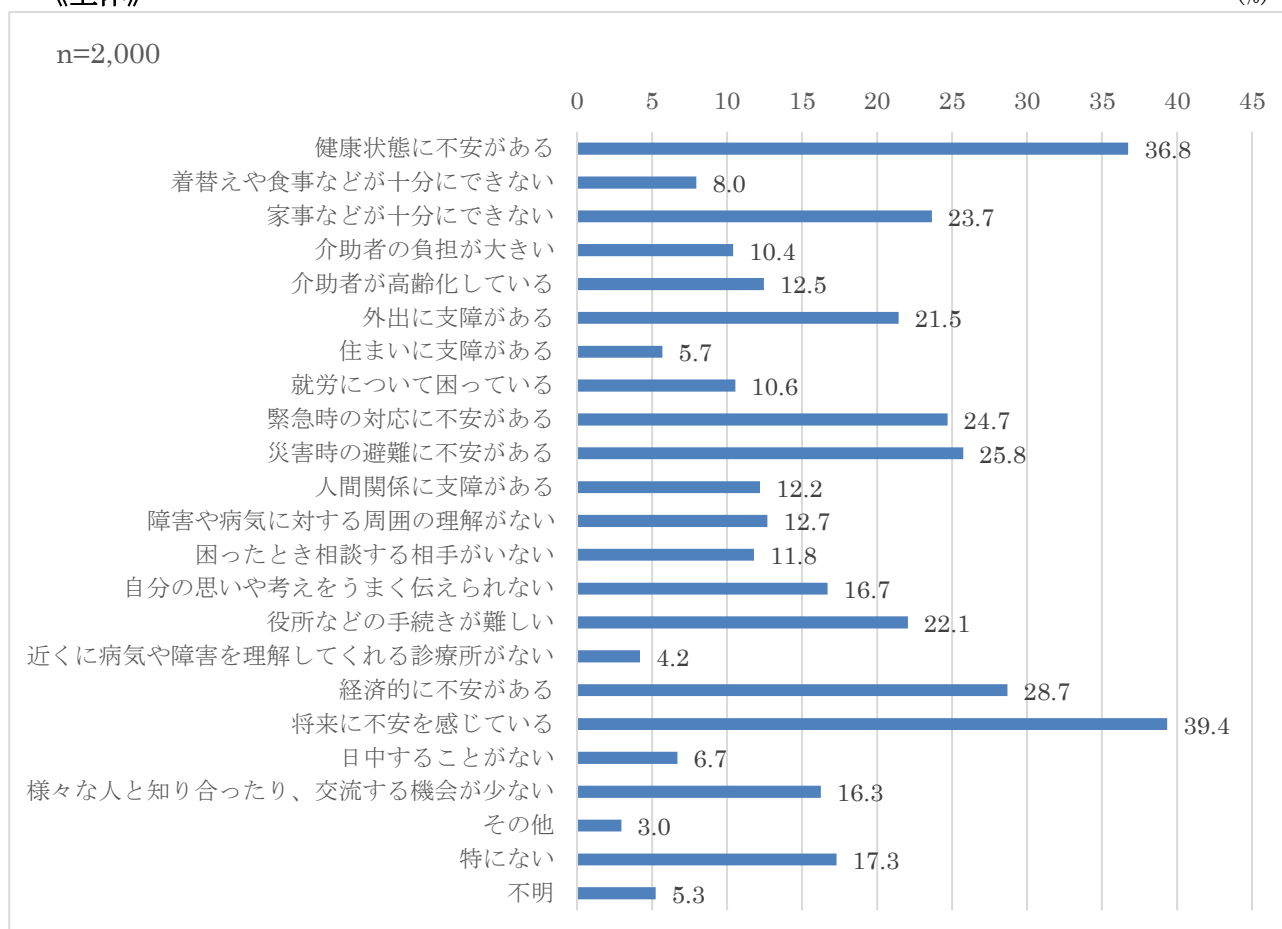
主な介助者による対象者以外の介助状況については、「なし」が71.1%と最も多く、次いで「高齢者（両親・祖父母等）の介護」が9.9%、「配偶者の介護」が6.5%となっています。

3 相談や福祉の情報について

(3-1) 日常生活で困っていること (問 16)

《全体》

(%)



日常生活で困っていることをみると、「将来に不安を感じている」(39.4%)、「健康状態に不安がある」(36.8%)が4割近くと、特に多くなっています。

《障害の種類別》 抜粋

(%)

	合計	健康状態に不安がある	着替えや食事などが十分にできない	家事などが十分にできない	外出に支障がある	緊急時の対応に不安がある	災害時の避難に不安がある	人間関係に支障がある
肢体不自由	283	42.0	15.5	35.0	34.3	32.9	39.2	3.5
音声・言語・そしゃく機能障害	77	42.9	22.1	37.7	37.7	42.9	51.9	6.5
視覚障害	144	31.3	11.1	29.9	38.9	31.3	37.5	4.9
聴覚・平衡機能障害	146	34.9	9.6	20.5	21.9	42.5	44.5	8.2
内部障害	278	45.0	8.3	20.9	20.9	23.7	25.5	4.0
知的障害	231	19.9	16.0	42.9	32.9	44.6	42.0	26.8
発達障害	187	31.6	12.3	35.3	21.4	35.3	29.4	39.6
精神障害	464	49.1	7.8	29.3	21.6	25.4	22.0	28.4
高次脳機能障害	44	40.9	15.9	50.0	45.5	38.6	40.9	11.4
難病(特定疾病)	632	41.8	6.8	17.9	19.0	19.3	22.5	1.7
その他	35	42.9	11.4	25.7	28.6	31.4	31.4	22.9

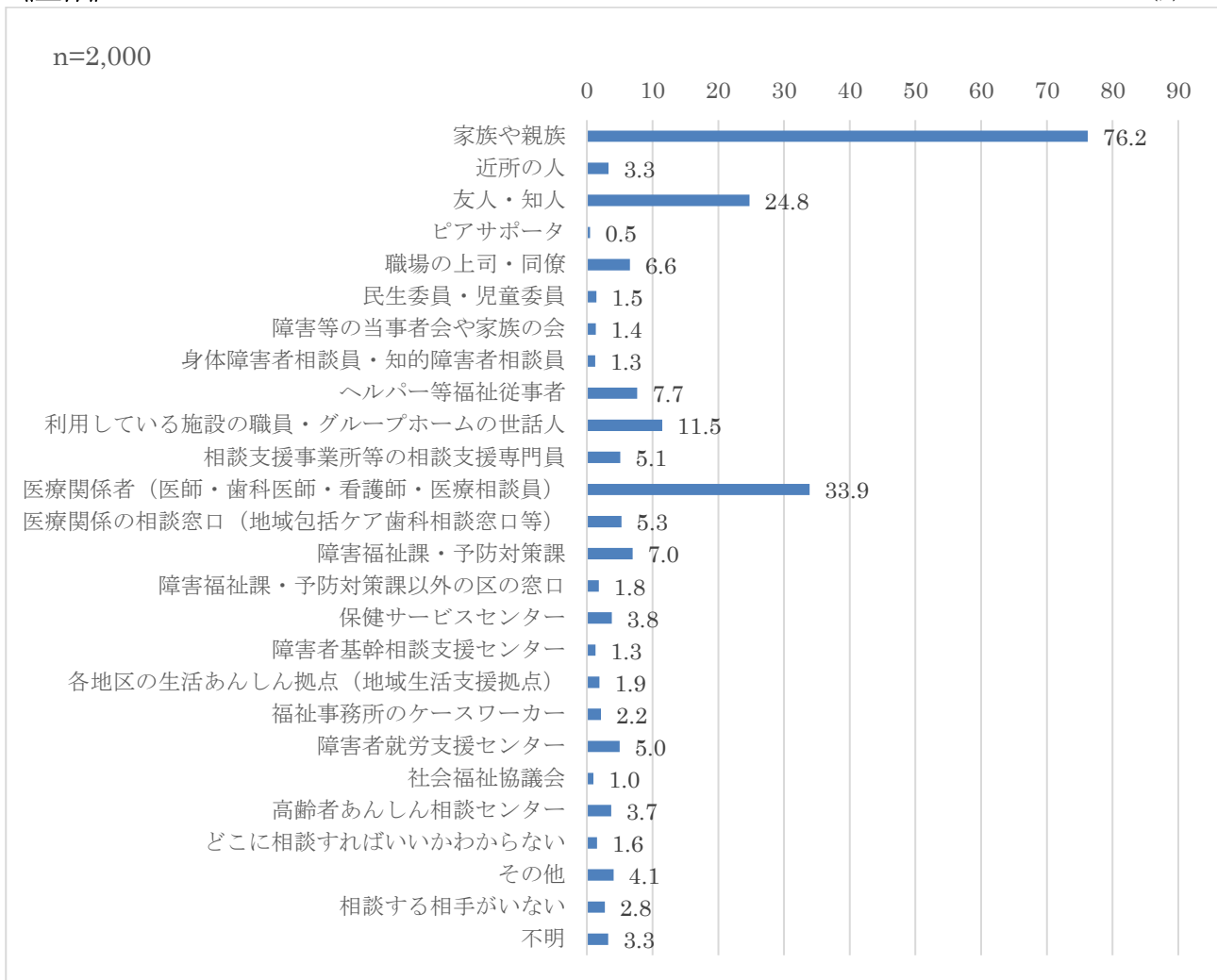
	合計	障害や病気に対する周囲の理解がない	困ったとき相談する相手がいない	自分の思いや考えをうまく伝えられない	役所などの手続きが難しい	経済的に不安がある	将来に不安を感じている	様々な人と知り合ったり、交流する機会が少ない
肢体不自由	283	6.7	8.5	11.0	23.0	23.3	39.6	13.8
音声・言語・そしゃく機能障害	77	11.7	13.0	41.6	33.8	28.6	40.3	18.2
視覚障害	144	9.7	9.7	11.8	29.9	20.8	41.7	16.7
聴覚・平衡機能障害	146	13.0	7.5	12.3	23.3	23.3	32.9	17.8
内部障害	278	7.9	7.2	6.5	14.4	20.1	30.2	10.4
知的障害	231	15.2	16.5	51.5	52.4	28.6	45.5	24.7
発達障害	187	33.2	27.8	52.4	39.6	43.9	57.8	32.1
精神障害	464	26.7	24.1	24.1	24.8	53.2	58.2	28.0
高次脳機能障害	44	11.4	18.2	45.5	52.3	38.6	47.7	22.7
難病(特定疾病)	632	8.2	7.1	5.2	14.7	22.8	33.2	9.0
その他	35	28.6	25.7	25.7	34.3	42.9	54.3	20.0

障害別の日常生活で困っていることは、「精神障害」や「発達障害」等では、「将来に不安を感じている」が最も多く、「知的障害」等では、「役所などの手続きが難しい」が最も多くなっています。また、「内部障害」や「難病」では「健康状態に不安がある」が最も多く、「聴覚・平衡機能障害」等では「災害時の避難に不安がある」が最も多くなっています。

(3-2) 困った時の相談相手 (問 17)

《全体》

(%)



困ったときの相談相手は、「家族や親族」(76.2%)と特に多くなっています。

《障害の種類別》抜粋

(%)

	合計	家族や親族	近所の人	友人・知人	職場の上 司・同僚	民生委 員・児童 委員	ヘルパー 等福祉 従事者	利用施設 の職員・ グループ ホームの 世話人
肢体不自由	283	76.3	5.3	22.3	3.9	2.8	15.2	12.7
音声・言語・そ しゃく機能障害	77	79.2	3.9	14.3	3.9	2.6	15.6	27.3
視覚障害	144	75.0	4.2	28.5	6.3	2.8	11.8	6.9
聴覚・平衡 機能障害	146	80.8	6.2	22.6	3.4	5.5	14.4	8.9
内部障害	278	77.7	4.3	27.3	1.8	3.2	8.3	4.0
知的障害	231	83.5	1.3	10.8	13.9	0.4	4.3	48.9
発達障害	187	76.5	2.7	19.3	17.6	1.6	3.7	22.5
精神障害	464	65.1	1.1	26.7	6.7	0.9	6.9	12.3
高次脳機能障害	44	84.1	0.0	20.5	6.8	2.3	22.7	20.5
難病 (特定疾病)	632	80.1	3.5	26.9	6.0	0.3	8.9	4.1
その他	35	57.1	5.7	17.1	5.7	8.6	8.6	11.4

	合計	相談支援事業所等の相談支援専門員	医療関係者（医師・歯科医師等）	障害福祉課・予防対策課	障害者基幹相談支援センター	各地区の地域生活支援拠点	障害者就労支援センター	相談する相手がない
肢体不自由	283	3.9	31.4	4.9	0.7	2.5	1.4	1.1
音声・言語・そしゃく機能障害	77	10.4	33.8	5.2	3.9	1.3	1.3	2.6
視覚障害	144	2.8	19.4	9.7	2.8	1.4	2.8	4.9
聴覚・平衡機能障害	146	4.8	26.7	8.9	1.4	3.4	4.8	2.7
内部障害	278	2.9	34.5	6.1	1.1	3.2	1.4	2.2
知的障害	231	14.3	16.5	12.6	6.1	3.0	10.4	0.4
発達障害	187	13.4	39.0	12.8	4.8	2.1	21.9	4.3
精神障害	464	9.3	46.3	10.1	2.4	2.8	10.6	5.2
高次脳機能障害	44	9.1	29.5	11.4	2.3	4.5	4.5	2.3
難病（特定疾病）	632	2.1	40.7	3.2	0.6	1.1	0.9	2.1
その他	35	17.1	31.4	11.4	5.7	5.7	8.6	5.7

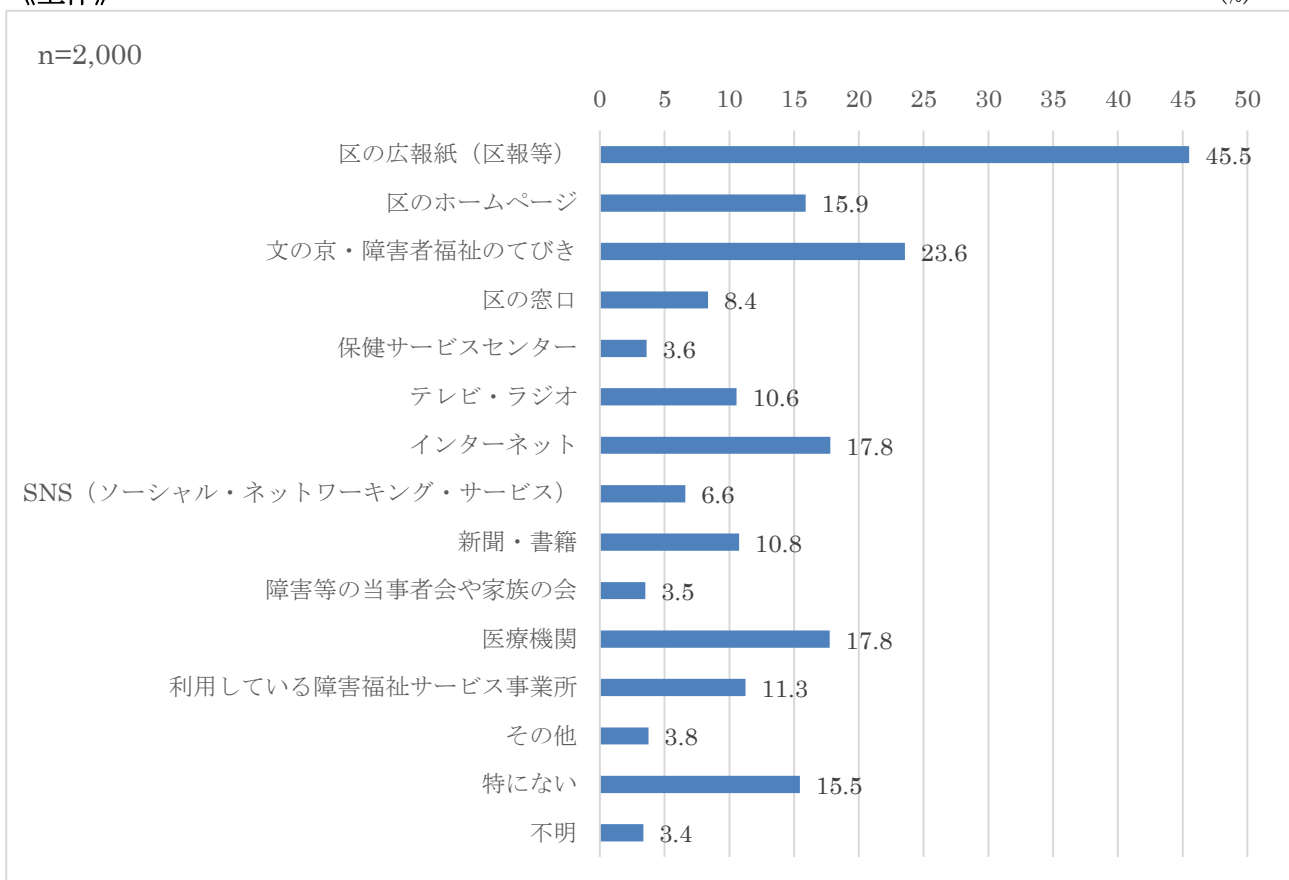
障害別の困った時の相談相手は、全ての障害で「家族や親族」が最も多くなっています。

また、「知的障害」では他の障害と比較して、「利用施設の職員・グループホームの世話人」が多く、精神障害では「医療関係者」の割合が多くなっています。

(3-3) 福祉に関する情報の入手先（問 18）

《全体》

(%)

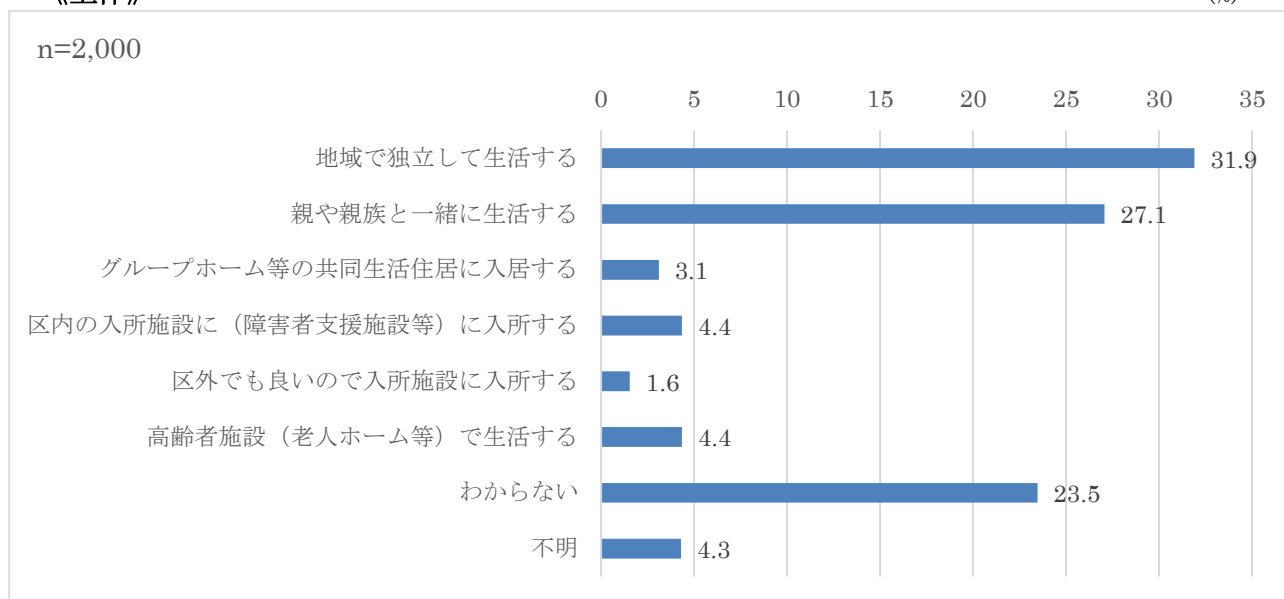


福祉に関する情報の入手先は、「区の広報誌（区報等）」（45.5%）、「文の京・障害者福祉のてびき」（23.6%）が特に多くなっています。

(3-4) 今後希望する生活 (問 19)

《全体》

(%)



今後希望する生活については、「地域で独立して生活する」(31.9%)、「親や親族と一緒に生活する」(27.1%) が特に多くなっています。

《障害の種類別》

(%)

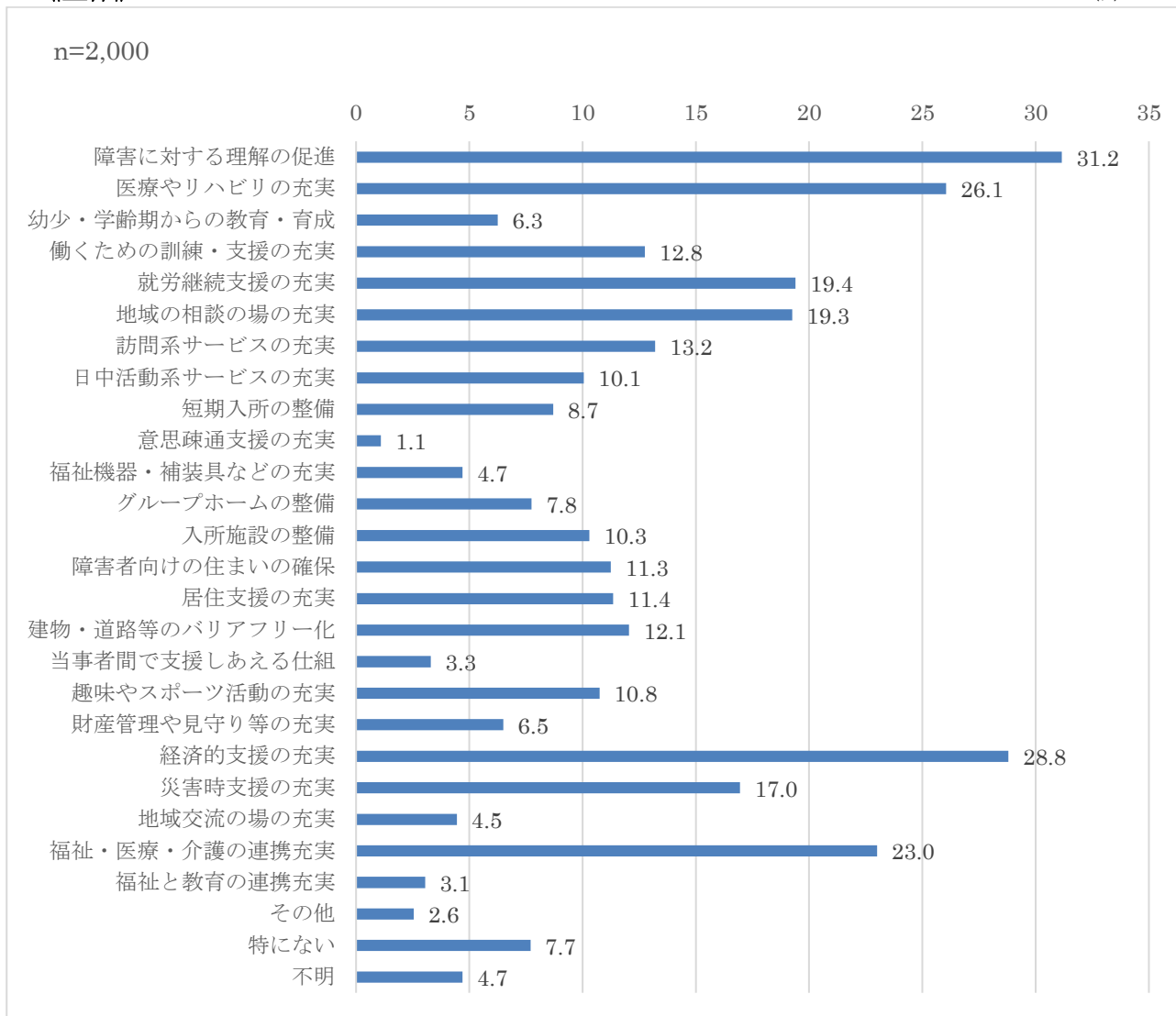
	合計	地域で独立して生活する	親や親族と一緒に生活する	グループホーム等の共同生活住居に入居する	区内の入所施設に入所する	区外でも良いので入所施設に入所する	高齢者施設で生活する	分らない	不明
肢体不自由	283	25.4	25.1	3.2	6.7	2.5	8.1	25.1	3.9
音声・言語・そしゃく機能障害	77	19.5	19.5	6.5	6.5	2.6	7.8	31.2	6.5
視覚障害	144	38.2	22.9	0.0	5.6	0.7	5.6	22.2	4.9
聴覚・平衡機能障害	146	30.1	22.6	3.4	4.1	1.4	13.7	20.5	4.1
内部障害	278	30.6	29.9	1.4	5.0	0.4	5.8	22.7	4.3
知的障害	231	7.4	28.1	17.3	16.9	5.2	2.6	18.6	3.9
発達障害	187	34.8	28.9	6.4	5.9	2.1	0.5	20.3	1.1
精神障害	464	39.4	26.5	1.5	1.5	0.4	2.4	24.8	3.4
高次脳機能障害	44	25.0	45.5	2.3	0.0	2.3	6.8	15.9	2.3
難病(特定疾病)	632	34.0	28.6	0.8	2.8	1.3	4.3	23.7	4.4
その他	35	28.6	17.1	5.7	5.7	2.9	2.9	31.4	5.7

障害別の今後希望する生活については、多くの障害で「地域で独立して生活する」が最も多くなっている一方、「知的障害」や「高次脳機能障害」では、「親や親族と一緒に生活する」が最も多くなっています。

(3-5) 地域で安心して暮らしていくために必要な施策（問 20）

《全体》

(%)



地域で安心して暮らしていくために必要な施策は、「障害に対する理解の促進」（31.2%）と「経済的支援の充実」（28.8%）がそれぞれ約3割を占め、特に多くなっています。

《障害の種類別》抜粋

(%)

	合計	障害に対する理解の促進	医療やリハビリテーションの充実	仕事を継続するための支援の充実	身近な地域で相談できる場の充実	訪問系サービスの充実	日中活動系サービスの充実	グループホームの整備
肢体不自由	283	29.3	42.4	9.2	18.0	18.0	9.9	6.7
音声・言語・そしゃく機能障害	77	24.7	33.8	5.2	7.8	20.8	11.7	14.3
視覚障害	144	36.1	19.4	12.5	13.2	18.1	9.7	4.9
聴覚・平衡機能障害	146	37.0	29.5	11.0	14.4	16.4	6.2	6.2
内部障害	278	24.1	30.9	10.8	15.8	16.9	4.3	2.2
知的障害	231	33.8	9.1	20.3	16.5	6.9	30.3	39.8
発達障害	187	48.7	11.8	35.8	23.5	8.6	18.7	19.3
精神障害	464	44.0	17.2	33.8	27.6	12.1	14.4	6.0
高次脳機能障害	44	34.1	45.5	13.6	18.2	25.0	15.9	4.5
難病（特定疾病）	632	20.6	34.3	17.4	18.0	14.1	6.3	1.7
その他	35	31.4	22.9	22.9	22.9	17.1	0.0	8.6

	合計	入所施設の整備	障害者向けの住まいの確保	建物・道路等のバリアフリー化	財産管理や見守り等の支援の充実	経済的支援の充実	災害時支援の充実	福祉・医療・介護との連携の充実
肢体不自由	283	15.2	13.1	25.4	3.2	22.6	18.0	27.6
音声・言語・そしゃく機能障害	77	28.6	18.2	14.3	6.5	24.7	22.1	29.9
視覚障害	144	11.1	11.1	25.7	7.6	22.2	21.5	20.1
聴覚・平衡機能障害	146	15.1	11.6	11.6	2.7	22.6	24.0	33.6
内部障害	278	11.5	6.8	15.1	4.3	25.2	21.6	28.1
知的障害	231	28.1	24.7	5.2	17.7	19.0	14.3	16.5
発達障害	187	8.6	23.0	2.1	15.0	33.7	11.8	17.1
精神障害	464	4.3	14.2	3.9	7.1	42.5	12.3	16.6
高次脳機能障害	44	13.6	13.6	20.5	4.5	29.5	20.5	27.3
難病（特定疾病）	632	9.7	4.7	14.9	4.4	32.1	19.0	27.2
その他	35	11.4	22.9	8.6	5.7	34.3	8.6	25.7

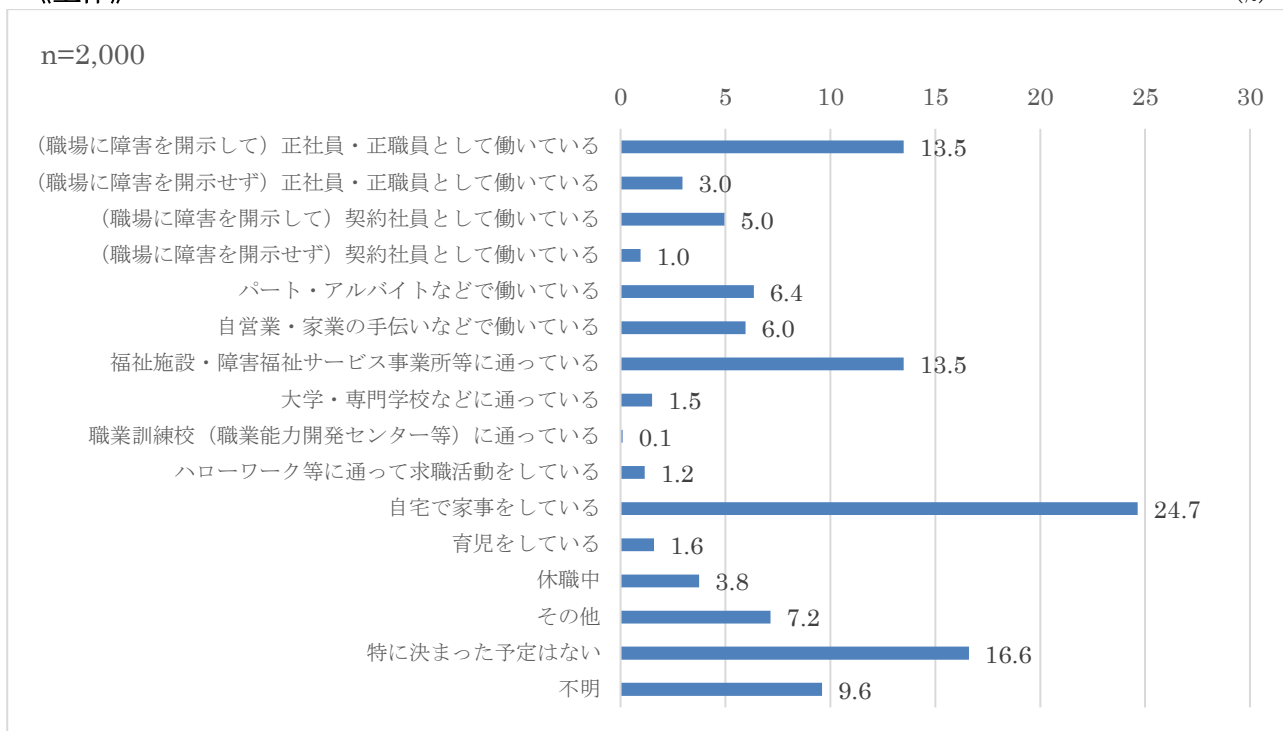
障害別の地域で安心して暮していくために必要な施策は、「発達障害」や「精神障害」等では「障害に対する理解の促進」が4割を超えて最も多く、「肢体不自由」や「難病」では「医療やリハビリテーションの充実」が最も多くなっています。また、「知的障害」では「グループホームの整備」が最も多くなっています。

4 日中活動や外出について

(4-1) 平日の日中の過ごし方 (問26)

《全体》

(%)



平日の日中の過ごし方は、「自宅で家事をしている」(24.7%)が多く、次いで「特に決まった予定はない」(16.6%)となっています。

《障害の種類別》 抜粋

(%)

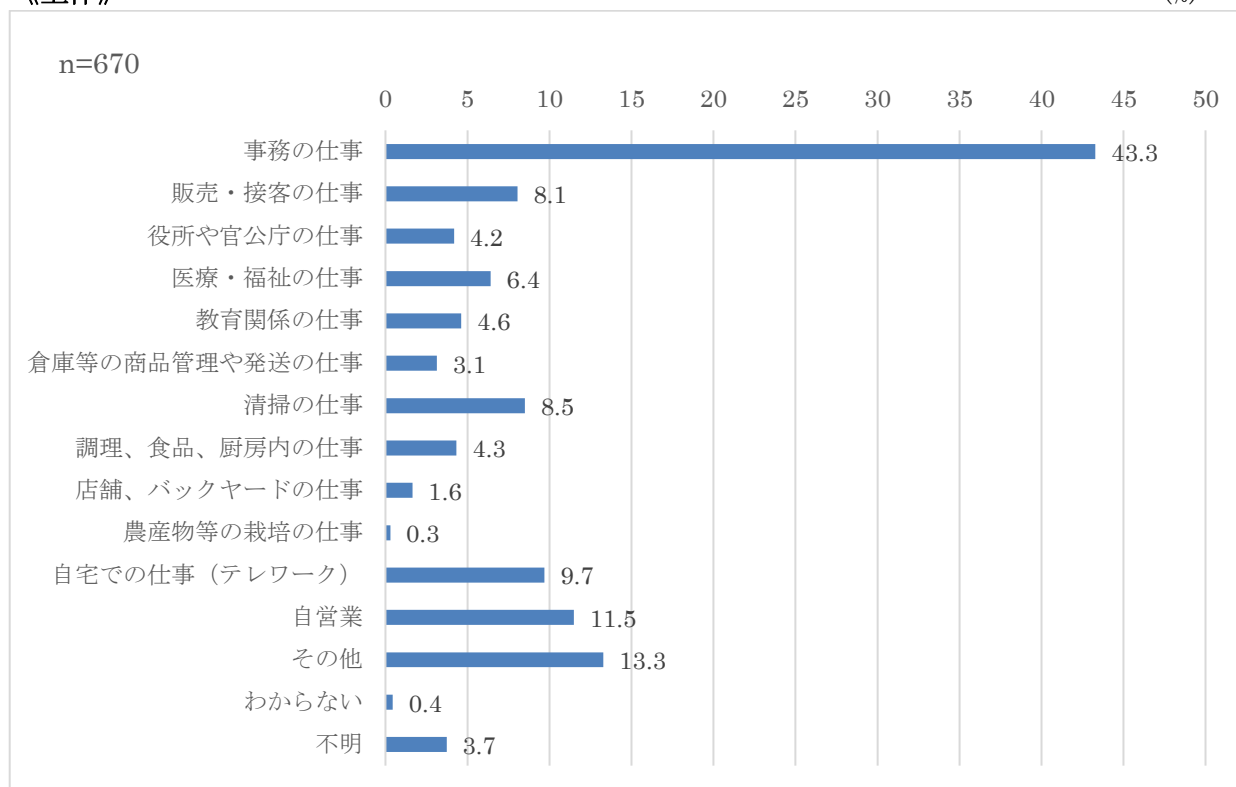
	合計	(職場に障害を開示して) 正社員・正職員として働いている	(職場に障害を開示せず) 正社員・正職員として働いている	(職場に障害を開示して) 契約社員として働いている	(職場に障害を開示せず) 契約社員として働いている	福祉施設・障害福祉サービス事業所等に通っている	自宅で家事をしている	特に決まった予定はない
肢体不自由	283	10.6	0.0	2.8	0.4	12.4	23.7	26.1
音声・言語・そしゃく機能障害	77	3.9	0.0	2.6	0.0	20.8	18.2	23.4
視覚障害	144	15.3	1.4	2.1	0.7	9.0	18.8	25.7
聴覚・平衡機能障害	146	13.0	0.7	4.8	0.7	6.8	24.0	26.0
内部障害	278	10.8	2.2	2.5	0.7	5.0	24.8	24.5
知的障害	231	8.2	0.4	11.7	0.4	55.8	5.6	4.3
発達障害	187	16.0	4.3	15.0	1.1	28.9	10.7	8.0
精神障害	464	9.3	3.4	6.9	1.7	16.6	27.6	15.1
高次脳機能障害	44	11.4	0.0	4.5	0.0	22.7	11.4	31.8
難病(特定疾病)	632	18.7	4.3	2.5	0.9	4.1	31.0	14.6
その他	35	8.6	5.7	8.6	0.0	20.0	11.4	20.0

障害種類別の平日の日中の過ごし方は、「知的障害」と「発達障害」では、「福祉施設・障害福祉サービス事業所等に通っている」が最も多くなっており、他の障害では「自宅で家事をしている」や「特に決まった予定はない」が多くを占めています。また、「精神障害」、「発達障害」又は「難病」では、職場に障害を開示せずに働いている方が一定の割合を占めています。

(4-2) (仕事をしている方について) 仕事の内容 (問 26-2)

《全体》

(%)

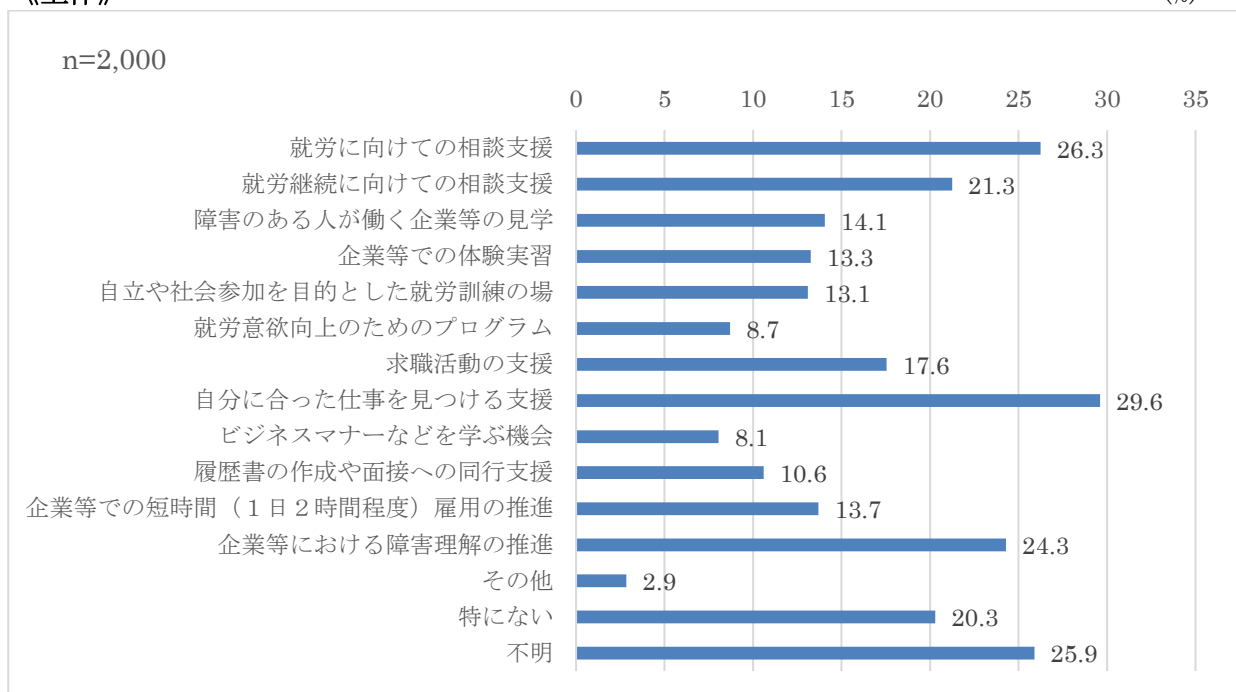


仕事の内容については、「事務の仕事」(43.3%)が最も多くなっています。

(4-3) 一般就労のために希望すること (問 27)

《全体》

(%)



障害者が一般就労するために希望する支援については、「自分に合った仕事を見つける支援」(29.6%)が最も多く、次いで「就労に向けての相談支援」(26.3%)、「企業等における障害理解の推進」(24.3%)となっています。

《障害の種類別》抜粋

(%)

	合計	就労に向けての相談支援	企業等での体験実習	自立や社会参加を目的とした就労訓練の場	自分に合った仕事を見つける支援	企業等での短時間（1日2時間程度）雇用の推進	企業等における障害理解の推進	特にない
肢体不自由	283	21.6	7.4	11.0	20.8	8.8	16.6	23.3
音声・言語・そしゃく機能障害	77	14.3	9.1	10.4	23.4	10.4	20.8	23.4
視覚障害	144	22.9	11.1	12.5	23.6	8.3	25.7	22.2
聴覚・平衡機能障害	146	17.8	11.6	10.3	19.9	11.6	19.2	20.5
内部障害	278	18.7	8.3	7.6	22.7	11.5	15.1	28.4
知的障害	231	32.5	26.4	20.3	41.1	16.5	36.8	13.9
発達障害	187	49.2	35.8	29.9	51.3	24.6	49.2	6.4
精神障害	464	37.9	18.1	14.9	42.7	21.6	34.3	14.0
高次脳機能障害	44	18.2	20.5	15.9	29.5	18.2	34.1	29.5
難病（特定疾病）	632	23.1	9.7	12.2	24.8	11.6	18.7	22.0
その他	35	14.3	22.9	14.3	22.9	11.4	28.6	37.1

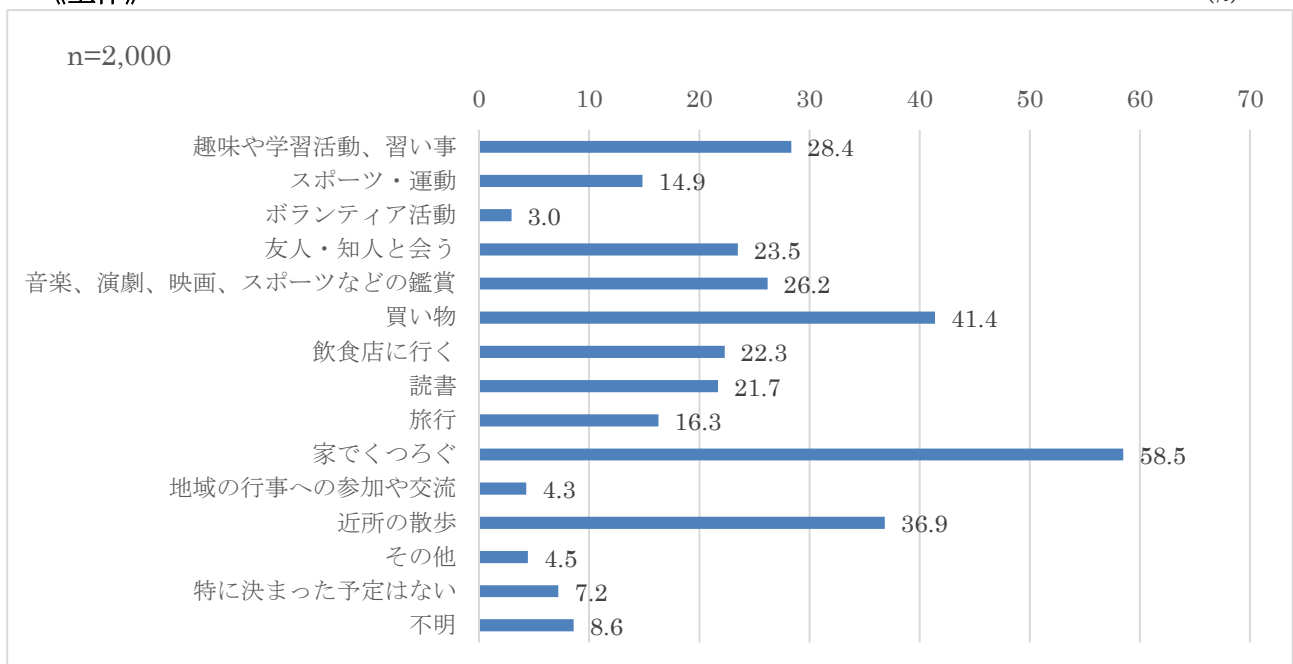
障害別の一般就労のために希望することについては、「発達障害」や「精神障害」等では、「自分に合った仕事を見つける支援」が最も多かった一方、「聴覚・平衡機能障害」や「内部障害」等は「特にない」が最も多くなっています。

また、「発達障害」では他の障害と比較して全体的に高い値になっている傾向があります。

(4-4) 余暇の過ごし方 (問 28)

《全体》

(%)

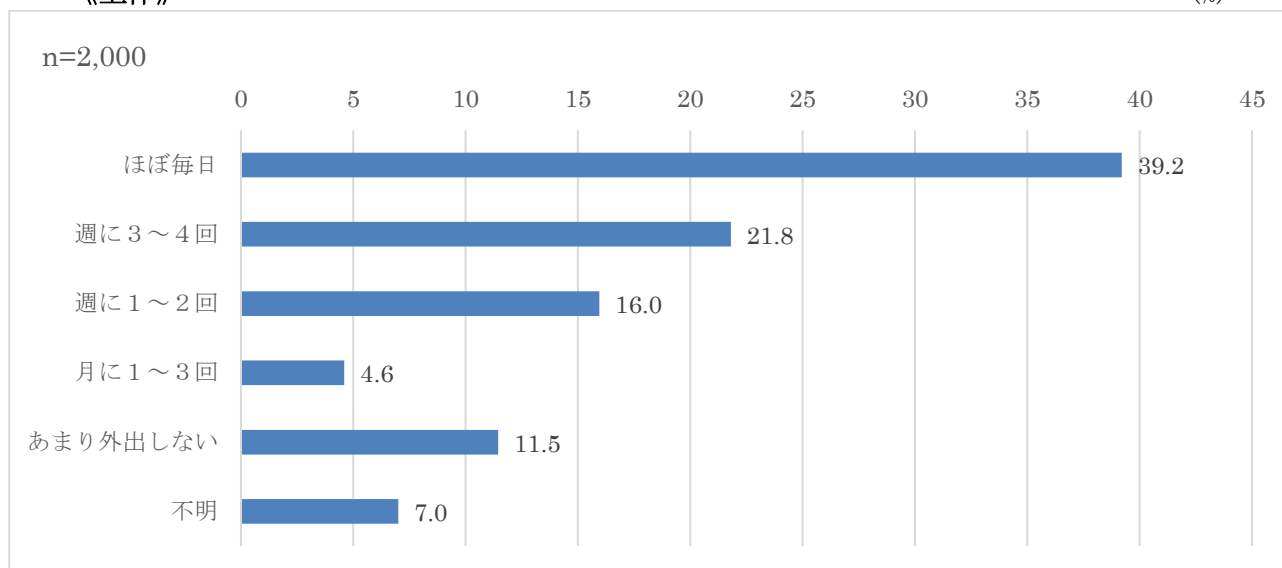


余暇の過ごし方については、「家でくつろぐ」(58.5%)が最も多く、次いで「買い物」(41.4%)、「近所の散歩」(36.9%)となっています。

(4-5) 外出頻度 (問 29)

《全体》

(%)



外出頻度については、「ほぼ毎日」(39.2%)が最も多く、次いで「週に3~4回」(21.8%)、「週に1~2回」(16.0%)となっています。

《障害の種類別》抜粋

(%)

	合計	ほぼ毎日	週に3~4回	週に1~2回	月に1~3回	あまり外出しない
肢体不自由	283	26.5	20.8	17.7	9.2	14.1
音声・言語・そしゃく機能障害	77	23.4	27.3	11.7	6.5	13.0
視覚障害	144	35.4	18.1	17.4	6.3	12.5
聴覚・平衡機能障害	146	32.9	21.2	19.9	3.4	13.0
内部障害	278	34.5	24.1	15.1	5.8	12.6
知的障害	231	53.7	8.2	16.9	4.8	11.3
発達障害	187	52.9	18.7	12.8	3.7	8.6
精神障害	464	39.4	21.6	15.7	4.5	14.0
高次脳機能障害	44	27.3	34.1	15.9	6.8	4.5
難病(特定疾病)	632	38.8	24.5	14.4	3.8	11.6
その他	35	28.6	20.0	14.3	11.4	17.1

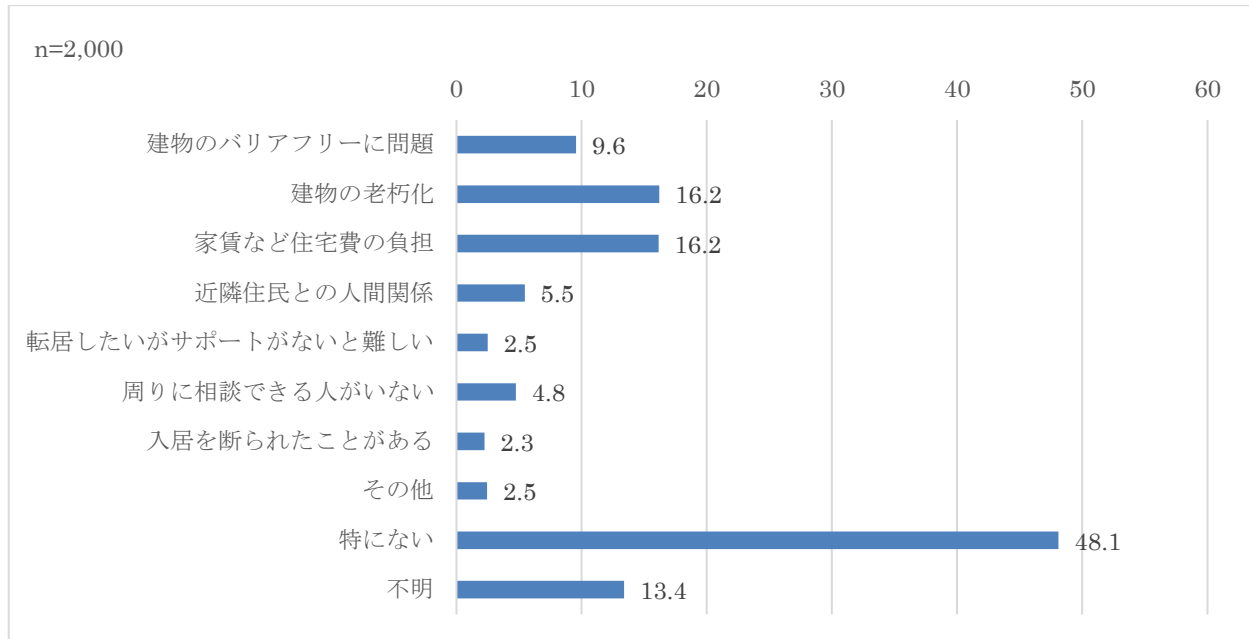
障害別では、多くの障害で「ほぼ毎日」が最も多くなっている一方、「音声・言語・そしゃく機能障害」と「高次脳機能障害」では、「週3~4回」が最も多くなっています。

5 住まいについて

(5-1) 住まいで困っていること (問31)

《全体》

(%)



住まいで困っていることについては、「特にない」(48.1%)が最も多く、次いで「建物の老朽化」(16.2%)と「家賃など住宅費の負担」(16.2%)と続いています。

《障害の種類別》(抜粋)

(%)

	合計	建物のバリアフリーに問題	建物の老朽化	家賃など住宅費の負担	近隣住民との人間関係	周りに相談できる人がいない	入居を断られたことがある	特にない
肢体不自由	283	17.7	18.7	15.2	2.5	3.9	1.4	40.6
音声・言語・そしゃく機能障害	77	10.4	15.6	11.7	5.2	3.9	1.3	45.5
視覚障害	144	13.2	18.1	12.5	4.2	4.2	2.8	45.8
聴覚・平衡機能障害	146	13.0	22.6	18.5	6.8	4.8	2.1	38.4
内部障害	278	15.1	17.6	16.2	1.4	3.2	1.4	47.8
知的障害	231	6.1	8.7	10.8	7.8	5.6	1.7	58.4
発達障害	187	4.8	17.6	19.8	16.0	9.6	7.5	43.9
精神障害	464	5.0	22.8	26.5	12.3	9.5	4.5	36.6
高次脳機能障害	44	9.1	18.2	18.2	4.5	4.5	0.0	43.2
難病(特定疾病)	632	10.8	14.7	13.0	1.9	2.2	0.8	55.1
その他	35	14.3	14.3	25.7	14.3	17.1	2.9	28.6

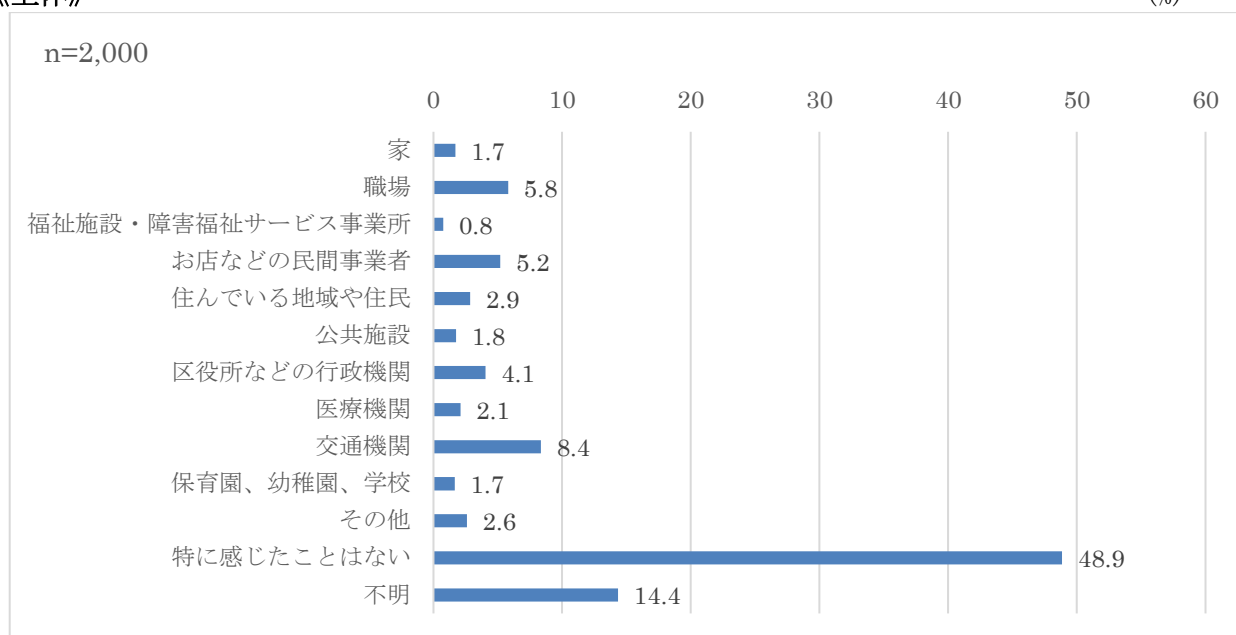
障害の種類別の住まいで困っていることは、全ての障害で「特にない」が最も多くなっている一方、「発達障害」と「精神障害」では、「家賃などの住居費の負担」や「近隣住民との人間関係」が他障害と比較して高い値になっている傾向があります。

6 権利擁護・差別解消について

(6-1) 地域で障害者への差別や合理的配慮への不提供を感じる場面（問 35）

《全体》

(%)



地域で差別や合理的配慮の不提供を感じる場面については、「特に感じたことはない」が半数近くを占めており、最も多くなっています。次いで、交通機関(8.4%)、職場(5.8%)と続いています。

《障害の種類別》 抜粋

(%)

	合計	職場	お店などの民間事業者	住んでいる地域や住民	区役所などの行政機関	医療機関	交通機関	特に感じたことはない
肢体不自由	283	2.1	7.8	2.5	3.5	0.7	11.7	44.5
音声・言語・そしゃく機能障害	77	1.3	6.5	3.9	2.6	1.3	7.8	40.3
視覚障害	144	1.4	7.6	0.7	6.3	0.7	7.6	44.4
聴覚・平衡機能障害	146	4.1	10.3	1.4	2.7	4.8	5.5	52.1
内部障害	278	3.2	4.7	2.2	2.2	1.8	8.3	55.0
知的障害	231	4.3	6.5	3.5	2.6	2.6	8.7	39.4
発達障害	187	9.6	4.8	7.0	4.8	3.2	9.1	35.3
精神障害	464	11.9	4.1	5.8	5.4	3.7	8.0	40.5
高次脳機能障害	44	9.1	11.4	2.3	2.3	2.3	9.1	43.2
難病(特定疾病)	632	4.6	5.9	0.9	4.4	0.8	9.5	52.4
その他	35	5.7	5.7	5.7	0.0	5.7	5.7	25.7

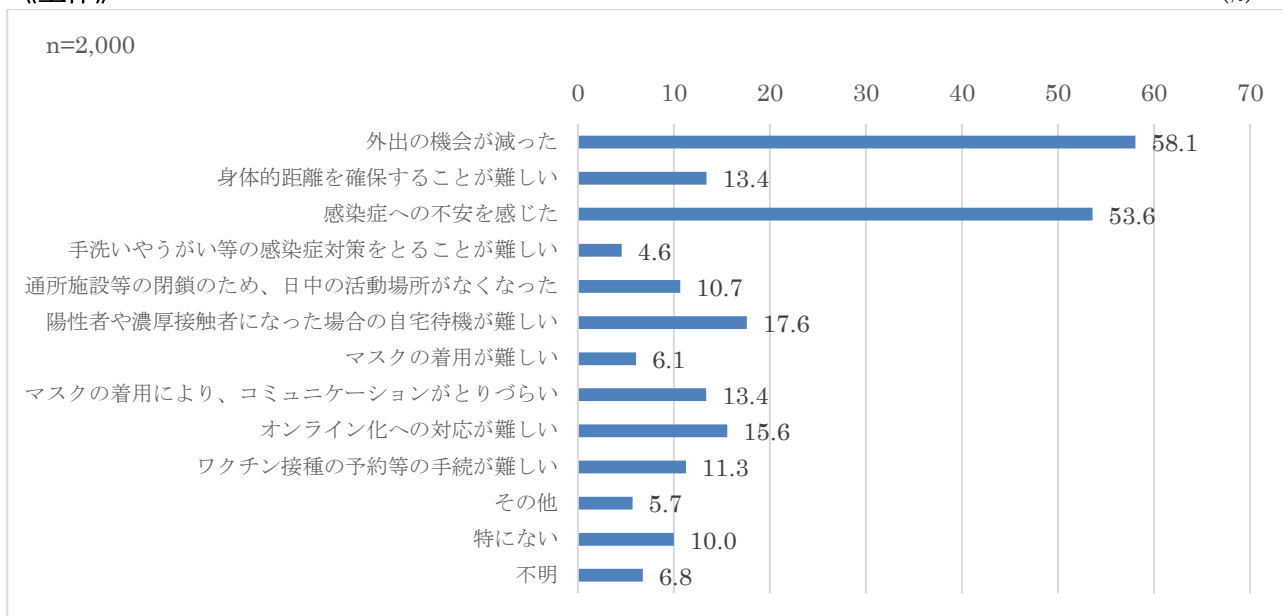
障害別では、全ての障害で「特に感じたことはない」が最も多くなっています。他の障害との比較では、「肢体不自由」や「知的障害」等では「交通機関」が多くなっており「精神障害」や「発達障害」では「職場」が多くなっています。

7 感染症について

(7-1) 感染症拡大時に困ったことや不安なこと（問39）

《全体》

(%)



感染症拡大時に困ることについては、「外出の機会が減った」（58.1%）と「感染症への不安を感じた」（53.6%）がともに半数を超えています。

《障害の種類別》（抜粋）

(%)

	合計	外出の機会が減った	感染症への不安を感じた	通所施設等の閉鎖のため、日中の活動場所がない	陽性者や濃厚接触者になった場合の自宅待機が難しい	マスクの着用が難しい	マスクの着用により、コミュニケーションがとりづらい	オンライン化への対応が難しい
肢体不自由	283	60.1	53.7	9.5	19.4	6.4	12.0	17.7
音声・言語・そしゃく機能障害	77	51.9	51.9	22.1	23.4	10.4	19.5	19.5
視覚障害	144	46.5	38.2	6.9	13.9	6.3	9.0	16.0
聴覚・平衡機能障害	146	48.6	50.0	9.6	17.1	5.5	39.7	21.2
内部障害	278	63.3	60.4	4.7	21.6	5.4	11.2	15.5
知的障害	231	65.8	46.8	35.1	25.5	14.7	10.4	22.5
発達障害	187	59.4	50.3	22.5	19.8	9.6	18.2	15.0
精神障害	464	51.3	51.7	11.6	13.8	7.3	12.3	16.6
高次脳機能障害	44	68.2	52.3	20.5	20.5	11.4	13.6	11.4
難病（特定疾病）	632	62.5	60.6	6.8	20.3	3.0	10.9	12.5
その他	35	51.4	28.6	14.3	17.1	5.7	14.3	28.6

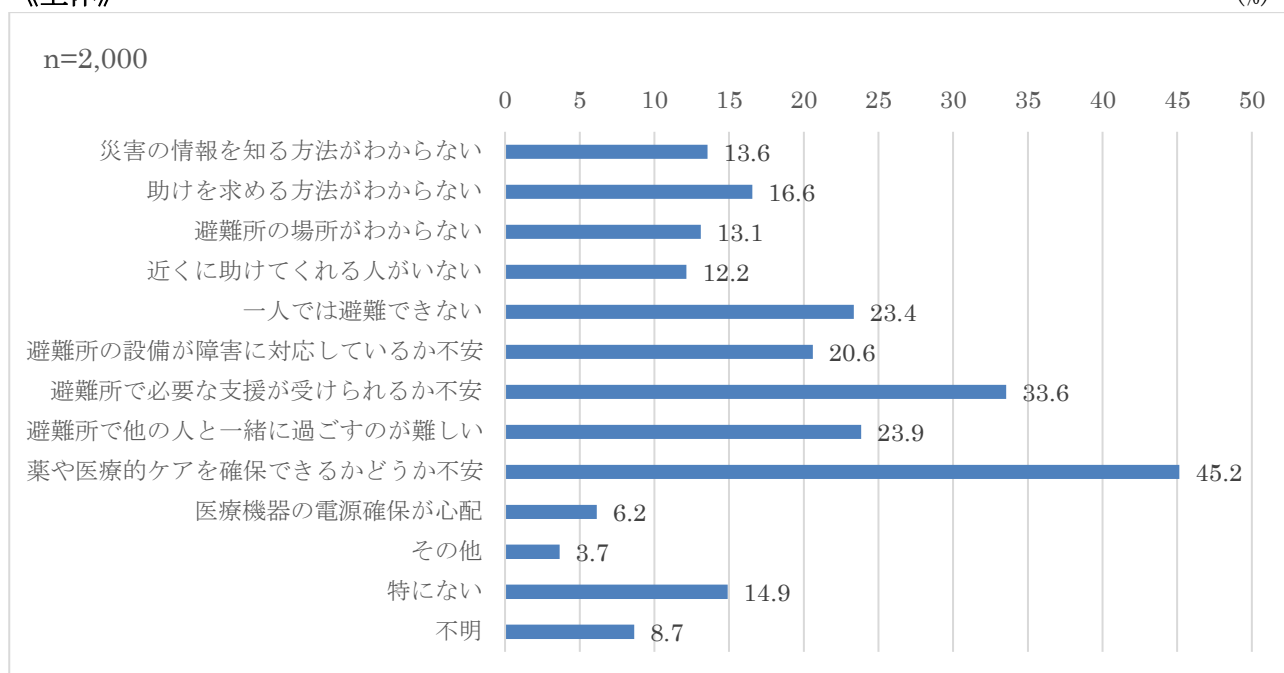
障害別にみると、ほとんどの障害で「外出の機会が減った」が最も多くなっています。また、「知的障害」では、日中の活動場所がないことや自宅待機の難しさが他の障害と比較して高い傾向にあり、「聴覚・平衡機能障害」では、「マスクの着用により、コミュニケーションがとりづらい」ことが他の障害と比較して高い傾向にあります。

8 災害対策について

(8-1) 災害発生時に困ること (問 40)

《全体》

(%)



災害発生時に困ることについては、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が 45.2%と最も多く、次いで「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が 33.6%となっています。

《障害の種類別》抜粋

(%)

	合計	災害の情報をする方法がわからない	助けを求めする方法がわからない	一人では避難できない	避難所の設備が障害に対応しているか不安	避難所で必要な支援が受けられるか不安	避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい	薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安
肢体不自由	283	11.7	14.8	45.6	33.6	39.9	23.7	41.3
音声・言語・そしゃく機能障害	77	22.1	32.5	48.1	39.0	45.5	32.5	44.2
視覚障害	144	14.6	20.8	36.1	29.9	34.0	21.5	26.4
聴覚・平衡機能障害	146	28.1	23.3	26.7	24.7	39.0	17.1	32.9
内部障害	278	12.2	14.4	19.8	23.0	37.1	18.7	54.3
知的障害	231	29.9	35.1	56.7	31.6	41.6	36.4	32.0
発達障害	187	20.3	27.3	25.7	26.2	38.0	42.8	38.5
精神障害	464	11.9	17.5	16.6	17.9	33.8	37.1	52.2
高次脳機能障害	44	11.4	22.7	43.2	29.5	36.4	22.7	36.4
難病(特定疾病)	632	8.4	10.3	15.2	15.0	31.0	15.0	56.5
その他	35	14.3	17.1	20.0	22.9	31.4	11.4	40.0

障害別では、「肢体不自由」等では「一人では避難できない」が最も多く、「難病」、「精神障害」や「内部障害」では「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が過半数を超えて最も多くなっています。また、「発達障害」では「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」が最も多くなっています。

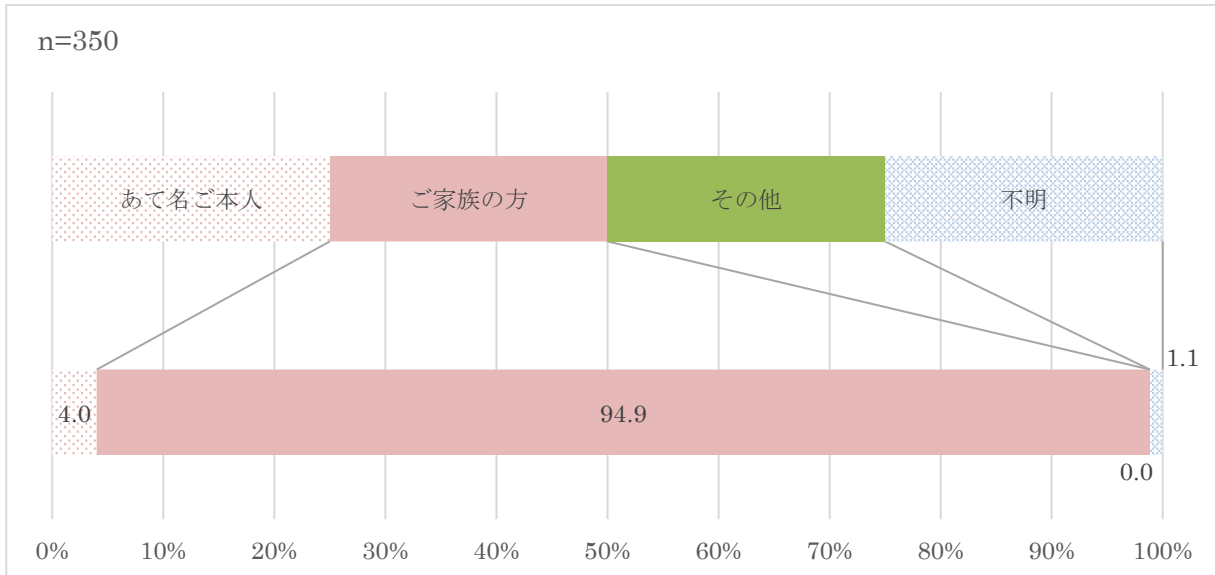
4 18歳未満の方を対象にした調査

1 対象者特性

(1-1) 回答者 (問1)

《全体》

(%)

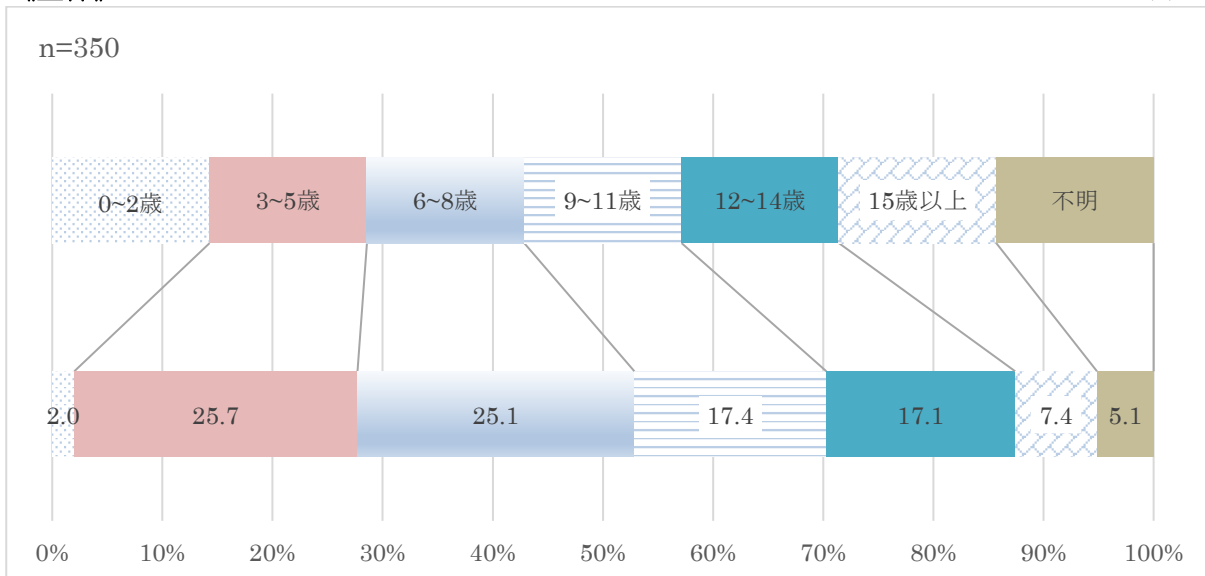


回答者については、「ご家族の方」が94.9%、「あて名ご本人」が4.0%となっています。

(1-2) 年齢 (問2)

《全体》

(%)

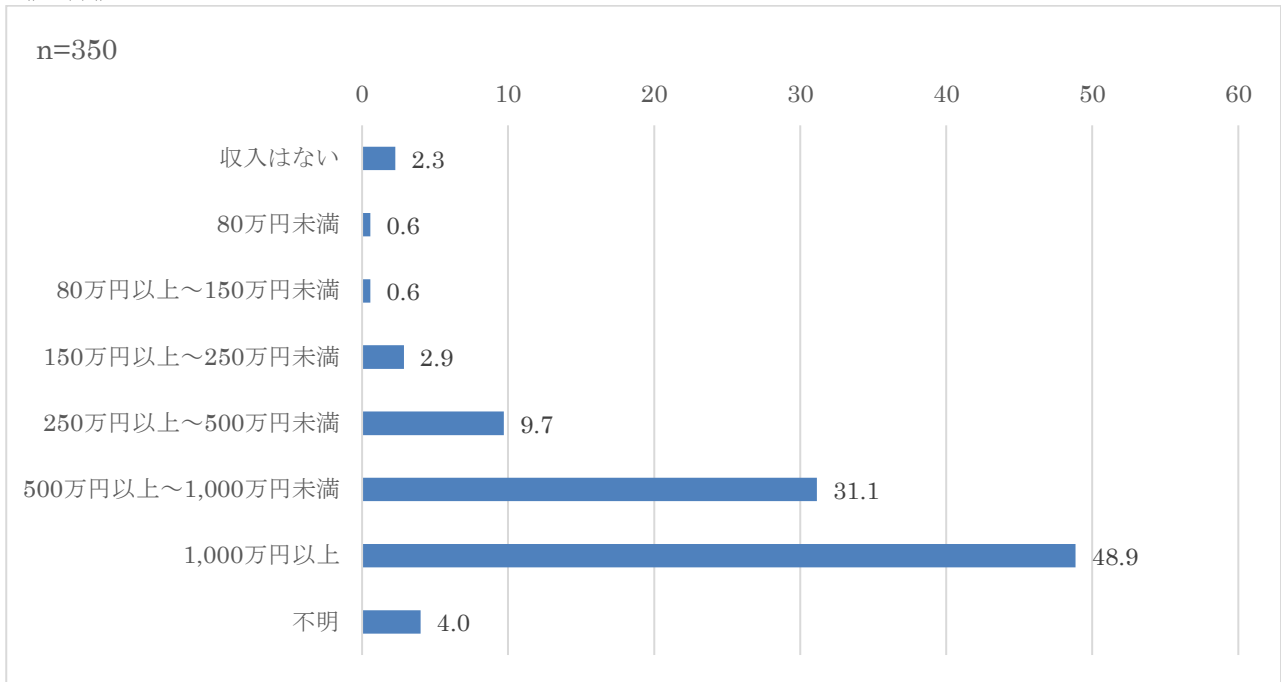


年齢については、3～5歳(25.7%)、6～8歳(25.1%)がそれぞれ2割台となっています。次いで、9～11歳(17.4%)、12～14歳(17.1%)となっています。

(1-3) 世帯の年収 (問3)

《全体》

(%)

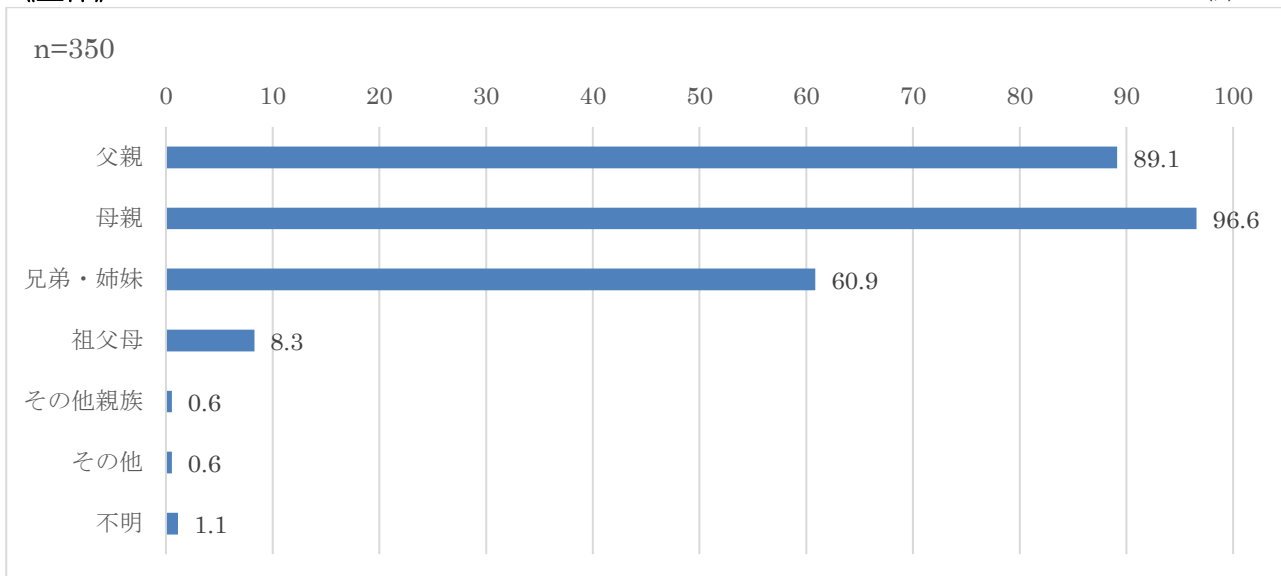


世帯の収入については、「1,000万円以上」が48.9%と半数近くを占めており、「500万円以上～1,000万円未満」と合わせると、全体の8割に到達しています。

(1-4) 同居家族 (問4)

《全体》

(%)



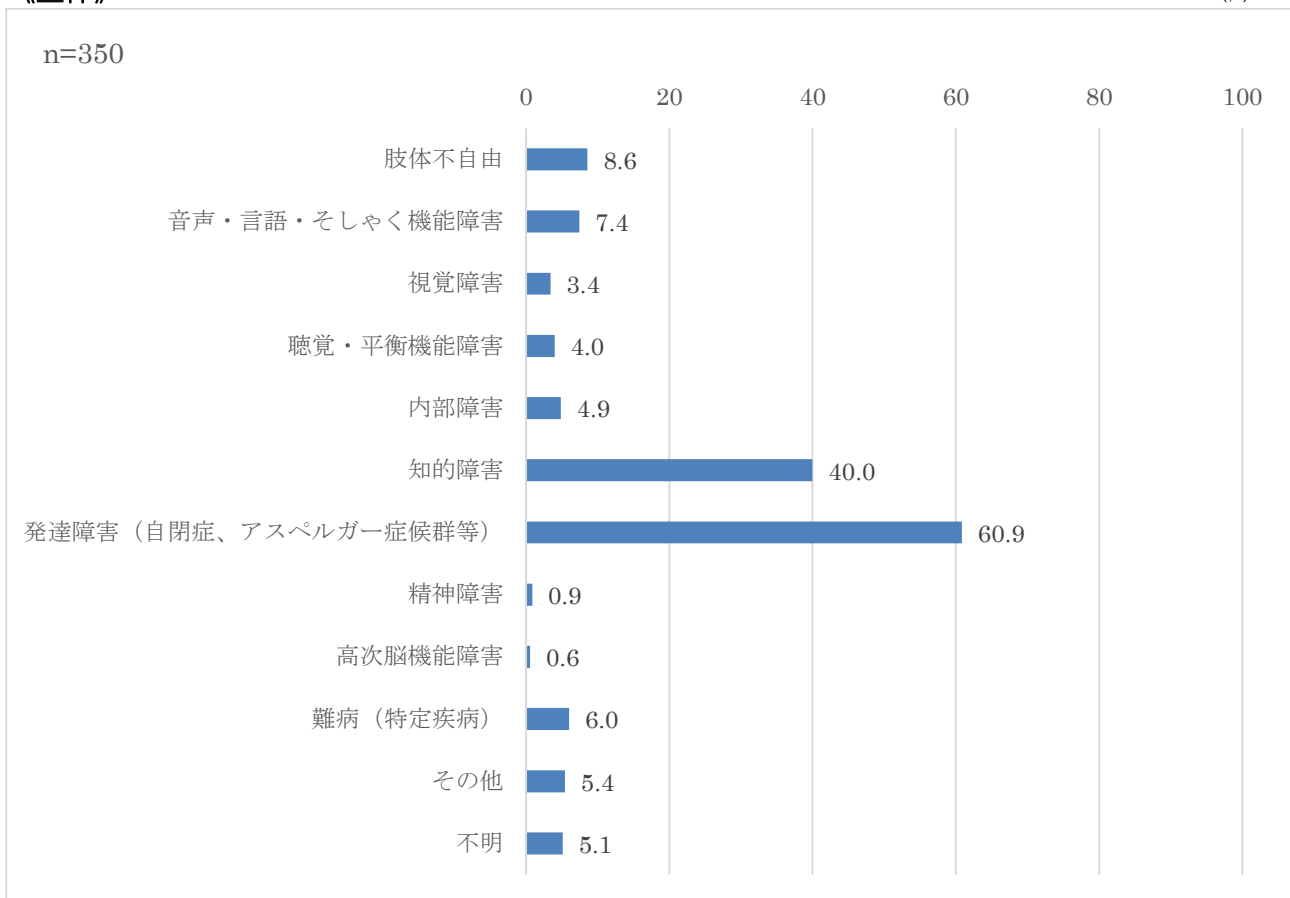
同居家族については、「母親」が96.6%と最も多く、次いで「父親」89.1%となっています。

2 障害と健康について

(2-1) 障害の種類 (問5)

《全体》

(%)

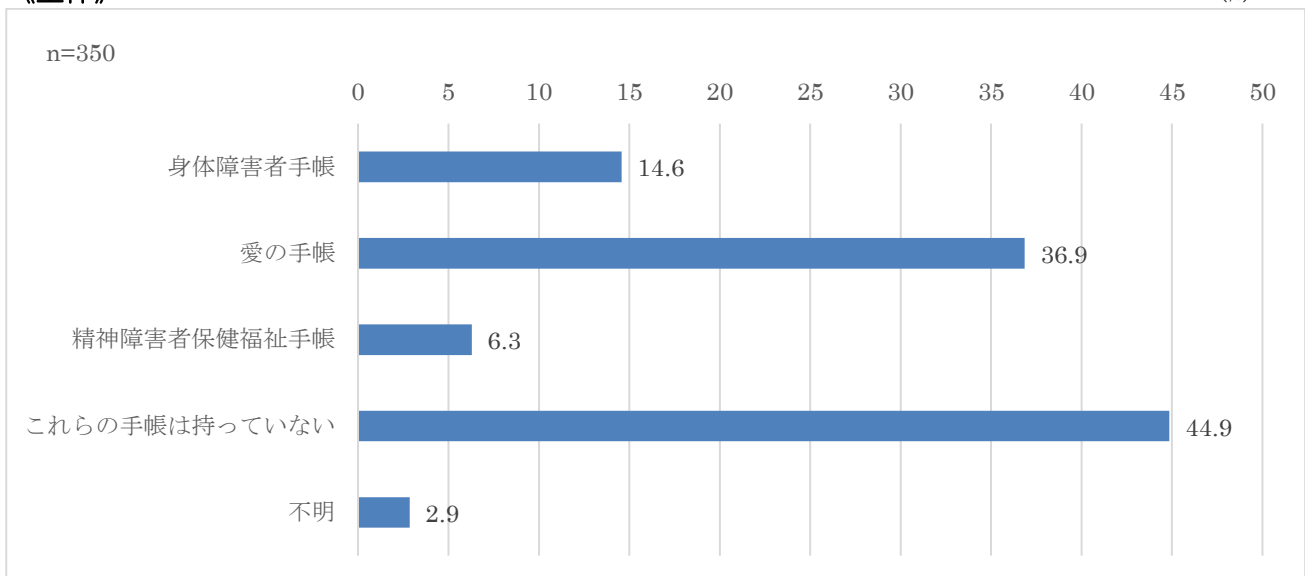


障害の種類については、「発達障害」が60.9%、他の障害よりも突出して多く、次いで「知的障害」が40.0%となっています。

(2-2) 手帳の所持状況 (問6)

《全体》

(%)

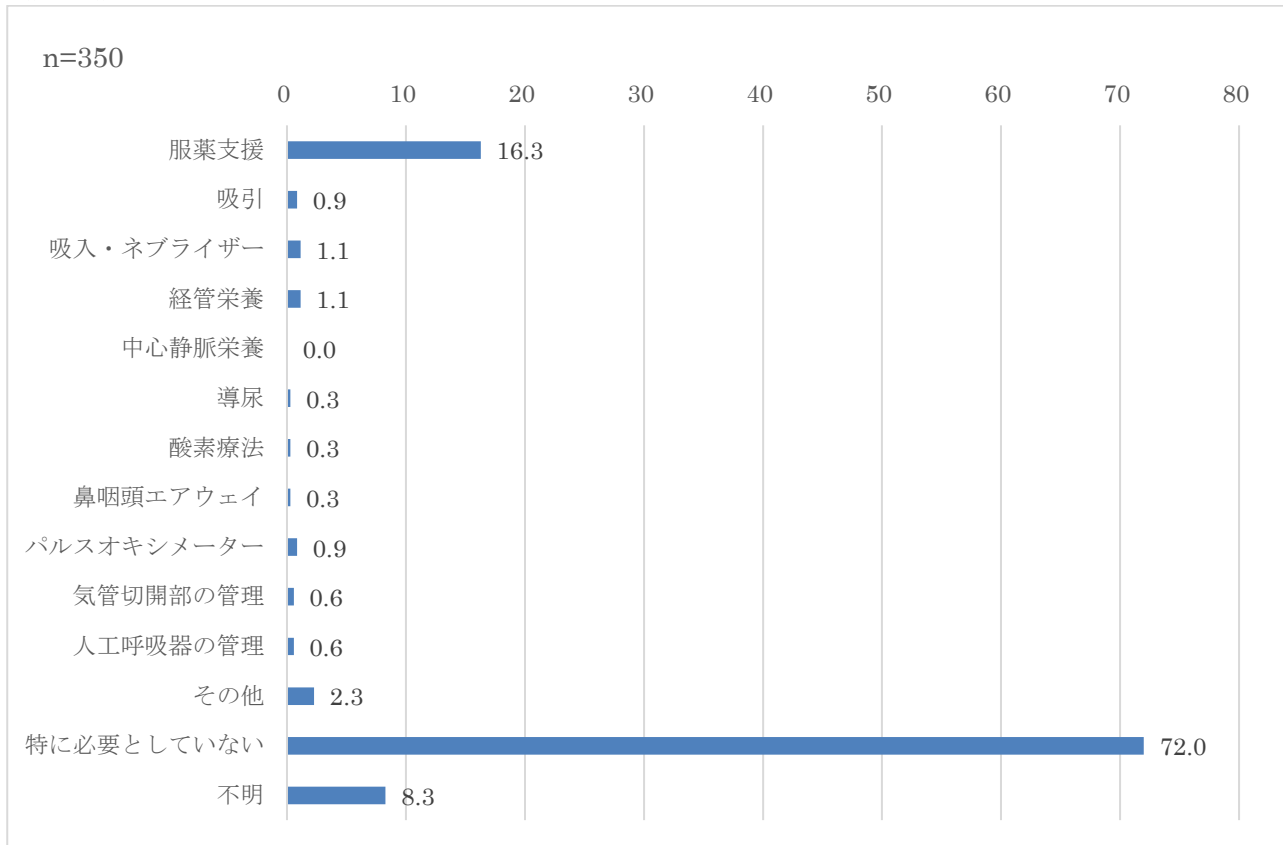


手帳の所持状況については、「愛の手帳」が36.9%と最も多く、次いで「身体障害者手帳」が14.6%、「精神障害者保健福祉手帳」が6.3%となっています。一方、「これらの手帳は持っていない」は44.9%となっています。

(2-3) 必要とする医療的ケア（問 12）

《全体》

(%)



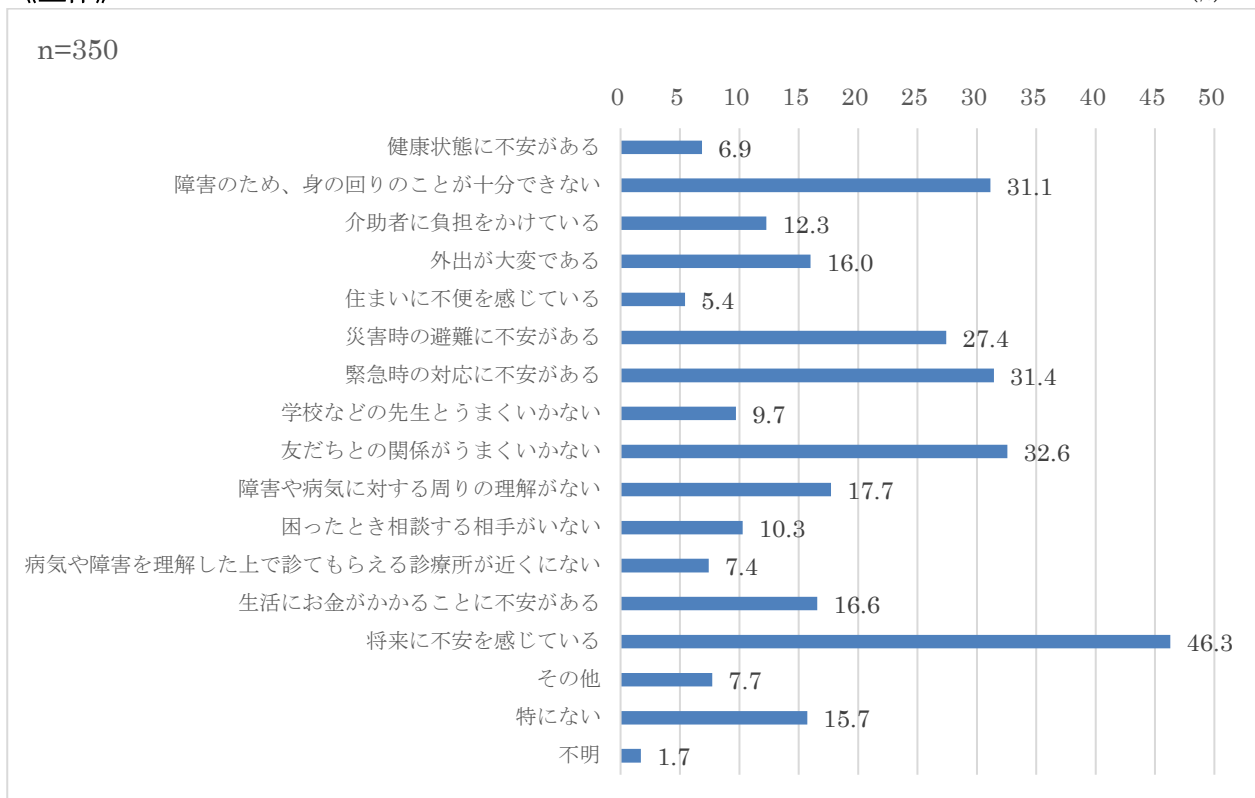
必要とする医療的ケアについては、「服薬支援」（16.3%）が最も多く、次いで「吸入・ネブライザー」（1.1%）、「経管栄養」（1.1%）となっています。

3 相談や福祉の情報について

(3-1) 日常生活で困っていること (問 16)

《全体》

(%)



日常生活で困っていることについては、「将来に不安を感じていること」(46.3%)が最も多く、次いで「友だちとの関係がうまくいかない」(32.6%)、「緊急時の対応に不安がある」(31.4%)となっています。

《障害の種類別》抜粋

(%)

	合計	健康状態に不安がある	障害のため、身の回りのことが十分できない	介助者に負担をかけている	外出が大変である	住まいに不便を感じている	災害時の避難に不安がある	緊急時の対応に不安がある
肢体不自由	30	23.3	70.0	40.0	50.0	20.0	56.7	53.3
音声・言語・そしゃく機能障害	26	23.1	57.7	30.8	34.6	11.5	61.5	61.5
視覚障害	12	25.0	33.3	41.7	41.7	25.0	66.7	33.3
聴覚・平衡機能障害	14	0.0	35.7	7.1	7.1	7.1	42.9	35.7
内部障害	17	29.4	17.6	5.9	17.6	5.9	23.5	17.6
知的障害	140	7.9	48.6	20.0	24.3	7.1	43.6	50.0
発達障害	213	3.8	28.6	11.7	14.1	4.2	24.9	30.0
精神障害	3	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3
高次脳機能障害	2	0.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
難病(特定疾病)	21	14.3	52.4	28.6	33.3	14.3	52.4	42.9
その他	19	0.0	42.1	5.3	10.5	5.3	10.5	21.1
不明	18	5.6	5.6	0.0	0.0	0.0	5.6	16.7

	合計	学校などの先生とうまくいかない	友だちとの関係がうまくいかない	障害や病気に対する周りの理解がない	困ったとき相談する相手がいない	病気や障害を理解した上で診てもらえる診療所が近くにない	生活にお金がかかることに不安がある	将来に不安を感じている
肢体不自由	30	10.0	6.7	16.7	10.0	13.3	36.7	63.3
音声・言語・そしゃく機能障害	26	7.7	15.4	11.5	7.7	19.2	15.4	57.7
視覚障害	12	8.3	16.7	16.7	16.7	16.7	33.3	58.3
聴覚・平衡機能障害	14	0.0	0.0	21.4	0.0	0.0	14.3	57.1
内部障害	17	0.0	5.9	23.5	0.0	5.9	17.6	35.3
知的障害	140	9.3	27.1	18.6	16.4	12.9	19.3	51.4
発達障害	213	13.1	44.1	21.1	12.2	8.9	15.5	49.3
精神障害	3	0.0	66.7	33.3	33.3	0.0	33.3	100.0
高次脳機能障害	2	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	50.0
難病(特定疾病)	21	9.5	4.8	14.3	9.5	9.5	23.8	61.9
その他	19	10.5	47.4	21.1	10.5	5.3	26.3	47.4
不明	18	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1

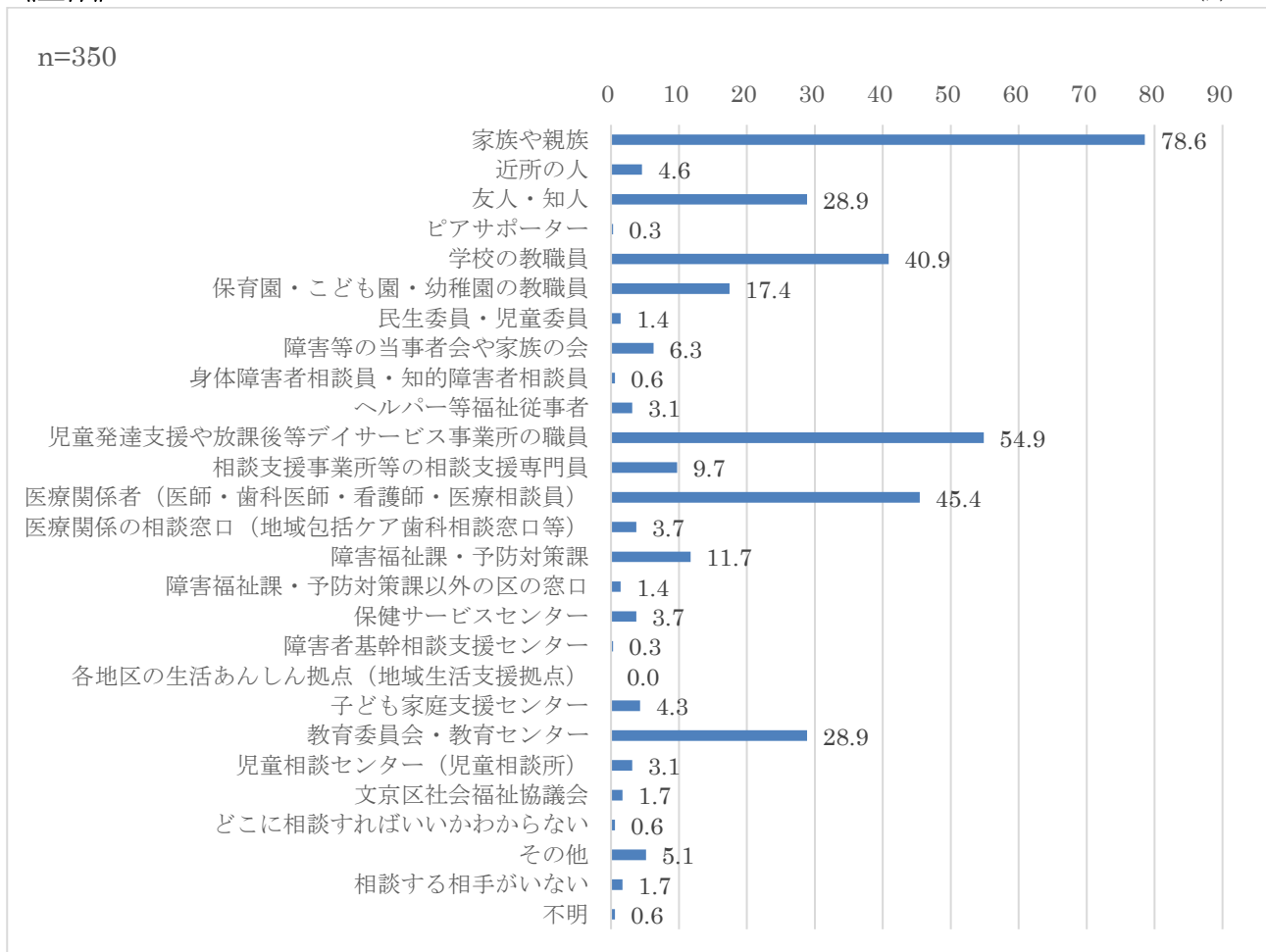
障害別の日常生活で困っていることについては、多くの障害で「将来に不安を感じている」が最も多くなっています。

また、「音声・言語・そしゃく機能障害」と「視覚障害」では、「災害時の避難に不安がある」が最も多くなっています。

(3-2) 困った時の相談相手 (問 17)

《全体》

(%)



困ったときの相談相手については、「家族や親族」(78.6%)が最も多く、次いで「児童発達支援や放課後等デイサービス事業所の職員」(54.9%)、「医療関係者 (医師・歯科医師・看護師・医療相談員)」(45.4%)、「学校の教職員」(40.9%)となっています。

《障害の種類別》抜粋

(%)

	合計	家族や親族	近所の人	友人・知人	学校の教職員	保育園・こども園・幼稚園の教職員	障害等の当事者会や家族の会	ヘルパー等福祉従事者
肢体不自由	30	86.7	3.3	26.7	46.7	6.7	13.3	16.7
音声・言語・そしゃく機能障害	26	92.3	3.8	26.9	46.2	7.7	19.2	7.7
視覚障害	12	83.3	16.7	33.3	41.7	8.3	8.3	16.7
聴覚・平衡機能障害	14	85.7	7.1	7.1	50.0	14.3	21.4	7.1
内部障害	17	70.6	0.0	17.6	23.5	5.9	17.6	5.9
知的障害	140	77.9	5.0	32.1	53.6	10.7	12.1	5.0
発達障害	213	75.6	4.2	25.8	45.1	15.0	2.8	1.4
精神障害	3	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	100.0	0.0	100.0	50.0	0.0	50.0	0.0
難病 (特定疾病)	21	90.5	0.0	19.0	52.4	0.0	19.0	4.8
その他	19	94.7	10.5	47.4	21.1	47.4	5.3	5.3
不明	18	83.3	5.6	38.9	5.6	66.7	0.0	0.0

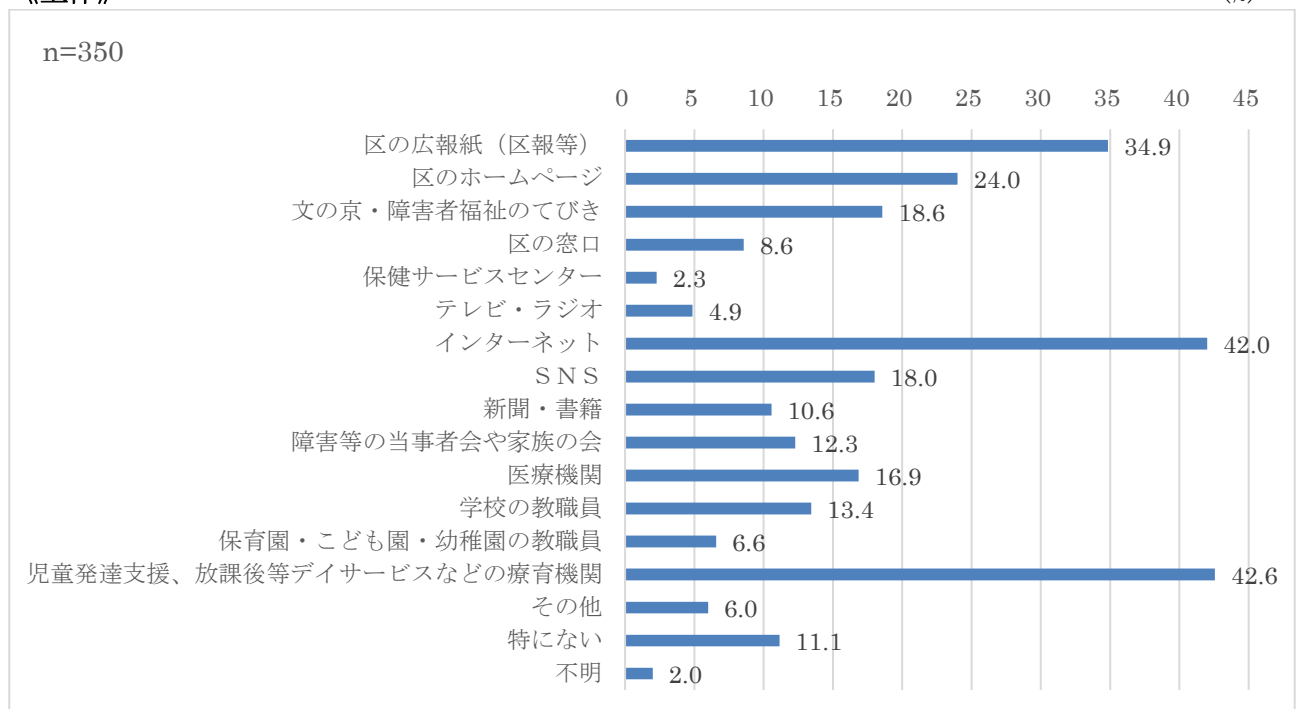
	合計	児童発達支援や放課後等デイサービス事業所の職員	相談支援事業所等の相談支援専門員	医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）	医療関係の相談窓口（地域包括ケア歯科相談窓口等）	障害福祉課・予防対策課	保健サービスセンター	教育委員会・教育センター
肢体不自由	30	33.3	10.0	60.0	6.7	26.7	3.3	6.7
音声・言語・そしゃく機能障害	26	46.2	7.7	46.2	0.0	15.4	3.8	15.4
視覚障害	12	16.7	8.3	50.0	8.3	25.0	8.3	33.3
聴覚・平衡機能障害	14	14.3	7.1	57.1	0.0	14.3	0.0	14.3
内部障害	17	5.9	5.9	64.7	17.6	11.8	5.9	17.6
知的障害	140	61.4	12.1	50.7	3.6	12.9	2.9	18.6
発達障害	213	63.8	11.7	42.7	2.8	10.8	3.3	34.3
精神障害	3	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	21	42.9	9.5	76.2	0.0	23.8	0.0	19.0
その他	19	57.9	10.5	52.6	5.3	10.5	5.3	36.8
不明	18	50.0	5.6	44.4	0.0	5.6	11.1	44.4

障害別の困った時の相談相手については、ほぼ全ての障害で「家族や親族」が最も多くなっています。「知的障害」や「発達障害」では「児童発達支援や放課後等デイサービス事業所の職員」が6割を超え、多くなっています。

(3-3) 福祉に関する情報の入手先（問18）

《全体》

(%)

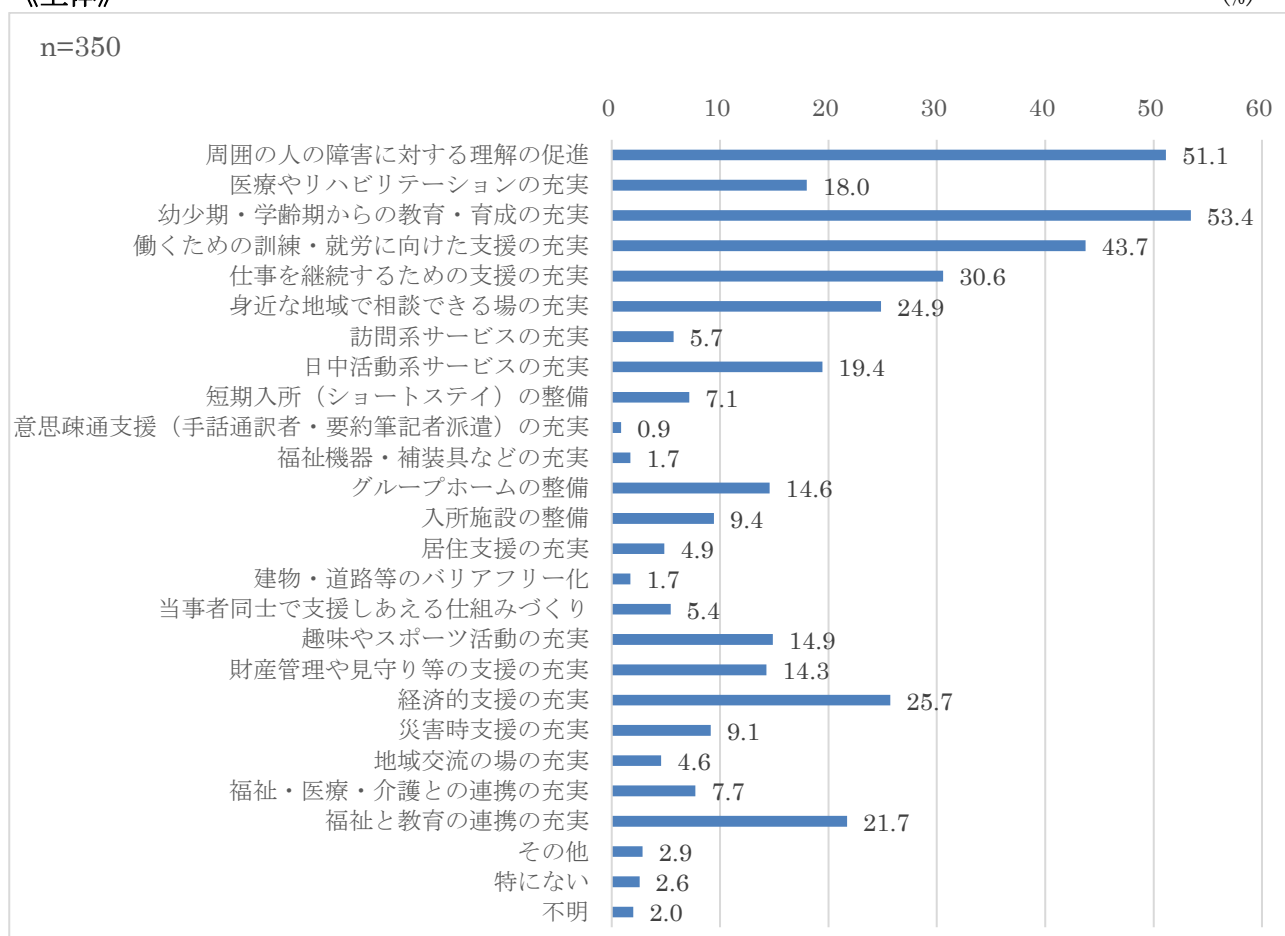


福祉に関する情報の入手先については、「児童発達支援、放課後等デイサービスなどの療育機関」（42.6%）と最も多く、次いで「インターネット」（42.0%）、「区の広報誌（区報）」（34.9%）となっています。

(3-4) 地域で安心して暮らしていくために必要な施策（問 20）

《全体》

(%)



地域で安心して暮らしていくために必要な施策については、「幼少期・学齢期からの教育・育成の充実」(53.4%)が最も多く、次いで「周囲の人の障害に対する理解の促進」(51.1%)となっています。

《障害の種類別》抜粋

(%)

	合計	周囲の人の障害に対する理解の促進	医療やリハビリテーションの充実	幼少期・学齢期からの教育・育成の充実	働くための訓練・就労に向けた支援の充実	仕事を継続するための支援の充実	身近な地域で相談できる場の充実	訪問系サービスの充実
肢体不自由	30	36.7	46.7	26.7	30.0	16.7	13.3	23.3
音声・言語・そしゃく機能障害	26	42.3	30.8	30.8	38.5	26.9	26.9	23.1
視覚障害	12	33.3	16.7	25.0	33.3	33.3	8.3	8.3
聴覚・平衡機能障害	14	64.3	28.6	42.9	21.4	35.7	14.3	0.0
内部障害	17	47.1	35.3	23.5	29.4	29.4	5.9	11.8
知的障害	140	47.9	17.1	45.0	47.1	30.7	17.9	11.4
発達障害	213	51.2	14.1	60.6	47.9	33.3	26.8	2.8
精神障害	3	66.7	33.3	33.3	66.7	66.7	66.7	0.0
高次脳機能障害	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
難病（特定疾病）	21	38.1	23.8	38.1	42.9	23.8	4.8	23.8
その他	19	36.8	10.5	68.4	47.4	15.8	47.4	0.0
不明	18	38.9	11.1	61.1	22.2	22.2	16.7	5.6

	合計	日中活動系サービスの充実	短期入所の整備	グループホームの整備	趣味やスポーツ活動の充実	経済的支援の充実	福祉・医療・介護との連携の充実	福祉と教育の連携の充実
肢体不自由	30	43.3	23.3	30.0	6.7	30.0	23.3	3.3
音声・言語・そしゃく機能障害	26	30.8	23.1	30.8	11.5	15.4	15.4	15.4
視覚障害	12	16.7	16.7	16.7	25.0	41.7	16.7	16.7
聴覚・平衡機能障害	14	14.3	21.4	7.1	21.4	14.3	28.6	35.7
内部障害	17	5.9	5.9	11.8	11.8	29.4	11.8	23.5
知的障害	140	33.6	12.1	33.6	20.7	25.7	10.7	17.9
発達障害	213	16.9	5.2	13.1	13.6	23.0	6.1	23.9
精神障害	3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0
高次脳機能障害	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	21	57.1	9.5	33.3	0.0	33.3	14.3	28.6
その他	19	10.5	10.5	5.3	21.1	26.3	5.3	31.6
不明	18	11.1	11.1	0.0	11.1	33.3	5.6	11.1

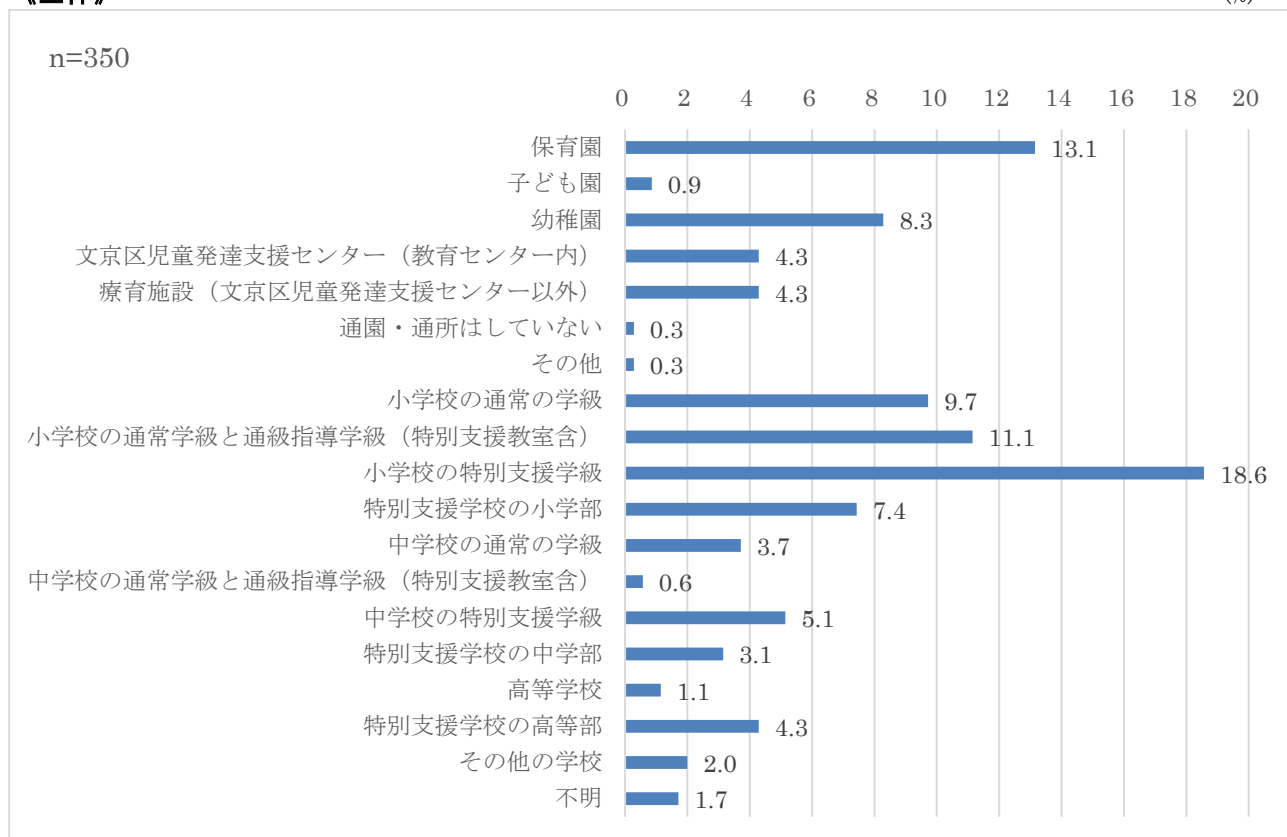
障害別の地域で安心して暮らしていくために必要な施策については、「知的障害」など複数の障害で「周囲の人の障害に対する理解の促進」が最も多くなっています。また、「発達障害」では、「幼少期・学齢期からの教育・育成の充実」が6割を超え、最も多くなっています。

4 教育・保育について

(4-1) 主な通園・通学先 (問26)

《全体》

(%)

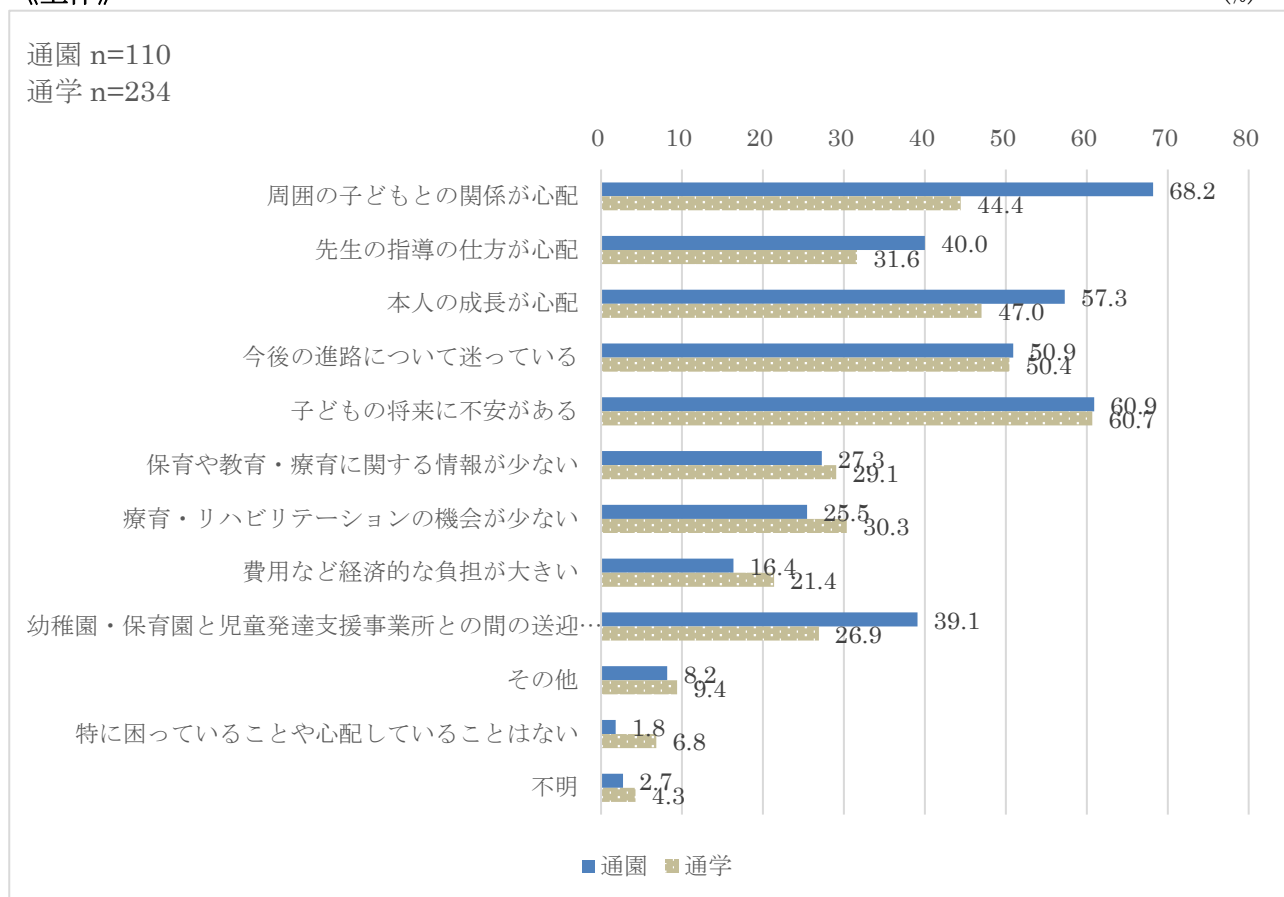


主な通園・通学先については、「小学校の特別支援学級」(18.6%)が最も多く、次いで「保育園」(13.1%)と続いています。

(4-2) 通園生活・通学生活に関する困りごと (問 27・29)

《全体》

(%)

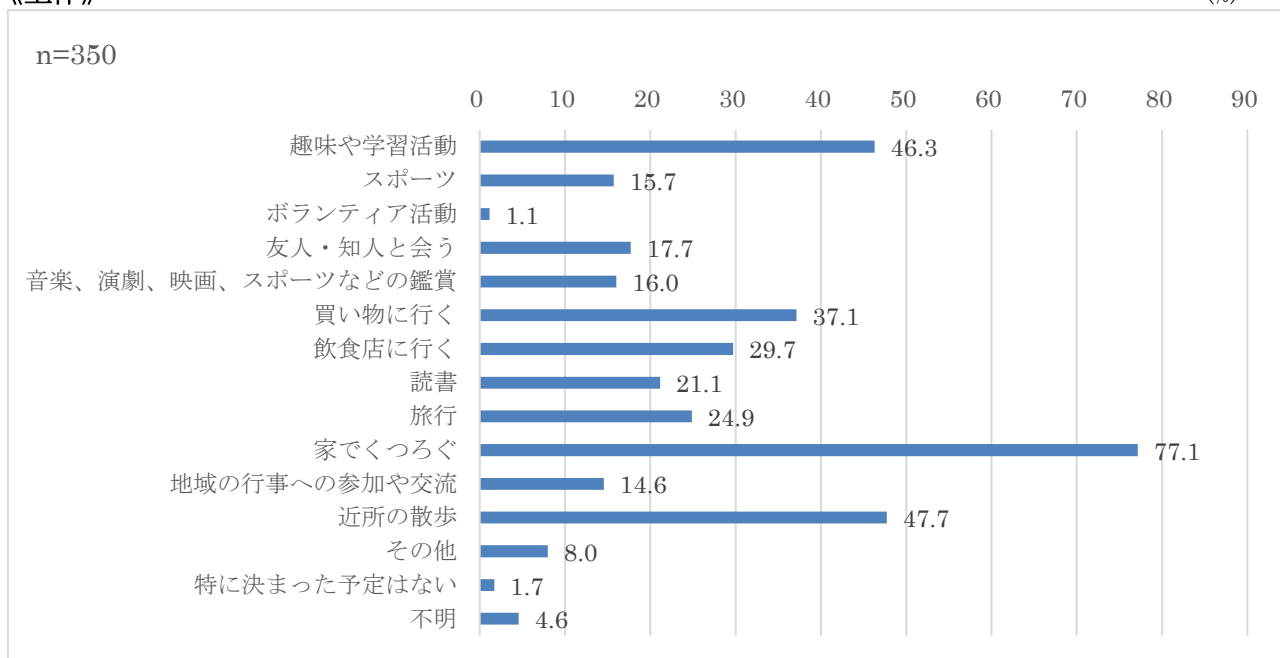


通園生活・通学生活に関する困りごとについては、「通園生活」では「周囲の子どもとの関係が心配」(68.2%)が最も多くなっていますが、「通学生活」では44.4%となっています。一方、「子どもの将来に不安がある」は「通園生活」、「通学生活」とともに6割を超え、多くなっています。

(4-3) 余暇の過ごし方 (問 34)

《全体》

(%)



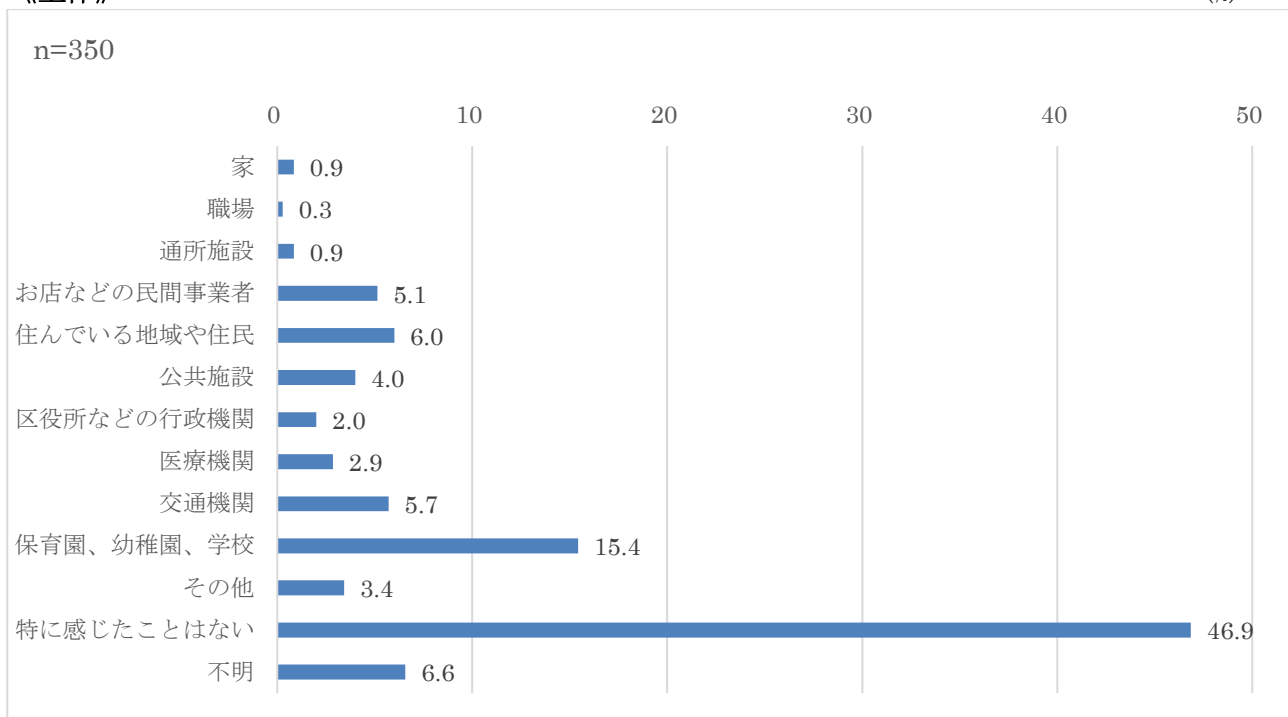
余暇の過ごし方については、「家でくつろぐ」(77.1%)が最も多く、次いで「趣味や学習活動」(46.3%)となっています。

5 権利擁護・差別解消について

(5-1) 地域で障害者差別や合理的配慮の不提供を感じる場面（問38）

《全体》

(%)



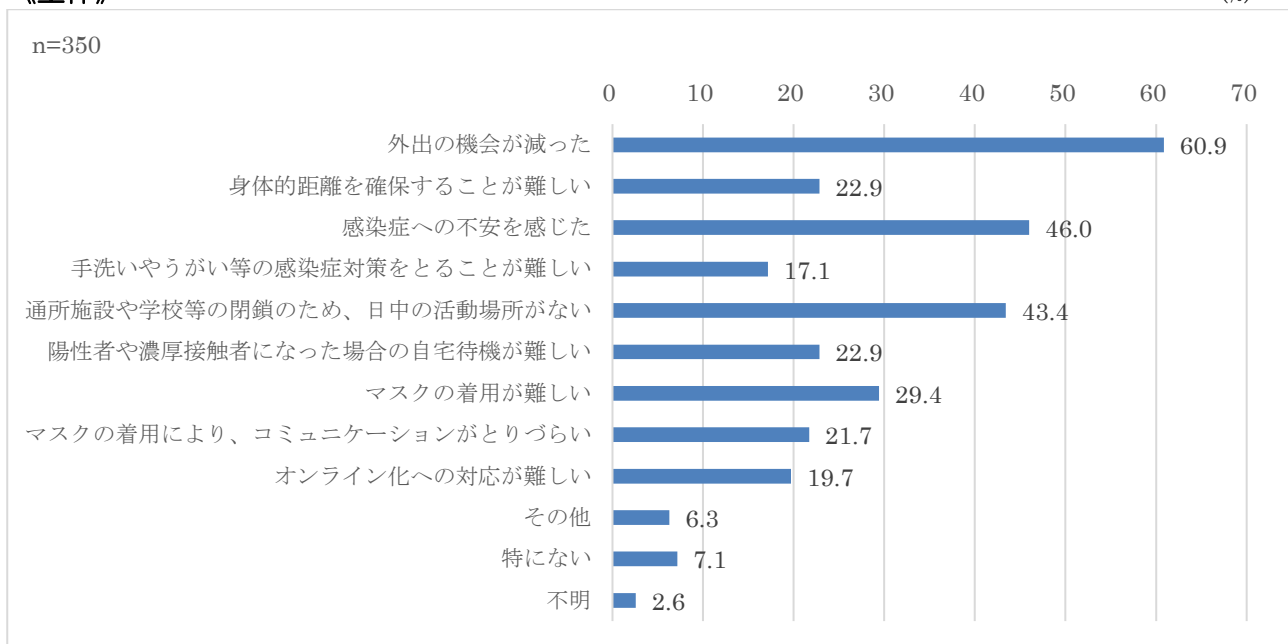
地域で障害者差別や合理的配慮の不提供を感じる場面については、「特に感じたことはない」が46.9%と半数近くを占めています。次いで、「保育園、幼稚園、学校」(15.4%)、「住んでいる地域や住民」(6.0%)と続いています。

6 感染症について

(6-1) 感染症拡大時に困ったことや困りごと（問42）

《全体》

(%)



感染症発生時の困りごとについては、「外出の機会が減った」が60.9%と最も多く、次いで「感染症への不安を感じた」(46.0%)、「通所施設や学校等の閉鎖のため、日中の活動場所がない」(43.4%)と続いています。

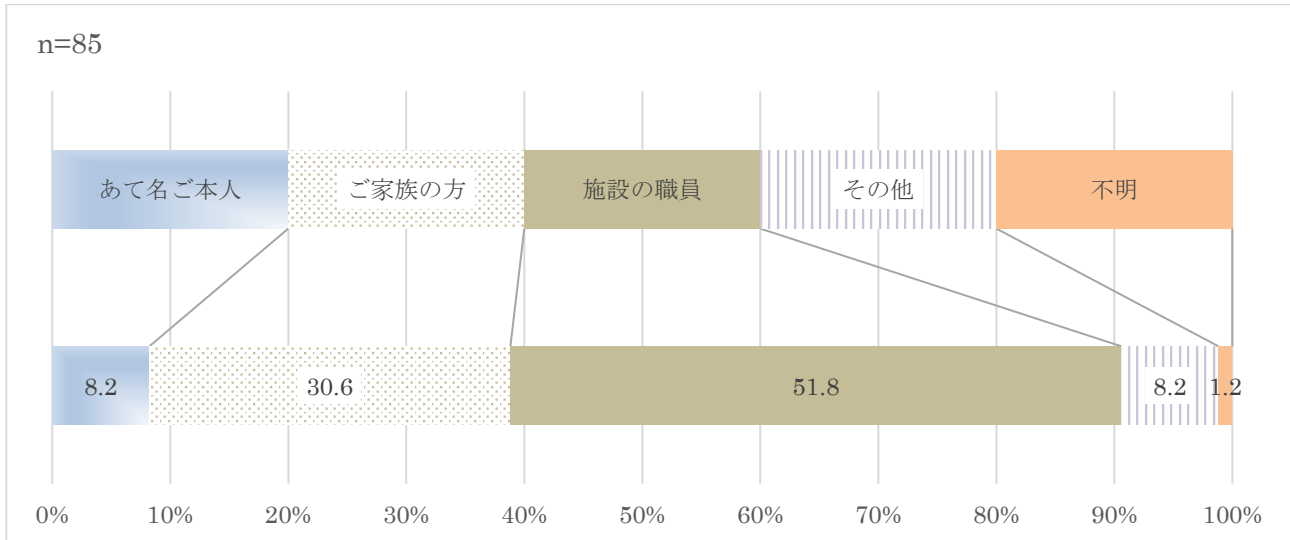
5 施設入所の方を対象にした調査

1 対象者特性

(1-1) 回答者 (問1)

《全体》

(%)

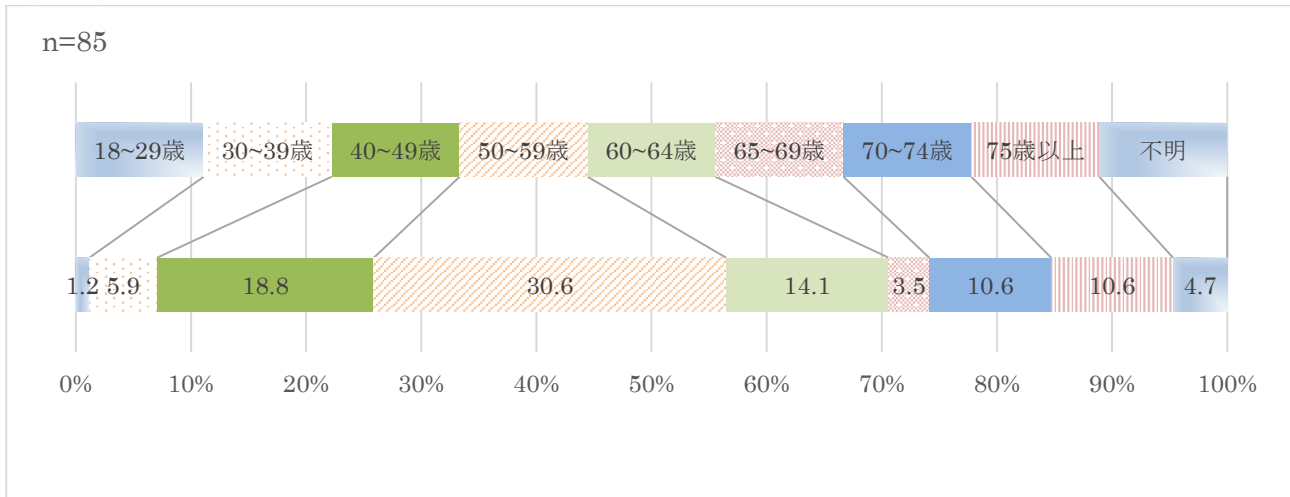


回答者については、「施設の職員」が51.8%、「ご家族の方」が30.6%、「あて名ご本人」が8.2%となっています。

(1-2) 年齢 (問2)

《全体》

(%)



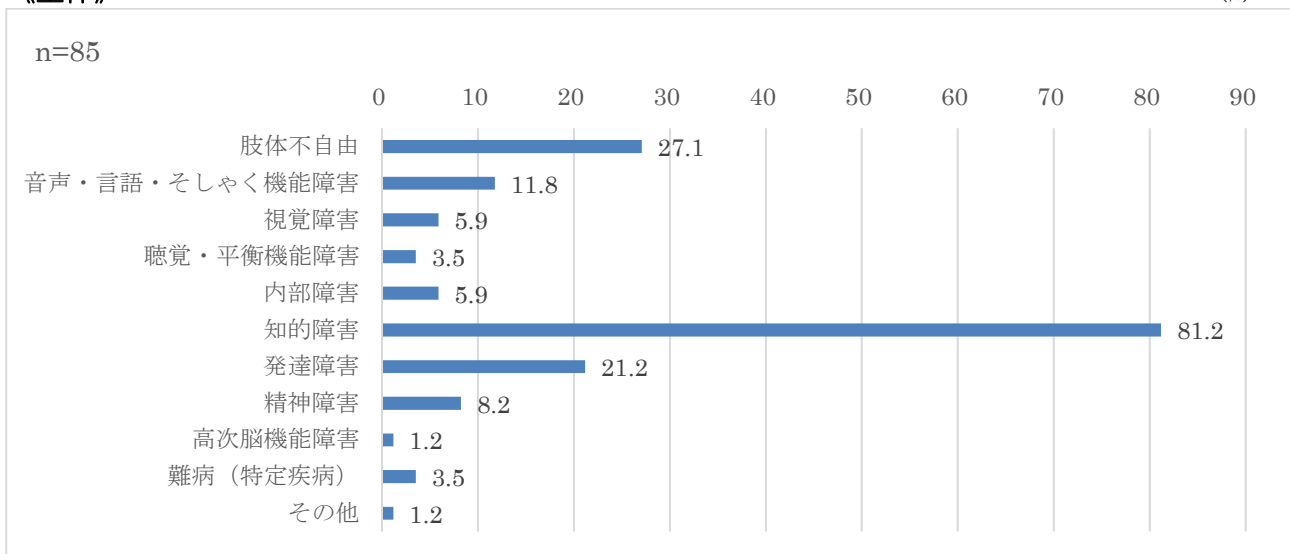
年齢については、「50~59歳」が30.6%と最も多く、次いで「40~49歳」が18.8%となっています。

2 障害の状況について

(2-1) 障害の種類 (問5)

《全体》

(%)



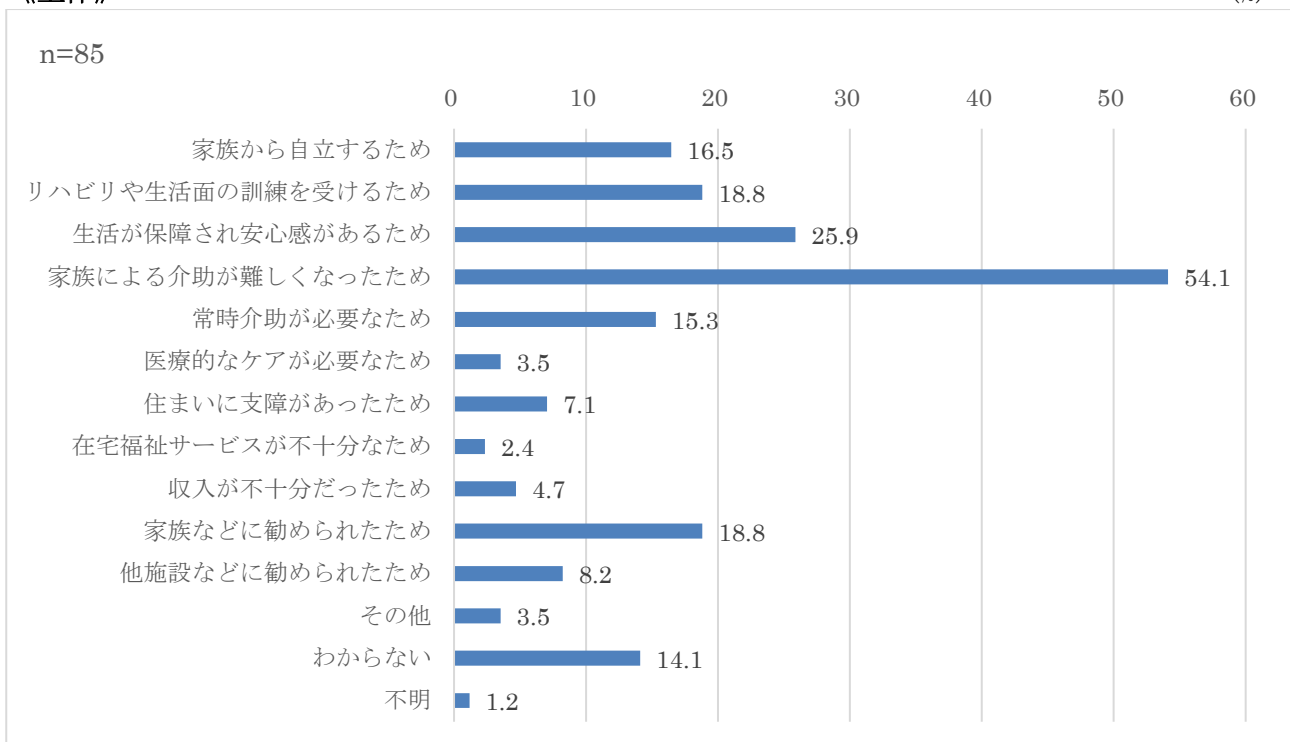
障害の種類については、「知的障害」が81.2%と8割を超えて最も多く、次いで「肢体不自由」が27.1%、「発達障害」が21.2%となっています。

3 施設入所について

(3-1) 入所した理由 (問10)

《全体》

(%)



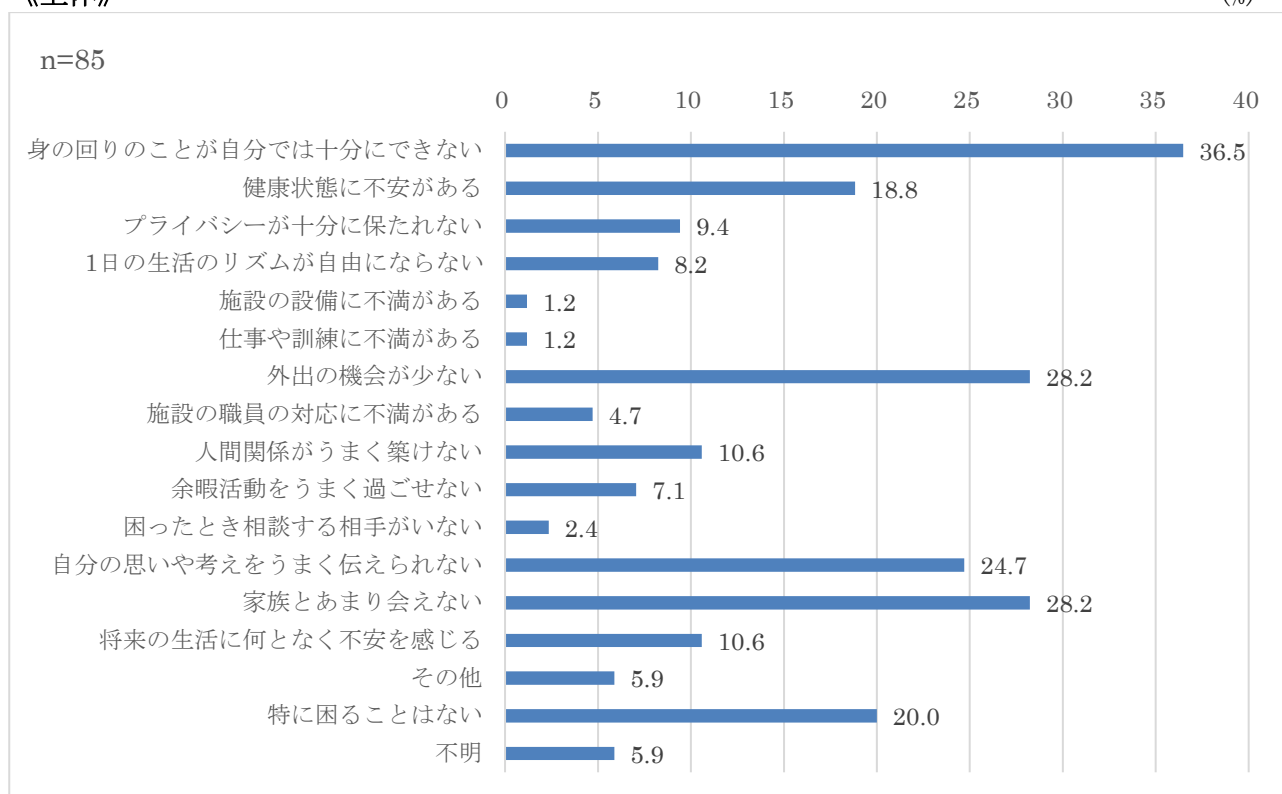
施設に入所した理由については、「家族による介助が難しくなったため」(54.1%)が最も多く、次いで「生活が保障され安心感があるため」(25.9%)、「リハビリや生活面の訓練を受けるため」(18.8%)、「家族などに勧められたため」(18.8%)と続いています。

4 施設での生活について

(4-1) 困っていることや不安なこと (問 13)

《全体》

(%)

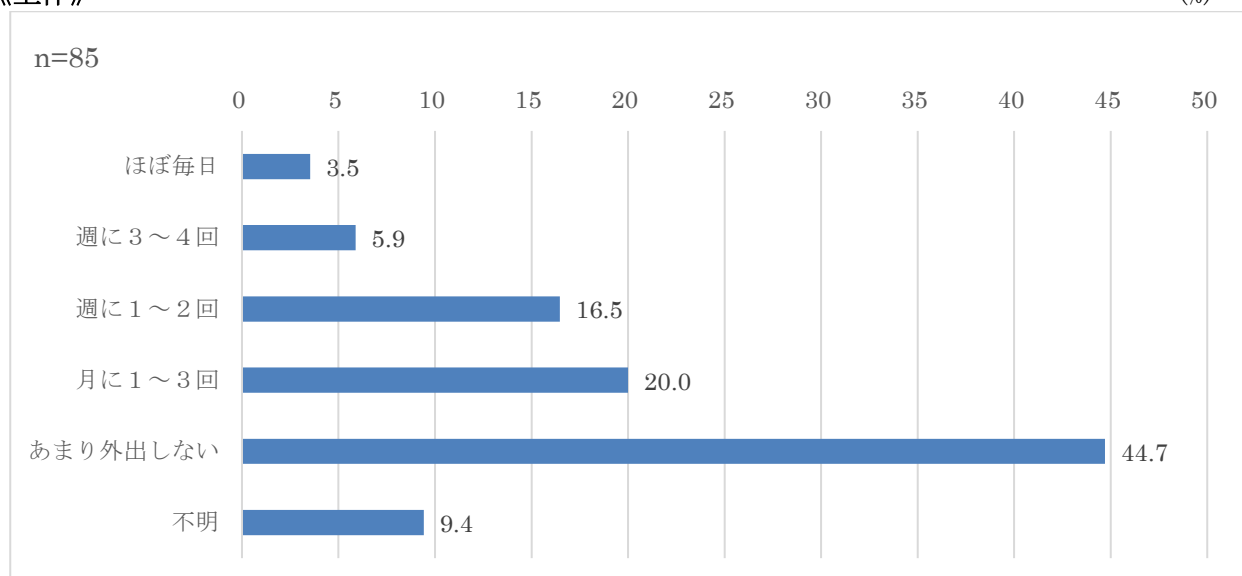


困っていることや不安なことについては、「身回りのことが十分にできない」(36.5%)が最も多く、次いで「外出の機会が少ない」(28.2%)、「家族とあまり会えない」(28.2%)となっています。

(4-2) 外出の頻度 (問 17)

《全体》

(%)



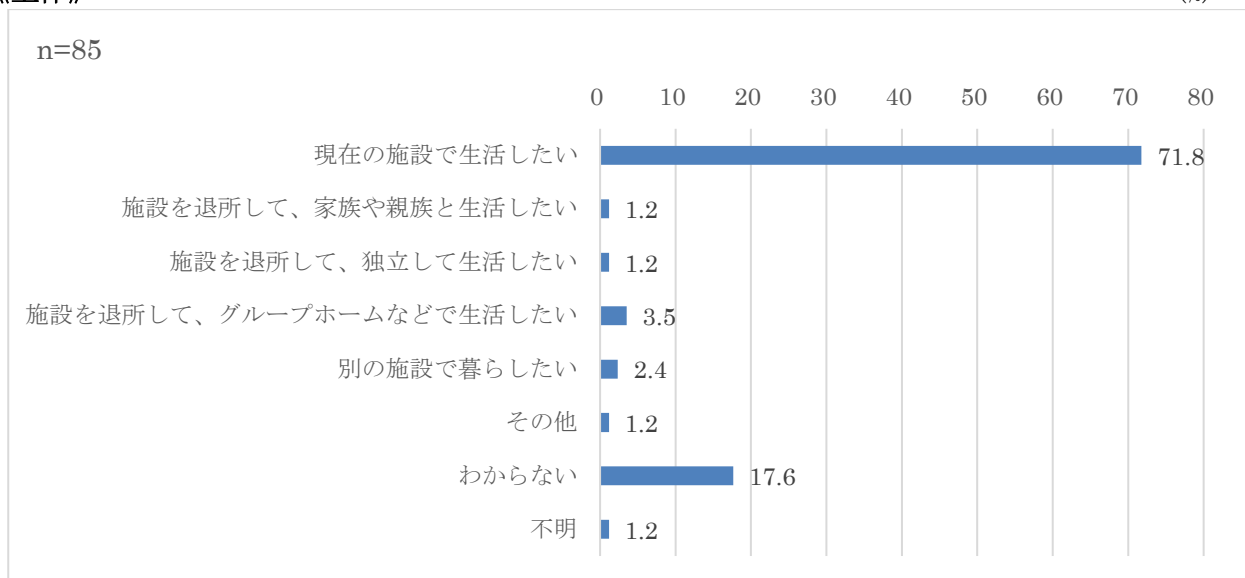
外出の頻度については、「あまり外出しない」(44.7%)と最も多く、「ほぼ毎日」(3.5%)は、最も少なくなっています。

5 今後の暮らし方について

(5-1) 今後希望する生活 (問 18)

《全体》

(%)

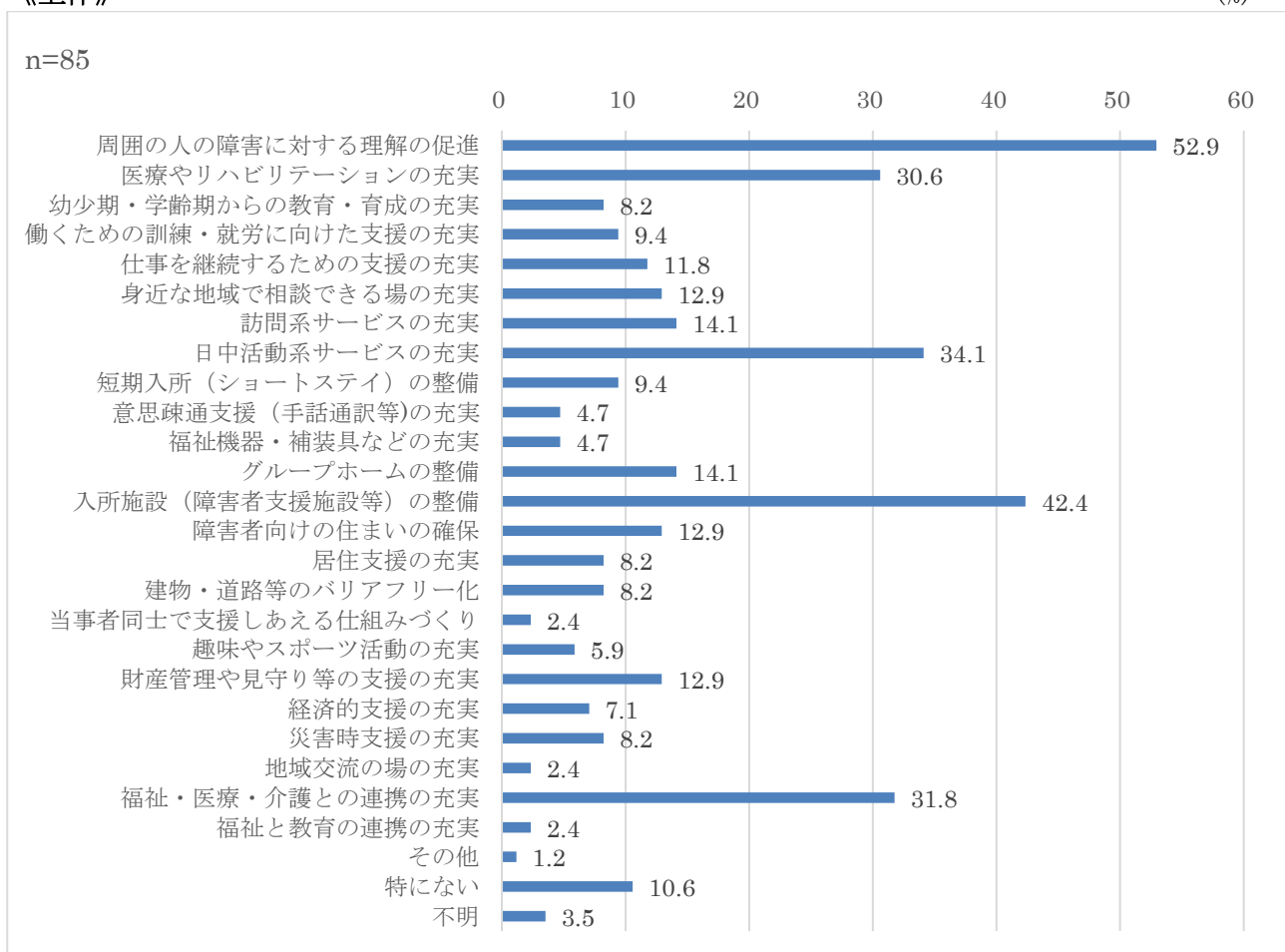


今後希望する生活については、「現在の施設で生活したい」(71.8%)が最も多くなっている一方、「わからない」(17.6%)が2割近くとなっています。

(5-2) 地域で安心して暮らしていくために必要な施策 (問 19)

《全体》

(%)



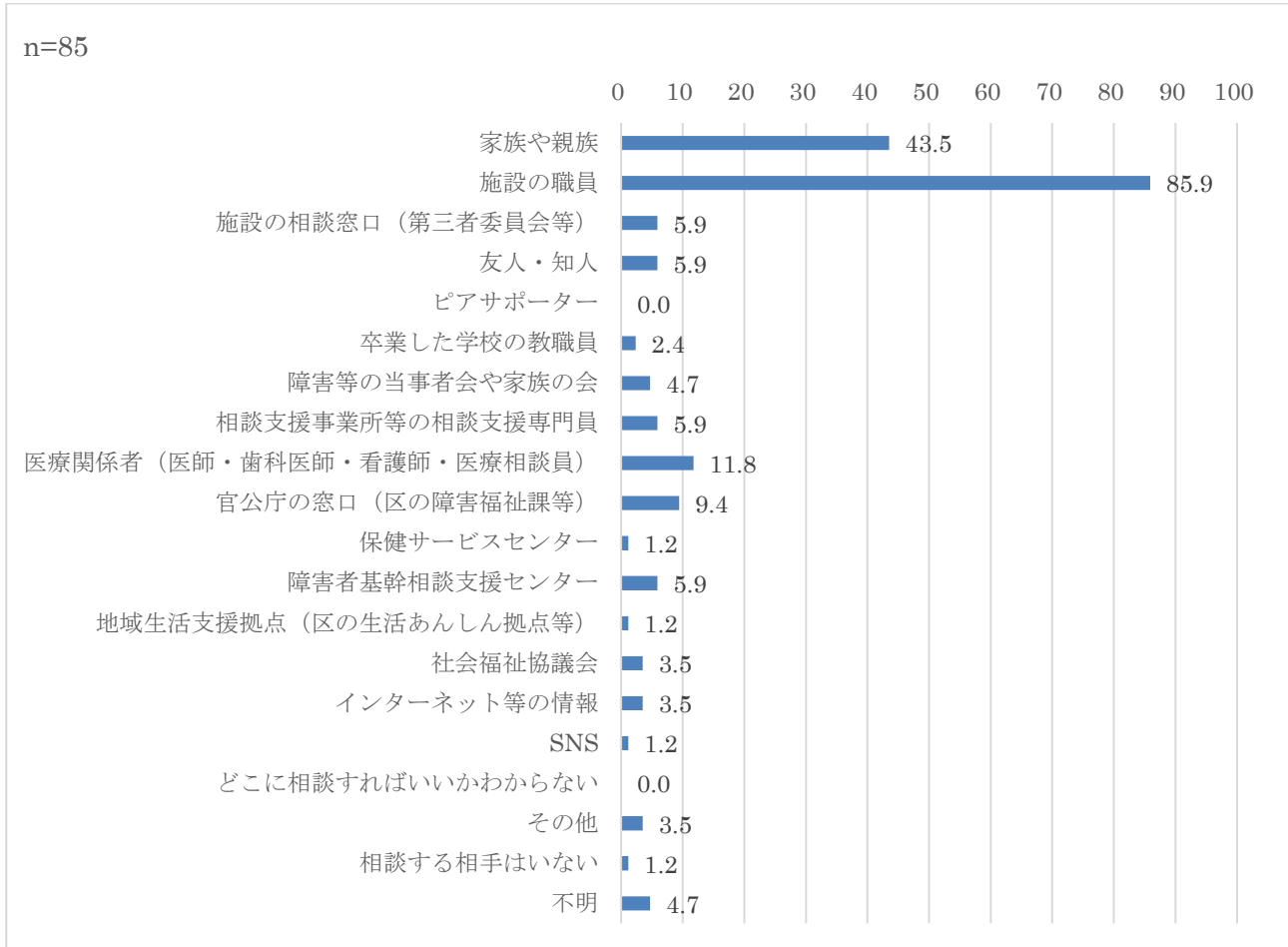
地域で安心して暮らすために必要な施策については、「周囲の人の障害に対する理解の促進」(52.9%)が最も高く、次いで「入所施設(障害者支援施設等)の整備」(42.4%)、「日中活動系サービスの充実」(34.1%)、「福祉・医療・介護との連携の充実」(31.8%)と続いています。

6 相談や福祉の情報について

(6-1) 困った時の相談相手(問20)

《全体》

(%)



困ったときの相談相手については、「施設の職員」(85.9%)が最も多く、次いで「家族や親族」(43.5%)となっています。

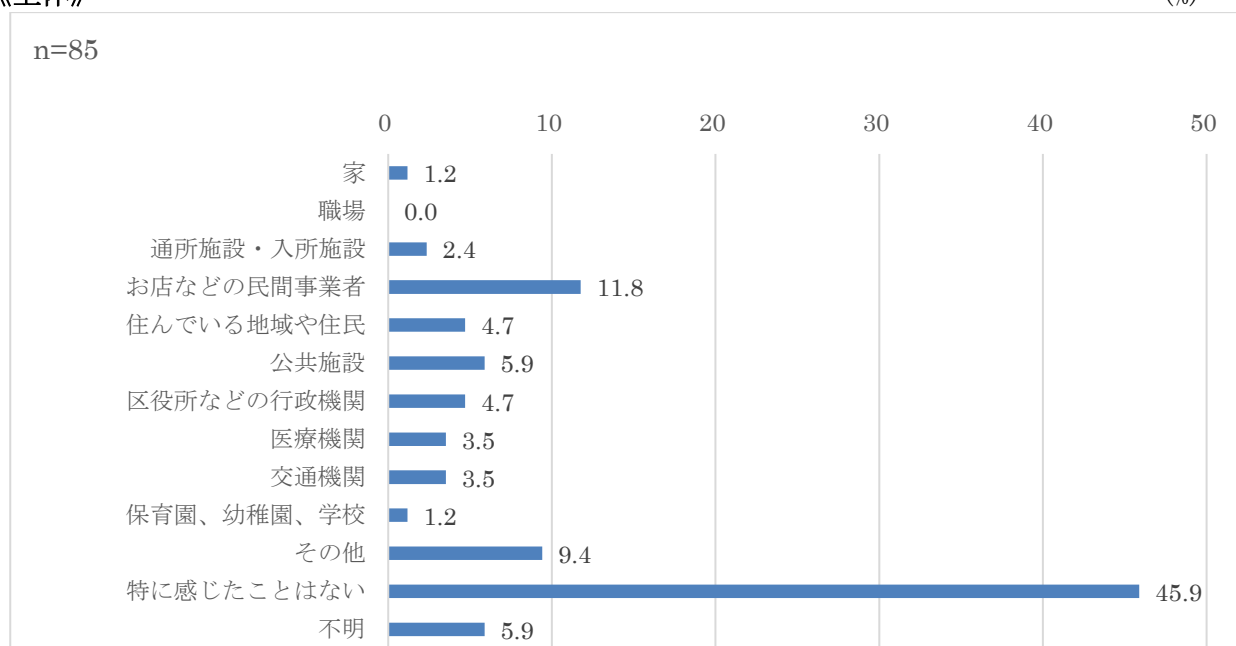
また、「どこに相談すればいいかわからない」の回答はありませんでした。

7 権利擁護・差別解消について

(7-1) 地域で障害者差別や合理的配慮の不提供を感じる場面（問 24）

《全体》

(%)



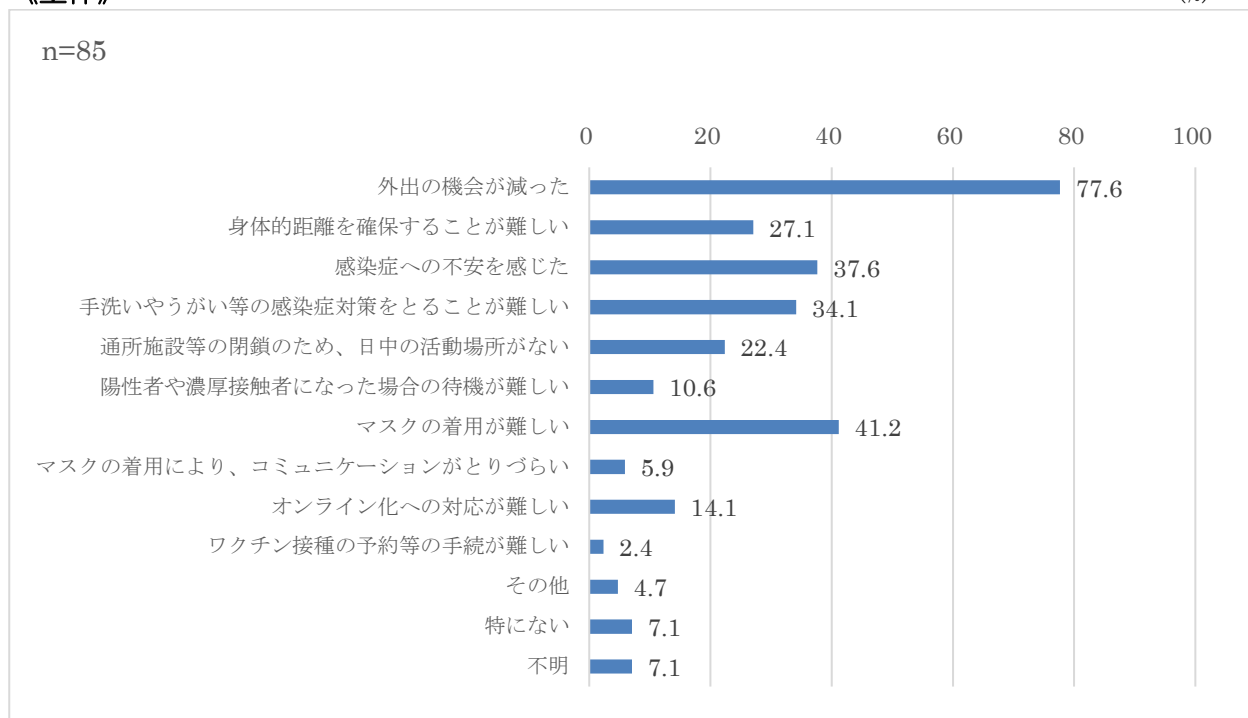
地域で障害者差別や合理的配慮の不提供を感じる場面については、「特に感じたことはない」が45.9%と半数近くを占めています。次いで「お店などの民間事業者」(11.8%)となっています。

8 感染症について

(8-1) 感染症拡大時に困ったことや不安だったこと（問 28）

《全体》

(%)



感染症発生時に困ることについては、「外出の機会が減った」が77.6%と最も多く、次いで「マスクの着用が難しい」(41.2%)、「感染症への不安を感じた」(37.6%)と続いています。

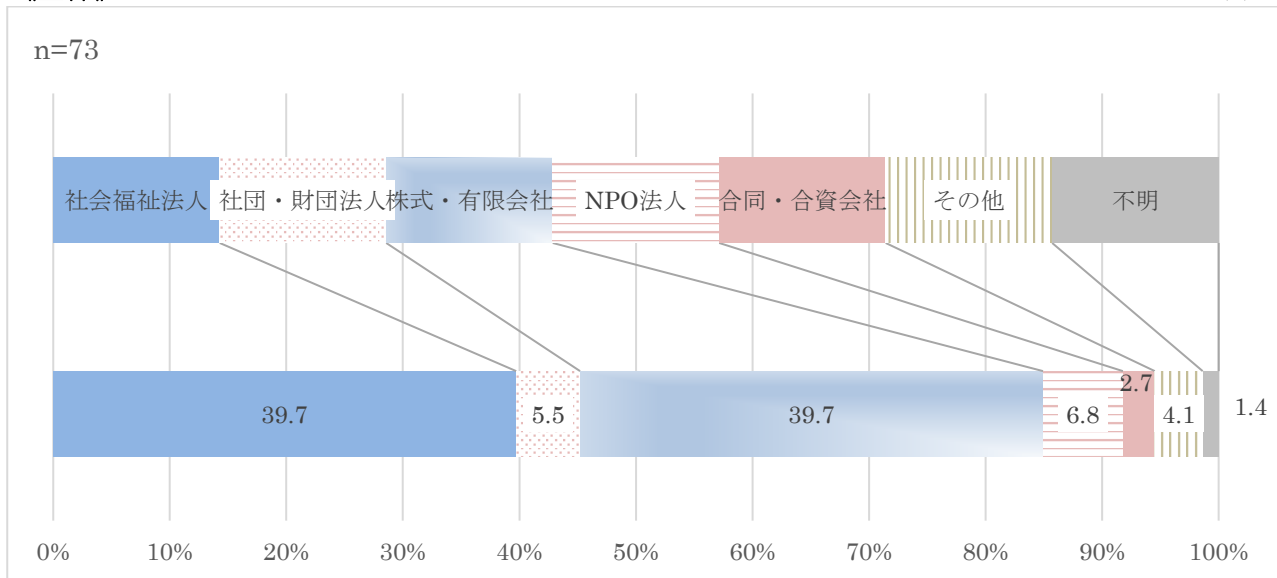
6 サービス事業所を対象にした調査

1 事業運営について

(1-1) 経営主体 (問1)

《全体》

(%)

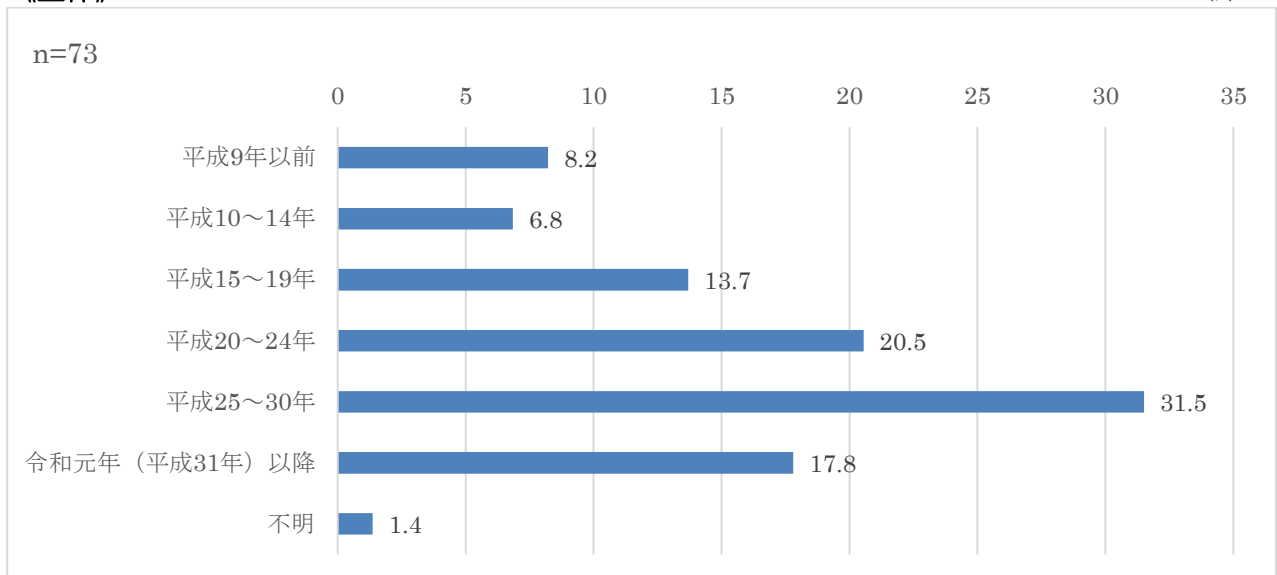


経営主体については、「社会福祉法人」と「株式・有限会社」がともに39.7%と最も多くなっており、全体の8割近くを占めています。

(1-2) 事業所の開業年 (問2)

《全体》

(%)

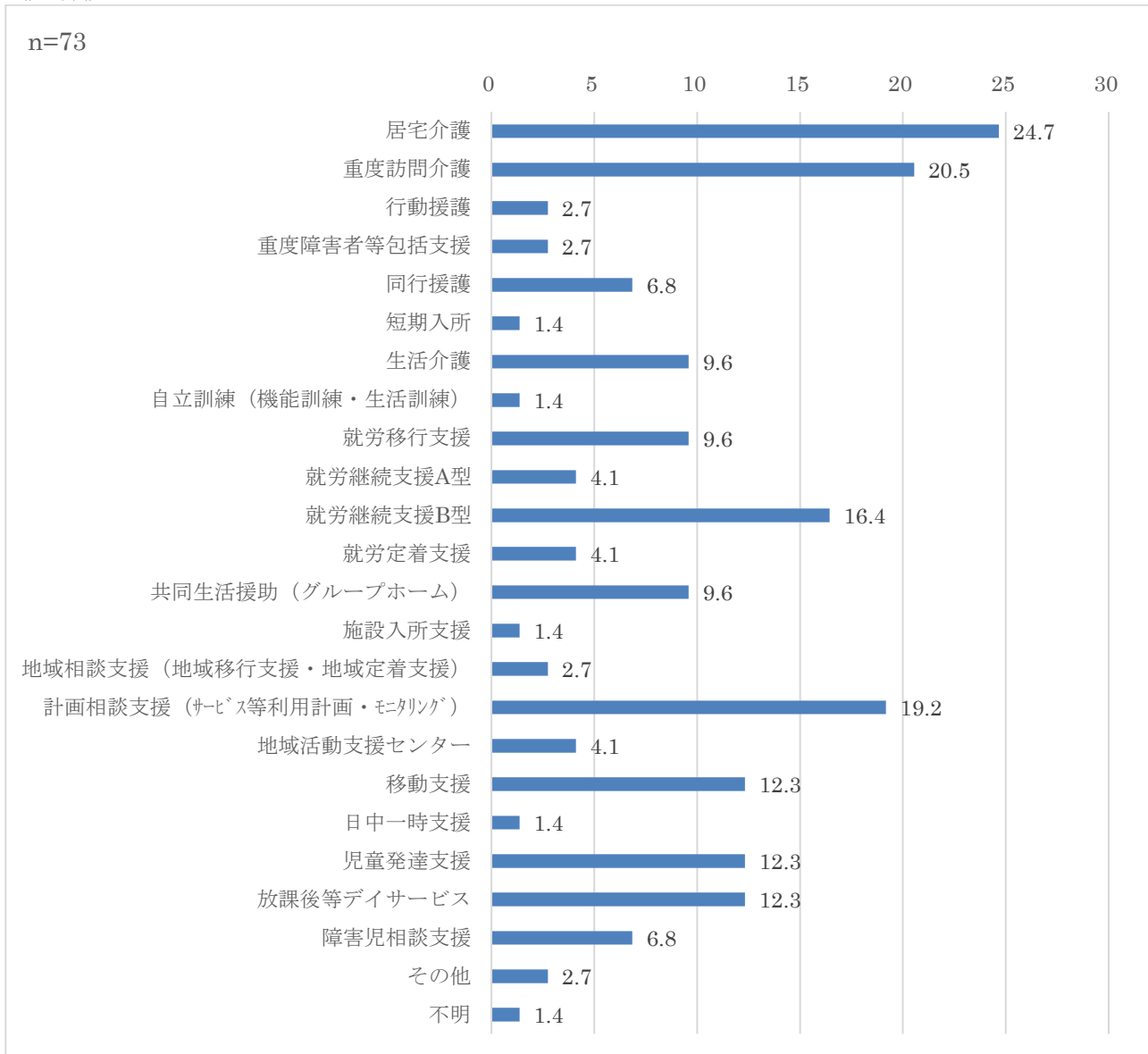


事業所の開業年については、「平成25～30年」(31.5%)が最も多く、「平成20～24年」(20.5%)、「令和元年(平成31年)以降」(17.8%)と続いています。

(1-3) 提供しているサービス (問3)

《全体》

(%)

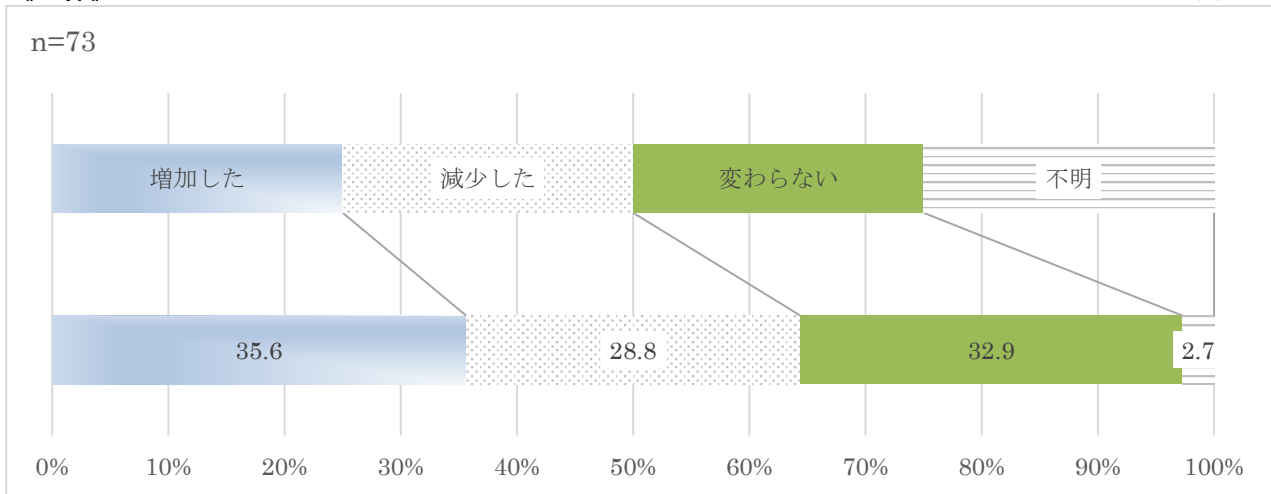


提供しているサービスについては、「居宅介護」が24.7%と最も多く、次いで「重度訪問介護」(20.5%)、「計画相談支援 (サービス等利用計画・モニタリング)」(19.2%)、「就労継続支援B型」(16.4%)と続いています。

(1-4) 事業所の収入 (問6)

《全体》

(%)

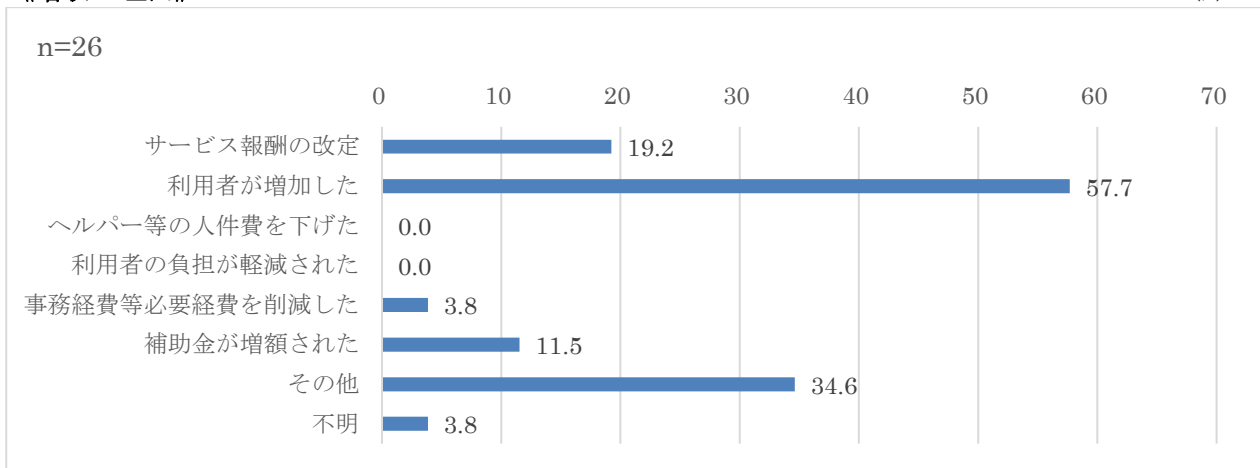


収入では「増加した」が35.6%、「減少した」が28.8%、「変わらない」が32.9%となっています。

(1-5) 増収または減収の理由 (問6-1)

《増収の理由》

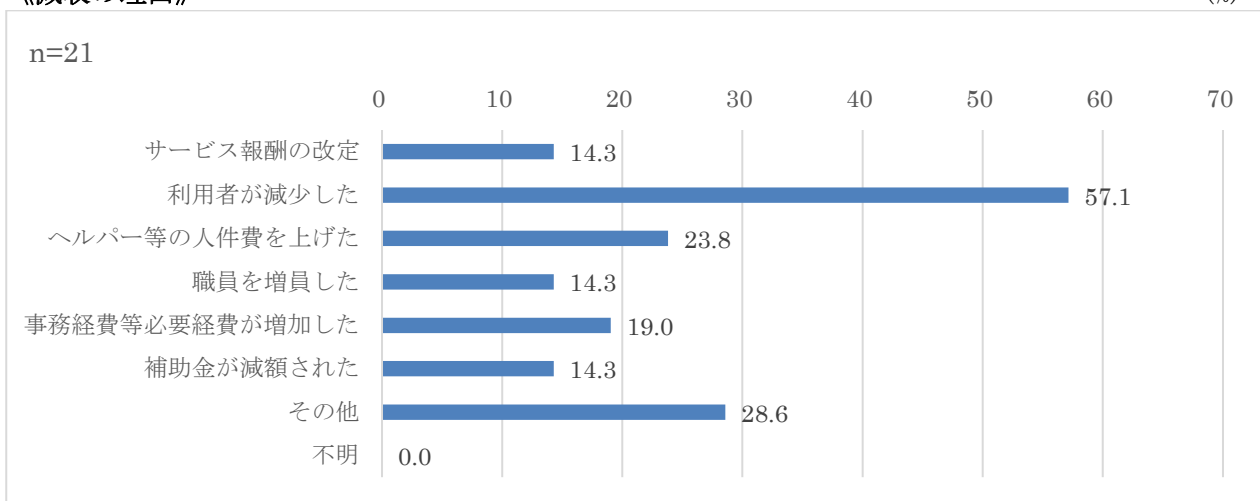
(%)



増収の理由については、「利用者が増加した」(57.7%)が最も多くなっています。

《減収の理由》

(%)



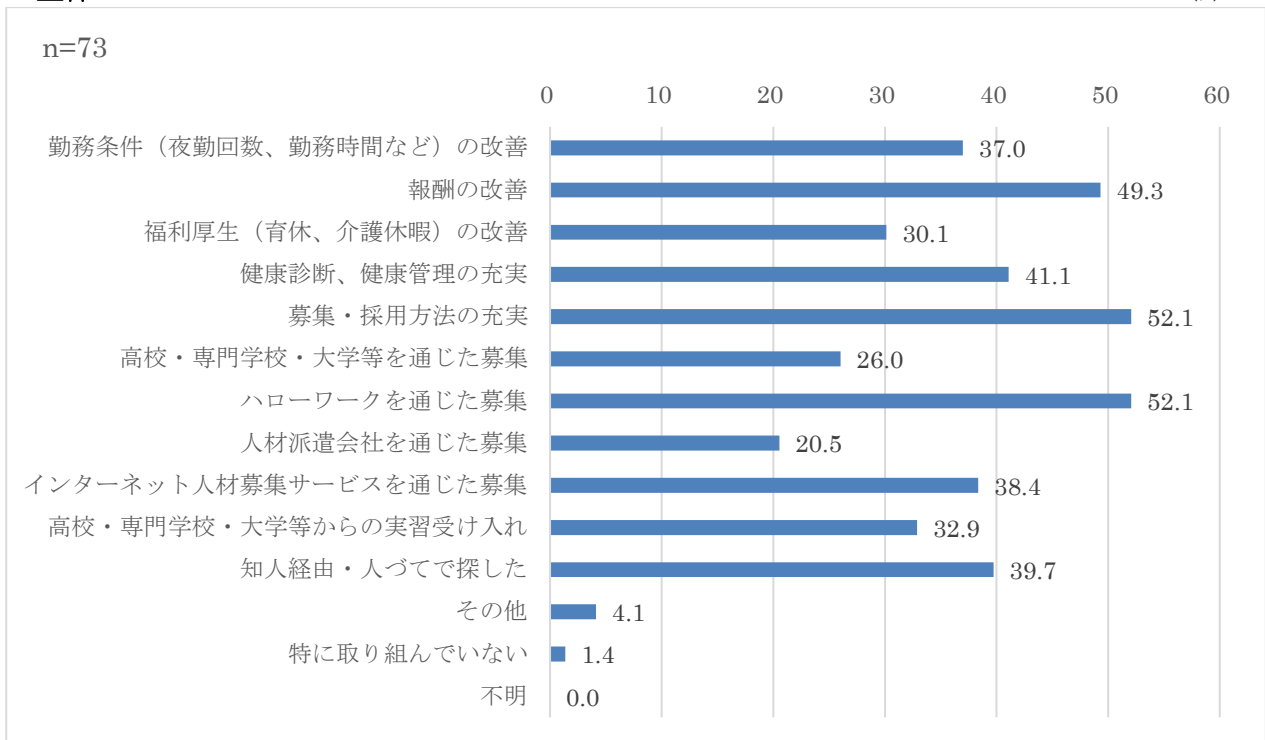
減収の理由については、「利用者が減少した」(57.1%)が最も多く、次いで「ヘルパー等の人件費を上げた」(23.8%)となっています。

2 職員について

(2-1) 人材確保のための取り組み (問 13)

《全体》

(%)

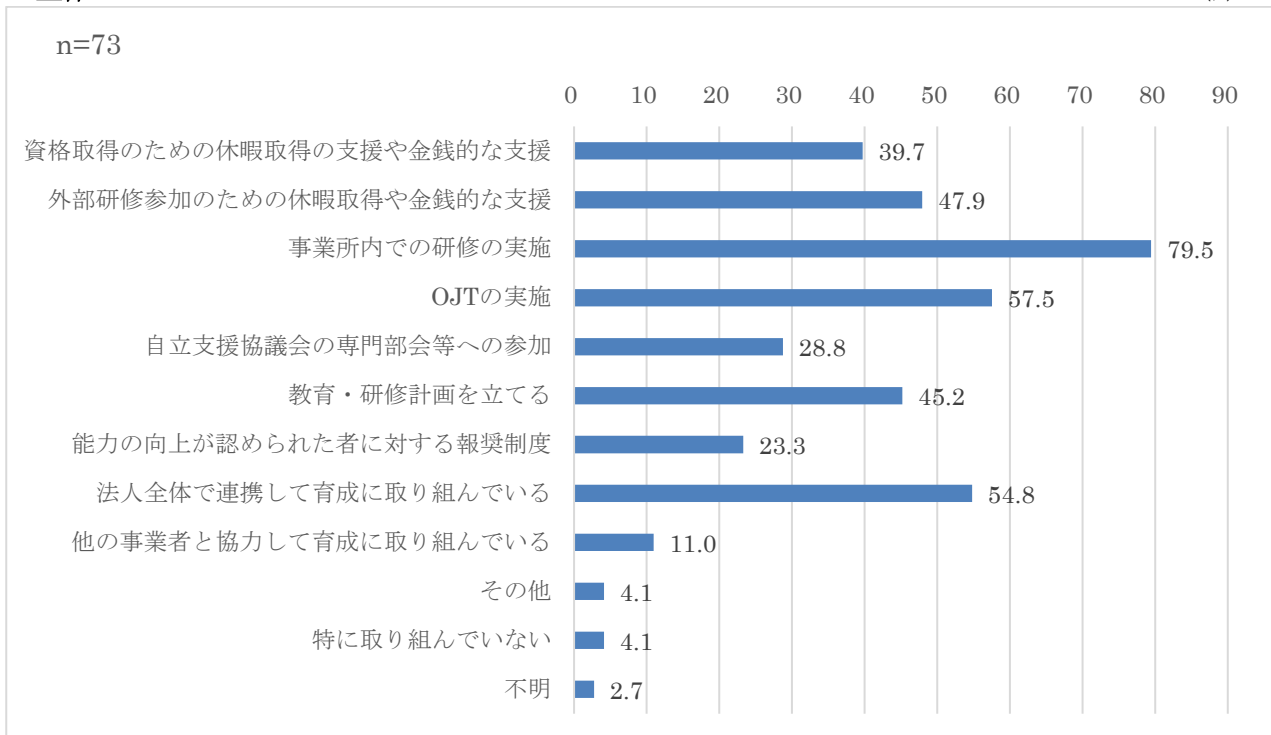


人材確保のための取り組みについては、「募集・採用方法の充実」、「ハローワークを通じた募集」と「報酬の改善」がいずれも半数程度を占めています。

(2-2) 人材育成のための取り組み (問 13)

《全体》

(%)

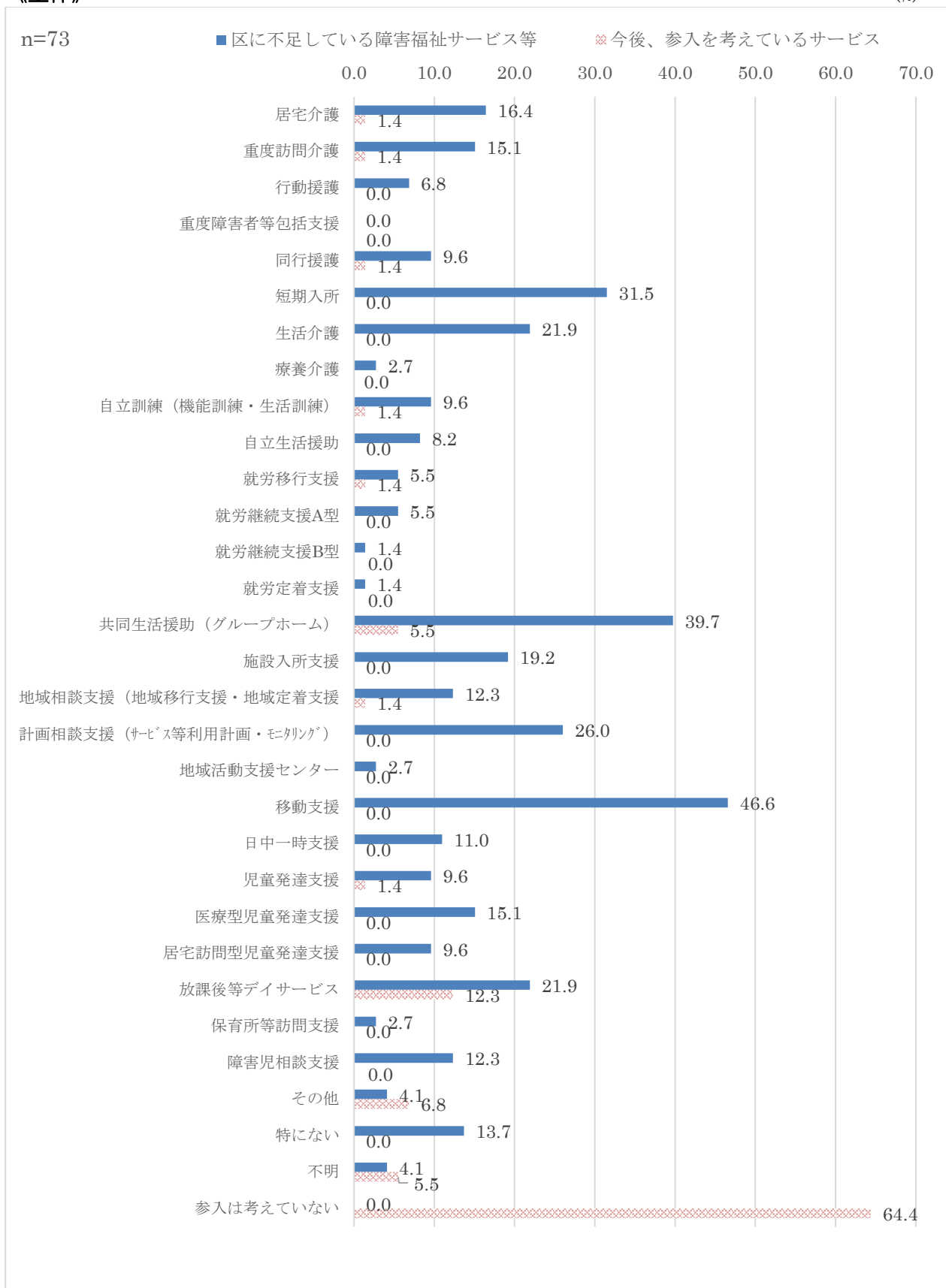


人材育成のための取り組みについては、「事業所内での研修の実施」が79.5%と8割近くで最も多く、次いで「OJTの実施」(57.5%)と「法人全体で連携して育成に取り組んでいる」(54.8%)が5割を超えています。

3 サービス提供について

(3-1) 区に不足しているサービス、今後参入を検討しているサービス (問 20、21)
《全体》

(%)

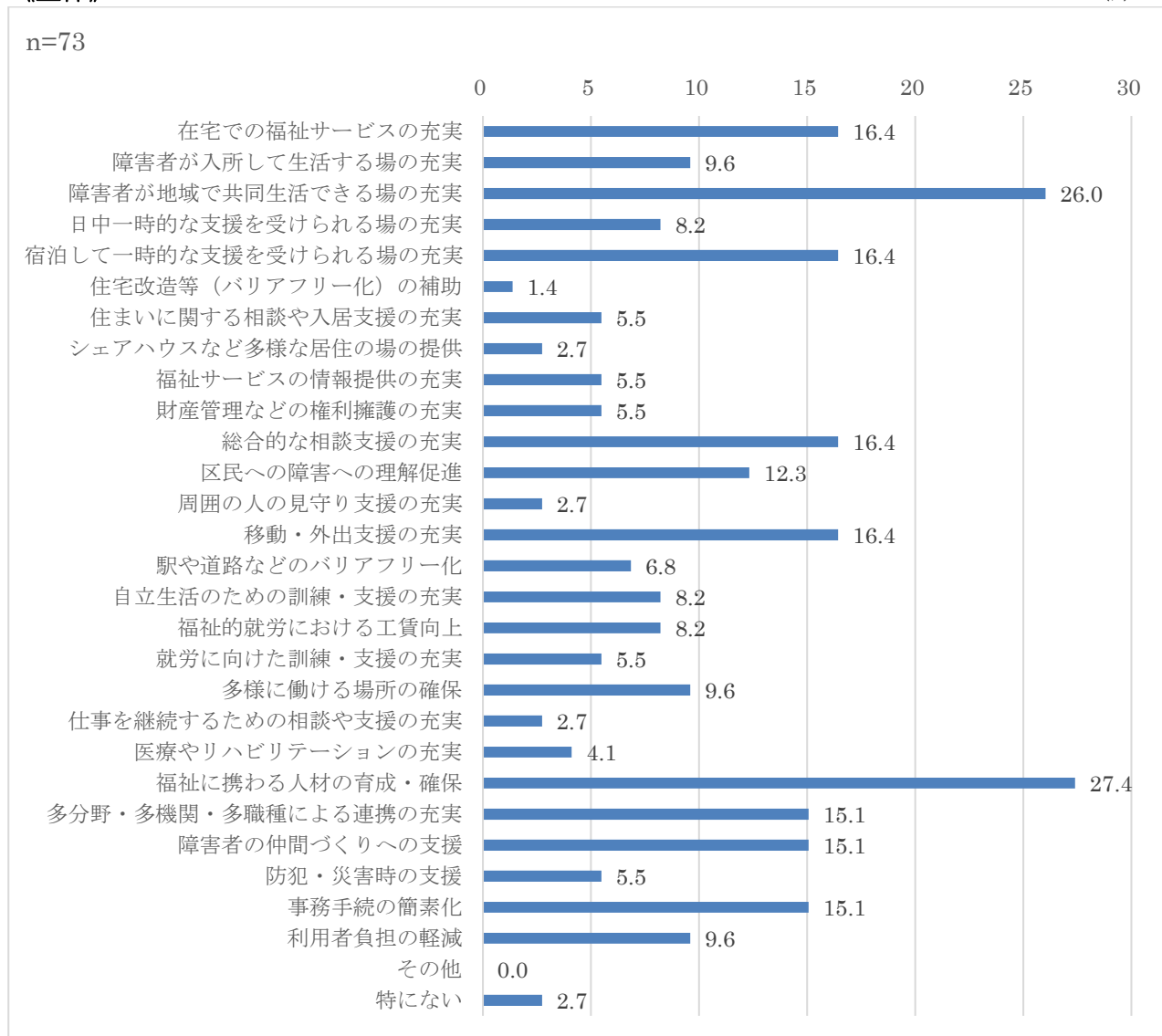


「区に不足しているサービス」については、「移動支援」(46.6%)が最も多く、次いで「共同生活援助(グループホーム)」(39.7%)、「短期入所」(31.5%)と続いています。

また、「今後参入を検討しているサービス」については、「参入は考えていない」が64.4%と最も高く、次いで「放課後等デイサービス」(12.3%)、「共同生活援助(グループホーム)」(5.5%)となっています。

(3-2) 障害福祉施策の充実に必要なこと (問 25) 《全体》

(%)



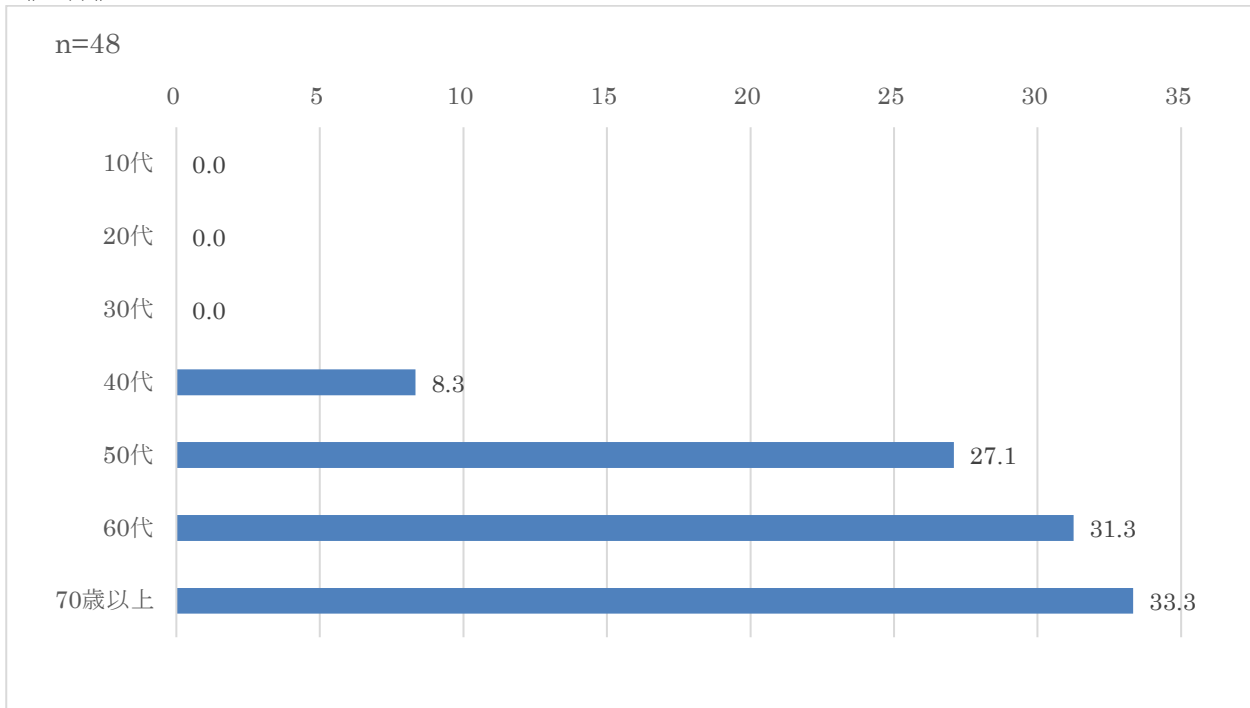
障害福祉施策に必要なことをみると、「福祉に携わる人材の育成・確保」が27.4%と最も多く、次いで「障害者が共同で生活できる場の充実」(26.4%)となっています。

7 長期入院施設を対象とした調査

(1) 年代 (問2)

《全体》

(%)

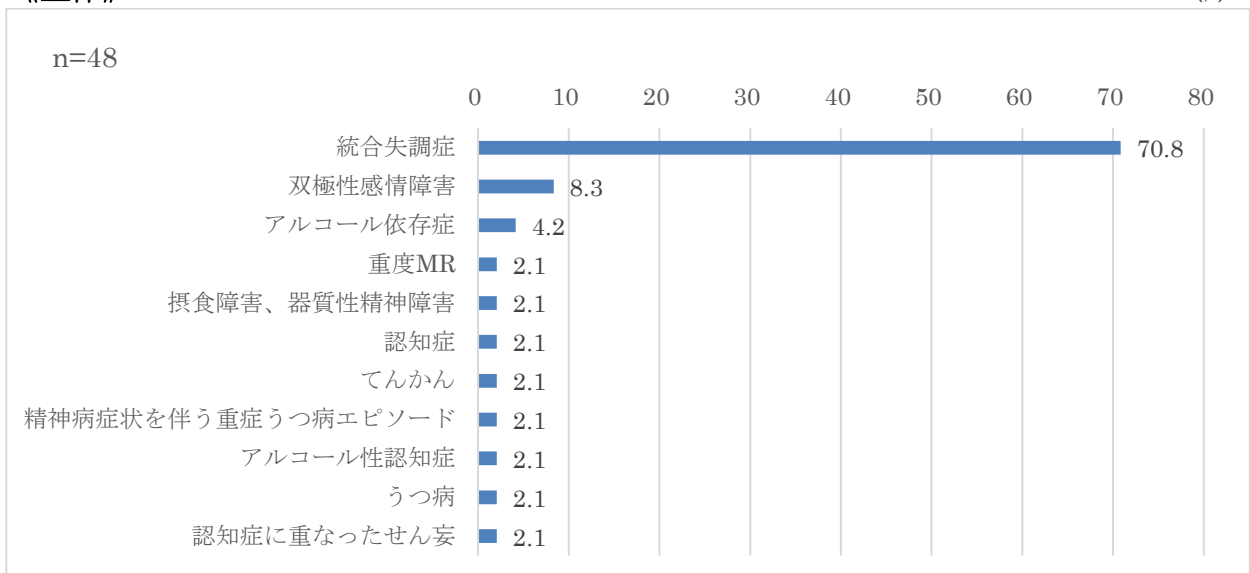


年代については、「70歳以上」(33.3%)が全体の3分の1を占めており、次いで「60代」が31.3%、「50代」が27.1%となっています。

(2) 病名 (問3)

《全体》

(%)

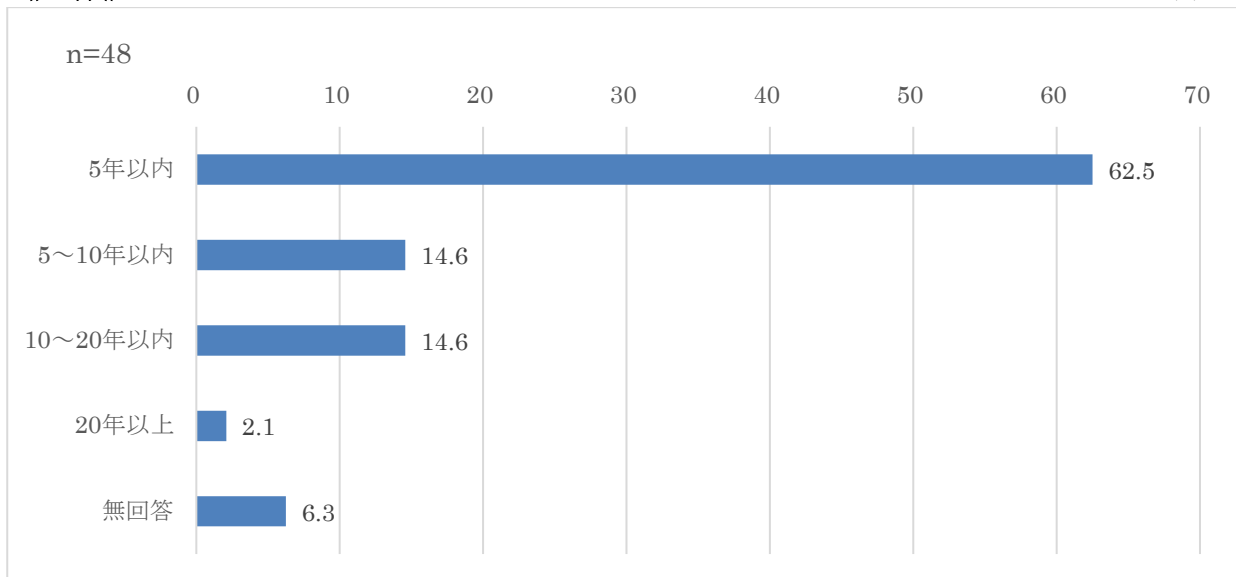


病名については、「統合失調症」(70.8%)となっており、全体の7割を占めています。

(3) 在院期間 (問 6)

《全体》

(%)

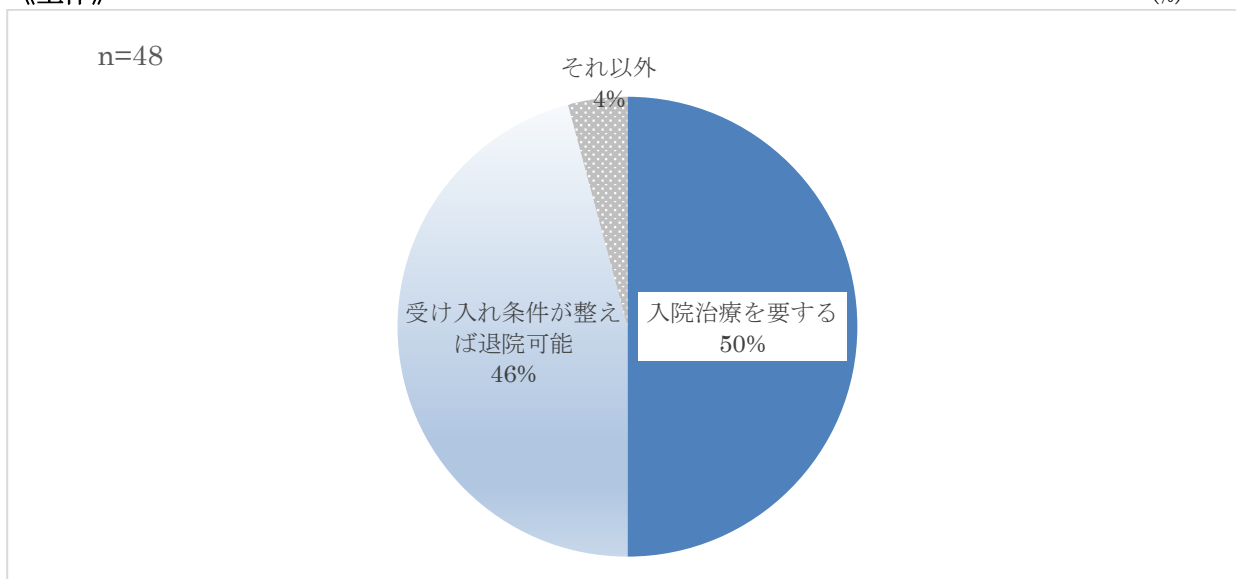


在院期間については、「5年以内」が62.5%と全体の6割以上を占めています。
また、「20年以上」については、全体の2.1%となっています。

(4) 入院状況 (問 7)

《全体》

(%)

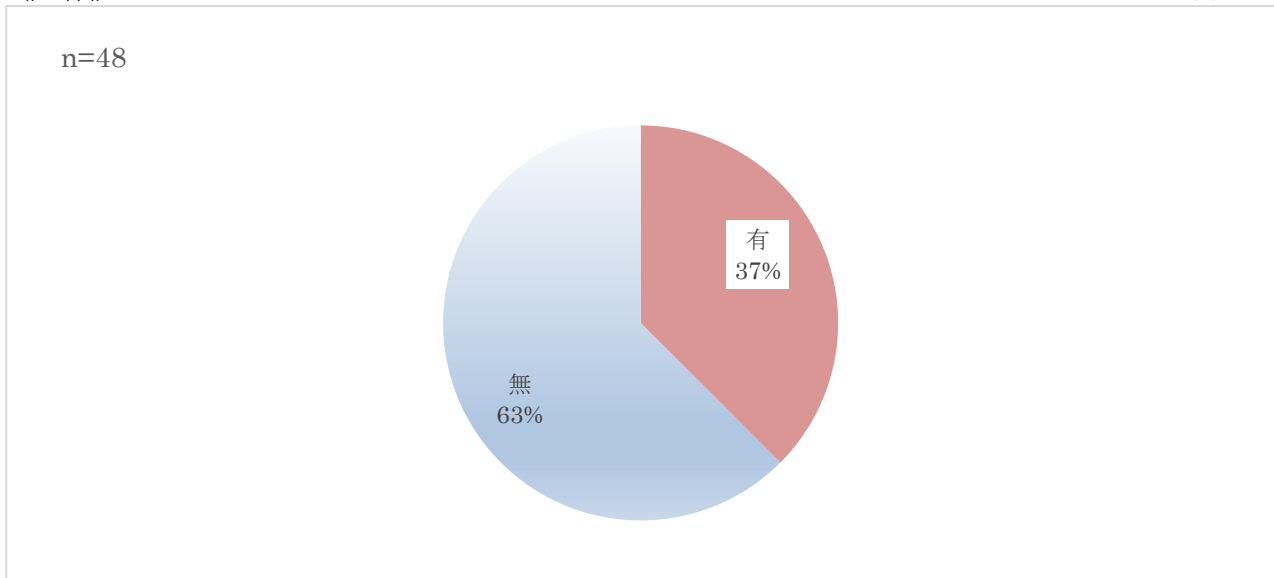


入院状況については、「入院治療を要する」が50%と最も多く、次いで「受け入れ条件が整えば退院可能」が46%と続いています。

(5) 病院から見た退院の見通し (問 8)

《全体》

(%)

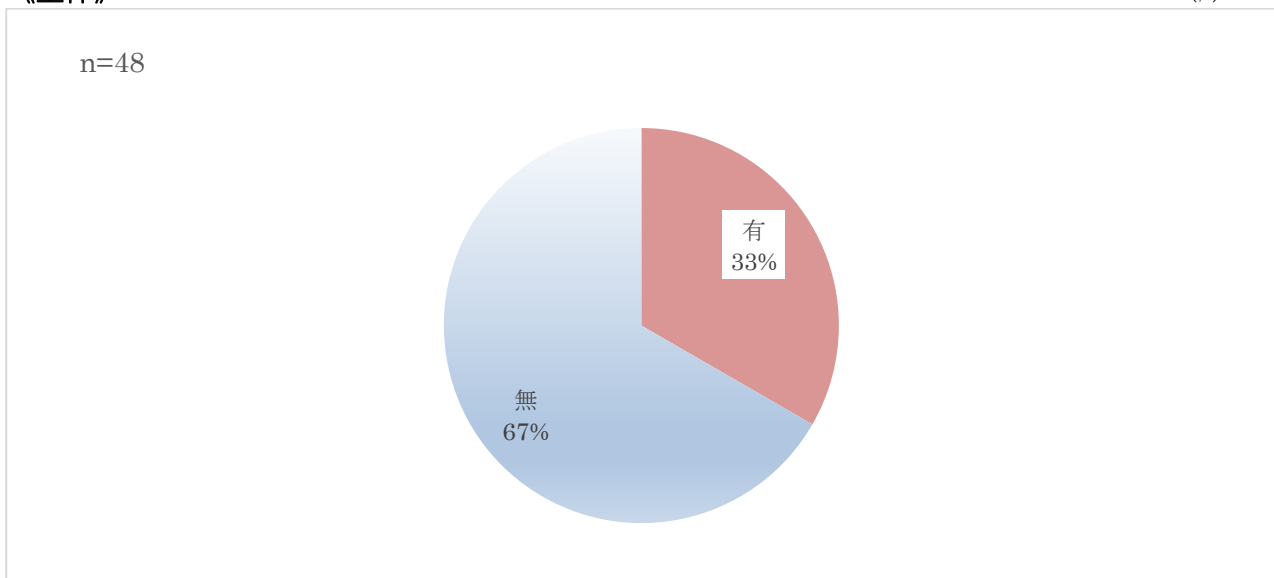


「病院から見た退院の見通し」については、見通し無しが63%と最も多く、見通し有りが37%となっています。

(6) 退院を想定した場合の帰宅先 (問 9)

《全体》

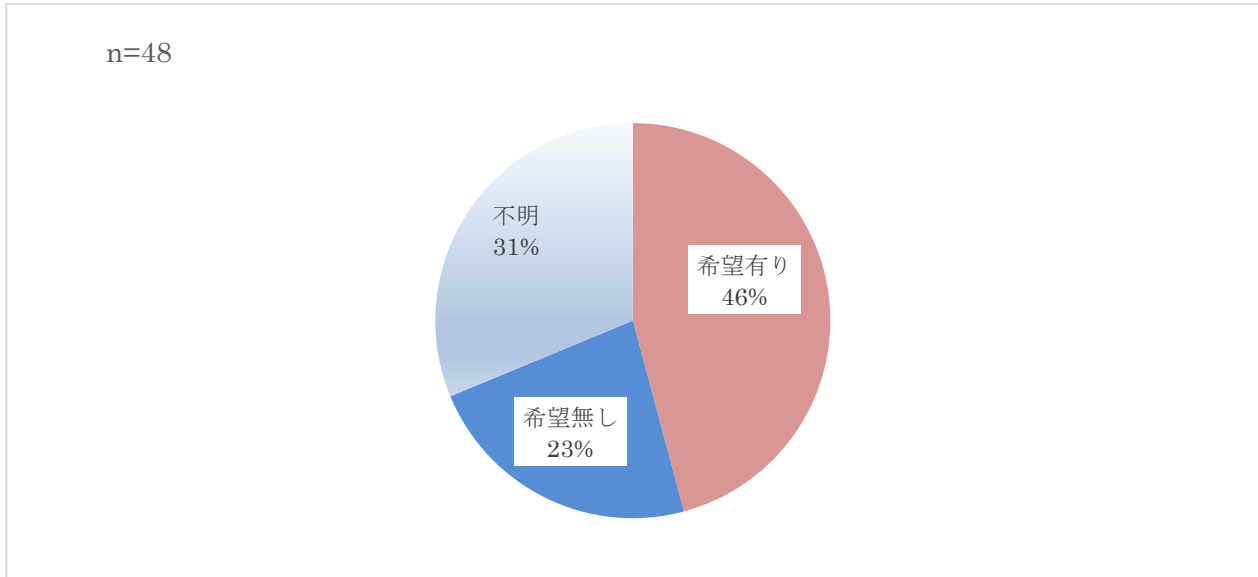
(%)



「退院を想定した場合の帰宅先」については、帰宅先無しが67%と最も多く、帰宅先有りが33%となっています。

(7) 退院に向けた本人の意思 (問 10)
《全体》

(%)



「退院に向けた本人の意思」については、「希望有り」が 46%と最も高く、「希望無し」は 23%となっています。また、「不明」が 31%となっています。

8 質的調査(インタビュー調査)

1 質的調査の概要

これまで、量的調査（アンケート調査）だけでは汲み取りづらい障害者の思いやニーズを可視化する試みとして、質的調査（インタビュー調査）は、区内通所施設やグループホームを利用している知的障害者・精神障害者を対象に実施してきたところです。今回の調査では、それらに加えて都外の入所施設についてもインタビュー調査を実施しました。

インタビューについては、障害福祉を学ぶ東洋大学社会学部社会福祉学科の3、4年生が、同学科の高山直樹教授、志村健一教授及び同大学大学院社会福祉学研究科の勝又健太氏の指導の下に調査を行い、障害者の現状や実態を把握するとともに、対応策等を検討したものです。

2 調査対象

- (1) 区内の通所施設を利用する 18 歳以上の愛の手帳所持者
- (2) 区内の通所施設を利用する 18 歳以上の精神障害者保健福祉手帳所持者
- (3) 区内の共同生活援助(グループホーム)を利用する 18 歳以上の愛の手帳所持者
- (4) 区内の共同生活援助(グループホーム)を利用する 18 歳以上の精神障害者保健福祉手帳所持者
- (5) 都外の入所施設を利用する 18 歳以上の愛の手帳所持者

合計 94 名

対象施設 17 か所

【主に知的障害者が利用する施設 10 か所】

	施設名	サービス種別		施設名	サービス種類
1	大塚福祉作業所	就労継続支援 B 型	6	陽だまりの郷	共同生活援助
2	本後福祉センター (若駒の里)	生活介護	7	ワークショップやまどり	就労継続支援 B 型
3	エルムンド小石川	共同生活援助	8	工房わかざり	就労継続支援 B 型
4	エルムンド千石	共同生活援助	9	ドリームハウス	共同生活援助
5	は〜と・ピア 2	生活介護	10	ワークプレイスぶんぶん	就労継続支援 B 型

【主に精神障害者が利用する施設 5 か所】

	施設名	サービス種別		施設名	サービス種類
1	银杏企画	就労継続支援 B 型	4	文京ホームアンダンテ	共同生活援助
2	ホームいちょう	共同生活援助	5	Abeam (アビーム)	就労継続支援 B 型
3	エナジーハウス	地域活動支援センター			

【主に知的障害者が入所する都外入所施設 2 か所】

※施設名については、個人情報保護の観点から明らかにしていません。

3 調査方法

面接法（グループ・インタビュー）

4 調査内容

属性、日中及び施設での楽しみ、余暇の過ごし方、相談相手、区サービスの利用状況、地域との交流、将来の希望等

5 調査時期

令和4年8月～12月

6 現状・課題と対応策（一部抜粋）

(1) 主に精神障害者が利用する通所施設(就労継続支援 B 型事業所及び地域活動支援センター)のインタビュー調査結果

現状・課題	考えられる対応策
相談相手が限られている	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生との交流等、対等な関係の友人ができる環境づくり ・他区との連携を図ることで、より円滑な支援体制の構築
地域との交流が少ない	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の収束状況を鑑みながら、地域資源(大学、寺社等)と協力して地域のイベントの開催
他の施設との連携の充実が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・施設同士の連携を図るため、ネットワークの活発化を図る(例：自立支援協議会の機能強化など)

(2) 主に知的障害者が利用する就労継続支援 B 型事業所のインタビュー調査結果

現状・課題	考えられる対応策
友人が少ない	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が主体となったイベント企画を行う ・スポーツ交流の場など気軽に繋がれる機会をつくる
災害時の具体的な行動が分からない	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内での災害時の訓練の実施 ・サービス等利用計画の中に災害時の対応についても盛り込み、本人・関係者で共有する
通所先が限定され、他者との関係性が薄い	<ul style="list-style-type: none"> ・他の就労継続支援 B 型事業所との連携により、交流の機会を拡大 ・学校を卒業後しても、教師や同級生とつながることができるコミュニティづくり

(3) 主に知的障害者が利用する生活介護事業所のインタビュー調査結果

現状・課題	考えられる対応策
コロナウイルスの影響で、外出を望む利用者が多い	<ul style="list-style-type: none"> ・施設向けの費用補助等の旅行支援の実施 ・ガイドヘルパーの充実
相談相手が限られている	<ul style="list-style-type: none"> ・区内の大学との連携 ・対等な関係性の友人ができる環境づくり
仕事の種類が限られており、希望通りの仕事できていない	<ul style="list-style-type: none"> ・就労体験の場を設けて、作業の選択肢を増やし、利用者自身で仕事を選択できる場の拡大

(4) 共同生活援助(グループホーム)事業所のインタビュー調査結果

現状・課題	考えられる対応策
日常生活への満足感を得ている	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームの量的拡大により、区内の利用者の増加をねらう
相談支援体制の充実が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームを中心とした相談ネットワークの確保
知的障害者はグループホームの生活に満足しており、精神障害者はグループホームを通過して、地域生活に移行していく	<ul style="list-style-type: none"> ・通過施設となるグループホームの充実により、居住者が流動化することで、新たな利用者の掘り起こし

(5) 主に知的障害者が利用する都外入所施設のインタビュー調査結果

現状・課題	考えられる対応策
友人や知人と関係継続・再会する場の設定の必要	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した交流を実現するための支援や環境づくり ・区による訪問の機会の確保や定期的な連絡
生活体験の機会拡大による意向の模索	<ul style="list-style-type: none"> ・区内グループホーム等への宿泊や外出の機会を設ける等、体験の機会の創出
プライバシーを確保した居場所となり得る居室環境の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが思い思いの生活を過ごすことができる環境設定(多床室→一人部屋への転換等)
本人から音信不通な親族の居所に対する心配の声	<ul style="list-style-type: none"> ・行政の強みを活かした緊急時等の迅速な連絡体制の構築
施設完結に留まらない自立生活の総合支援計画の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者が一堂に会し、本人の今後の生活について考える意思決定支援会議の開催
対象者の規模を広げた継続調査の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・継続した聞き取りの実施